

2010年度 修士論文

スポーツ中継の地上波放送と有料放送における  
実況の違いに関する内容分析

the difference of the commentary between  
ground-wave television and pay channel on sport  
broadcasting

早稲田大学 大学院スポーツ科学研究科

スポーツ科学専攻 スポーツ文化研究領域

5009A077-9

松本 圭祐

Matsumoto, Keisuke

研究指導教員： リー・トンプソン教授

## 目次

|                        |    |
|------------------------|----|
| 1. 序論                  | 1  |
| 2. 方法                  | 6  |
| 3. 結果                  | 10 |
| 3-1. 全体                | 10 |
| 3-2. 実況者の行った言及について     | 23 |
| 3-3. 解説者の行った言及について     | 31 |
| 3-4. 勝ちチームに対する言及について   | 39 |
| 3-5. 負けチームに対する言及について   | 48 |
| 3-6. 引き分けチームに対する言及について | 56 |
| 4. 考察                  | 65 |
| 5. まとめ                 | 68 |
| 6. 参考文献                | 69 |

## 1. 序論

本論では、2010 年に南アフリカで開催された FIFA ワールドカップ 2010 において地上波における実況中継と有料放送の比較を試みた。

見るスポーツ、特にテレビ等のメディアを通したメディアスポーツ需要は年々隆盛する傾向にある。インターネットの普及などでテレビを見る人が減ってきたと言われる今も、スポーツは高い視聴率を上げられるコンテンツである。

表 1 は、テレビ放送の視聴率調査を行っているビデオリサーチ社のウェブサイト<sup>1)</sup>の表を基に作成した関東地区における歴代の高世帯視聴率番組のトップ 10 である。

表 1. 歴代の公世帯視聴率番組トップ 10 (視聴率調査を開始した 1962 年 12 月 3 日から 2010 年 7 月 7 日まで、関東地区)

| 番組名                                  | 放送日        | 放送局   | 世帯視聴率 (%) |
|--------------------------------------|------------|-------|-----------|
| 1 第14回NHK紅白歌合戦                       | 1963.12.31 | NHK総合 | 81.4      |
| 2 東京オリンピック(女子バレー・日本×ソ連 ほか)           | 1964.10.23 | NHK総合 | 66.8      |
| 3 2002FIFAワールドカップ™グループリーグ・日本×ロシア     | 2002.6.9.  | フジテレビ | 66.1      |
| 4 プロレス(WWA 世界選手権・デストロイヤー×力道山)        | 1963.5.24  | 日本テレビ | 64        |
| 5 世界バンタム級タイトルマッチ(ファイティング原田×エデル・ジョフレ) | 1966.5.31  | フジテレビ | 63.7      |
| 6 おしん                                | 1983.11.12 | NHK総合 | 62.9      |
| 7 ワールドカップサッカーフランス'98日本×クロアチア         | 1998.6.20  | NHK総合 | 60.9      |
| 8 世界バンタム級タイトルマッチ(ファイティング原田×アラン・ラドキン) | 1965.11.30 | フジテレビ | 60.4      |
| 9 ついに帰らなかった吉展ちゃん                     | 1965.7.5   | NHK総合 | 59        |
| 10 ミュンヘンオリンピック                       | 1972.9.8   | NHK総合 | 58.7      |

ビデオリサーチのデータを基に作成

歴代の高視聴率番組 10 本のうち、7 本をスポーツ関連が占めており、そのうち 7 本全てが国際大会や世界戦といった、「日本が海外と戦う」という構図のものである。

さらに、表 2 にビデオリサーチウェブサイト<sup>2)</sup>の表を基に作成した関東地区における 2009 年の 1 年間に世帯視聴率 30%を超えた番組を示した。2009 年の 1 年間に視聴率が 30%を超えた番組は 9 本あったが、そのうち 5 本をスポーツ中継が占めている。また、そのうち 5 本全てが国際大会や世界戦となっている。

表2. 2009年に世帯視聴率30%を超えた番組(2009年1月1日～2009年12月31日、関東地区)

| 番組名                          | 放送日   | 放送局   | 世帯視聴率(%) |
|------------------------------|-------|-------|----------|
| 1 WBC世界フライ級タイトルマッチ・内藤大助×亀田興毅 | 11.29 | TBS   | 43.1     |
| 2 第60回NHK紅白歌合戦               | 12.31 | NHK総合 | 40.8     |
| 3 WBC 第2ラウンド日本×韓国            | 3.2   | TBS   | 40.1     |
| 4 WBC 第1ラウンド日本×韓国            | 3.7   | テレビ朝日 | 37.8     |
| 5 第60回NHK紅白歌合戦               | 12.31 | NHK総合 | 37.1     |
| 6 WBC決勝 決勝・日本×韓国             | 3.24  | TBS   | 36.4     |
| 7 WBC 第1ラウンド・日本×韓国           | 3.9   | テレビ朝日 | 33.6     |
| 8 24時間テレビ32愛は地球を救うPART11     | 8.3   | 日本テレビ | 31.1     |
| 9 情報7daysニュースキャスター           | 8.8   | TBS   | 30.4     |

ビデオリサーチのデータを基に作成

このように、スポーツ中継はテレビのコンテンツとしてなくてはならないものとなっている。杉山<sup>3)</sup>は著書「テレビスポーツ 50 年」の中で、今日のスポーツ中継の定着化・グローバル化に至る契機として、1936 年オリンピックベルリン大会を挙げている。オリンピックベルリン大会では、ドイツの総統アドルフ・ヒットラーが「テレビジョン」という画期的な試みを実現させた。当時イギリスがテレビジョンの実用化に向けて、僅かながら先行していると見られていたが、ヒットラーはその遅れを一気に取り戻し、全世界にその先進を誇るのにオリンピックを絶好の機会ととらえた。ナチスの手によってすべてが仕切られたこの大会への評価は、後年必ずしも高く好ましいものばかりではない。しかし、「テレビジョン」に限って言えば、それは正しく新しい時代のスポーツと社会を結びつける歴史的なスタートを刻んだことになる。

海老塚<sup>4)</sup>によると、世界初のサッカーのテレビ放送は、英国の BBC によって 1938 年に実現した。BBC が中継したのは FA カップ・ファイナルである。当時あらゆる番組は生中継だった。テレビ、ラジオと言った電波メディアと活字メディアを隔てる最も大きな相違はライブ性である。活字ではそのプロセス上、ライブは不可能だからだ。大型のスポーツイベントを語る時、必ずと言っていいほど「全世界をカバーする」という修飾語が付く。現在では疑う余地もなく、当たり前のことだが、その技術インフラは 60 年代前半にアメリカのベル研究所が開発した能動型通信衛星、テススターが NASA により周回軌道上に打ち上げられたことなどによって完成したと海老塚は述べている。

日本においては、ラジオ放送によるスポーツ中継が 1927 年 8 月 13 日に始まった。それは、甲子園球場からの第 13 回全国中等学校(＝現・高校)優勝野球大会第 1 日第 1 試合・札幌一中対青森師範であった。この放送は「NHK 大阪制作」で「同東京制作」は野球、水泳などを経て、1928 年 1 月 12 日の大相撲春場所(現・初場所)で本格化する<sup>5)</sup>。

ラジオのスポーツ放送は、内外に名アナウンサーを輩出した。その美声と名文句が、遠く離れた競技場との空間を一举に身近なものとし、スポーツの発展を助けた<sup>6)</sup>。

日本で初めてのテレビでのスポーツ中継は、1953年4月12日（11日の予定だったが雨で1日遅れた）の東京六大学野球、東京大学対明治大学だった。その年の8月13日には高校野球が初めて放送され、8月23日にはプロ野球が初めて放送された<sup>7)</sup>。

スポーツ中継はその後、国外のスポーツイベントの中継をもって拡大する。サッカー、ワールドカップのピッチを初めてテレビが映し出したのは1954年スイスで開かれた第5回大会である。この大会では、8か国への伝送が実現した。ヨーロッパ全土にいきわたったわけではないが、ワールドカップの熱狂は、テレビの生中継によって国境を超えた<sup>8)</sup>。FIFA（国際サッカー連盟）公式ウェブサイト<sup>9)</sup>によると、2006年のドイツ大会は世界214の国と地域で放送され、テレビ観戦者数は延べ253億人。放映時間は延べ73,072時間に及んでいる。

ワールドカップを日本で初めて中継したのは、1970年5月～6月のメキシコワールドカップを中継した東京12チャンネル（現・テレビ東京）だった<sup>10)</sup>。日本が出場しなかった大会により、視聴率は思わしくなかったと言われているが、1998年に開かれたフランス大会に日本代表が出場して以降は、日本戦を中心に視聴率は上昇傾向にあり、それに伴い放映権料の高騰も大会のたびに大きな話題となる<sup>11)</sup>。

今年開かれたFIFAワールドカップ2010での日本対パラグアイ戦では、平均視聴率が57.3%を記録した<sup>12)</sup>。また、有料放送チャンネルがスポーツを目玉に加入世帯の増加を図る動きがある<sup>13)</sup>。

ここまでスポーツ中継の歴史を振り返ってきたが、杉山<sup>14)</sup>が述べているように、映像が充実する中で、テレビの音声部分（アナウンスメント）も、研究が求められる課題である。視聴者によるコメンテーター（解説者）、アナウンサー、リポーターなどへの好みは、時代、内外を問わず千差万別であると述べている。今回は、このFIFAワールドカップ2010で行われた実況・解説の会話分析を行う。

スポーツ実況やスポーツ中継に関する記述、論述として、杉山<sup>15)</sup>は、視聴者によるコメンテーター（解説者）、アナウンサー、リポーターなどへの好みは、時代、内外を問わず千差万別であると述べている。そのアナウンサーと解説者への評価の評価基準に関して、永瀬<sup>16)</sup>は、アナウンサーに対しては「解説者とのコンビネーションの良さ」、「説明内容の適切さ」、「説明の自然さ」、「気になるような表現の少なさ」などが評価の基準になっていて、解説者の評価には「解説者としての役割の適切さ」、「声の調子の良さ」、「適切な態度」、「アナウンサーとの対応の速さ」、「感情移入の適切さ」などが評価基準になっていると述べている。森田<sup>17)</sup>は、スポーツは一般的に悪いイメージがなく、テレビは「健康」で「健全」な活動を伝えられ、ときにはひとつになった国の姿を伝えられるとスポーツ中継がもたらすナショナリズムに関して述べており、メディアは私たちに「物語」を語り、その原因や動機や意味を解釈して語り、男性には男らしさを、女性には女らしさを、日本人には工夫や技

術、欧米の選手にはパワーや身体能力を前提に語られると述べている。Bryant ら<sup>18)</sup>は、視聴者の興味を高めるためにドラマが実況アナウンサーによって戦略的に用いられていると述べ、Comiskey ら<sup>19)</sup>は実況によって作られた興奮が、興奮に欠ける試合を誤魔化す役割を果たしていると述べている。日本人の研究者で、日本におけるスポーツ実況に関する文献として、深沢<sup>20)</sup>は、全国高校サッカー選手権決勝戦を例に、攻撃的なチーム、守備的なチームと対戦する両チームを描いたり、選手の一高校生としての側面を前面に出したりすることによって、物語を作っていると述べている。実況アナウンサーは「現在」の試合を描写しながらもそこには事前の取材によって入手した「過去」の情報を織り込み、「未来」となる勝敗を予想して「物語」を構築しようとする。高校スポーツ中継を取り上げたため、「最後の大会」「感謝」「地域の代表」「教育の一環」など青春につながるイメージが強調される傾向もみてとれたと述べている。物語化したスポーツ中継は、視聴者からすればスポーツの知識がなくても楽しめるため、スポーツのとっつきやすさに結びつく。特定のストライカーを主人公に設定して終始注目する手法は、視聴者にとっては、送り手側が試合の枠組みを提示してくれるだけに「わかりやすさ」を提供してもらえる。その一方で、それ以外の選手は脇役へと追いやられていくとして、「物語」としてのスポーツ実況は問題点も抱えていると指摘し、今後の課題として、プロスポーツと比較して言説にはどのような差異があるのか、国際大会と比較してみてもどうか、放送局による違いがあるのかどうかなどを探る必要もあると提起している。西本ら<sup>21)</sup>は、野球、競馬、サッカーの実況中継を分析し、実況アナウンサーの言語的特長やテレビ実況とラジオ実況の違いを調査している。日吉<sup>22)</sup>は、日本で行われたサッカーワールドカップの試合中継における実況アナウンスの内容分析を行い、競技プレーについて語る際には客観的な方法によって実況アナウンスがなされながら、選手など人物について語る際には選択的な描写がなされていることや、実況アナウンスには、グローバル化と言うサッカー文化に見られる現象や、ローカルメディアとしての特徴、メディアとしてイベントを演出する姿勢などが反映していたということを明らかにしている。

日吉が調査対象としたサッカーの中継が、日本で行われている大会で、地上波で放送されているため、視聴者としてのターゲットがあまりサッカーに詳しくない人たちであることが考えられる。選手の容姿や過去の業績といった、あまりサッカーに詳しくない人に向けた情報に言及する回数が必然的に多くなるのではないかと私は考えた。

一般的に地上波放送に比べて、有料放送は、スポーツファン向けに作られていると言われている<sup>23)</sup>。その中で、実況者・解説者の話す言葉には、地上波放送と比べてどのような違いがあるのだろうかということに関心を持った。そこで本研究では、地上波と有料放送の両方で同じ映像を使いながら、実況者が違う放送に日吉の用いた分類方法をあてはめ、比較することにより、地上波放送と有料放送で行われているスポーツ実況の違いの一端を明らかにしたい。

---

<sup>1)</sup> ビデオリサーチ社ホームページ 全局高世帯視聴率番組 50、

---

<http://www.videor.co.jp/data/ratedata/all50.htm>、2011年1月4日閲覧

- 2) ビデオリサーチ社ホームページ 2009 年年間公世帯視聴率番組 30(関東地区)、  
<http://www.videor.co.jp/data/ratedata/best30.htm>、2011年1月4日閲覧
- 3) 杉山茂、2003、『テレビスポーツ 50 年』、12-14、角川インタラクティブメディア
- 4) 海老塚修、2001、『スポーツマーケティングの世紀』、42-47、電通
- 5) 杉山茂、2003、『テレビスポーツ 50 年』、20、角川インタラクティブメディア
- 6) 杉山茂、2003、『テレビスポーツ 50 年』、21、角川インタラクティブメディア
- 7) 同上、48
- 8) 杉山茂、2003、『テレビスポーツ 50 年』、45、角川インタラクティブメディア
- 9) FIFA、<http://www.le.ac.uk/snccfr/resources/>、2011年1月4日閲覧
- 10) 杉山茂、2003、『テレビスポーツ 50 年』、123、角川インタラクティブメディア
- 11) 同上、338
- 12) 朝日新聞、(プロ野球クライシス：中) テレビ依存、曲がり角、2010年12月16日、スポーツ面
- 13) 日経産業新聞、「有料放送、スポーツ前面に」、2010年11月12日、7
- 14) 杉山茂、2003、『テレビスポーツ 50 年』、344、角川インタラクティブメディア
- 15) 杉山茂、2003、『テレビスポーツ 50 年』、344、角川インタラクティブメディア
- 16) 永瀬治郎、1999、「スポーツ中継アナウンサーと解説者の評価について」、『専修国文』、65、1-16.
- 17) 森田浩之、2009、メディアスポーツ解体―“見えない権力”をあぶり出す、NHK ブックス、14-15
- 18) Bryant, J., Comiskey, P. And Zillmann, D. ; Drama in sports commentary, Journal of Communication, 27(3), 1977
- 19) Comiskey, Paul, Bryant, Jennings and Zillmann, Dolf; Commentary as a substitute for action ,Journal of Communication, 27(3)
- 20) 深沢弘樹、2010、スポーツ実況中継における「物語」―全国高校サッカー選手権決勝戦を例に―、山梨学院大学経営情報学論集、16
- 21) 西本卓也、光部杏里、渡辺隆行、「ラジオ放送番組におけるスポーツ実況中継の分析」『電子情報通信学会技術研究報告』106(57), 2006
- 22) 日吉昭彦、2003、「テレビ中継は何を語ったか」、『ワールドカップのメディア学』、173-198、大修館書店
- 23) 日本経済新聞、「有料放送の競争激化」、2010年10月14日、11

## 2.方法

2010年6月11日から7月11日にかけて行われたサッカーの世界大会である、2010FIFAワールドカップの試合中継のうち、予選リーグの11試合を分析対象とした。地上波テレビ放送と有料放送によるワールドカップの「実況中継」番組の両方を対象に、試合の模様を中継する「アナウンサー」や「解説者」、「ゲスト」など（以下、「言及者」）が、試合を担った選手や監督など（以下、「人物」）に言及した実況アナウンスを分析した。分類方法として日吉<sup>24)</sup>が考案したものを用いた。分類方法を表3に示した。

表3. 分類方法

| 調査項目  |             | 分類項目                                                                                                                                                    | 事例                                                                                                                                                |
|-------|-------------|---------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|---------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 人物名   |             |                                                                                                                                                         |                                                                                                                                                   |
| 言及者   |             | アナウンサー                                                                                                                                                  |                                                                                                                                                   |
|       |             | 解説者                                                                                                                                                     |                                                                                                                                                   |
|       |             | ゲスト                                                                                                                                                     |                                                                                                                                                   |
| 説明の有無 |             | 1.人物名のみ                                                                                                                                                 |                                                                                                                                                   |
|       |             | 2.説明あり                                                                                                                                                  |                                                                                                                                                   |
| 説明の内容 | 「帰属」に関する内容  | 1.身体的特性1(外面)<br>2.身体的特性2(内面)<br>3.過去の業績<br>4.所属<br>5.スポーツ能力<br>6.ファッション<br>7.チームにおける役割<br>8.体調やけが<br>9.家族や血縁<br>10.出身や人種・エスニシティ<br>11.パーソナリティ<br>12.その他 | 長身<br>まだ若い<br>得点王に輝いた<br>イングランドはプレミアリーグで<br>スピードがある<br>スキンヘッド<br>キャプテン<br>昨年、大けがをした<br>父も有名な選手だった<br>ブラジルから帰化<br>ほがらかな性格                          |
|       | 「プレー」に関する内容 | 1.ボールの動き<br>2.攻撃や守備<br>3.対人関係<br>4.体勢や存在<br>5.コーナーやフリーキックなど<br>6.シュートや得点<br>7.反則やファール<br>8.交代や治療<br>9.シーンや演出<br>10.その他                                  | うまいボールさばき<br>攻撃で生きている<br>コンビがいい<br>前で狙っている<br>フリーキックを蹴るのは…<br>素晴らしいシュート<br>ファールを犯しました<br>一旦ピッチの外に<br>勝利へ大きな貢献                                     |
|       | 言及者の用いた知覚方法 | 1.認知的方法<br>2.情動的方法<br>3.一般他者の認知による方法                                                                                                                    |                                                                                                                                                   |
|       | 人物の心理描写の内容  | 1.行動の叙述の表現<br>2. 思考                                                                                                                                     |                                                                                                                                                   |
|       | 言及者の考えや意見など | 1.賞賛<br>2.コメントの引用<br>3.理解を示す<br>4.疑問を提示する<br>5.共感<br>6.シンパシー<br>7.応援<br>8.期待<br>9.示唆<br>10.意見<br>11.仮定の状況の言及<br>12.エラーの言及<br>13.注目すべき選手の言及              | 素晴らしい<br>～と話していました<br>あれで良かったと思う<br>どうでしょう？<br>惜しい！<br>かわいそう<br>がんばってほしい<br>～に期待<br>ここは引くべきですね<br>～と思う<br>もしもAならBになる<br>明らかにキーパーのミス<br>今日はフィーゴに注目 |

2010 年 6 月 11 日から 7 月 11 日にかけて放映された「実況中継」番組は地上波で 44 試合、有料放送で 64 試合あるが、出場チームごとに、最初に放映された対戦に限定して分析を行った。これは勝敗や複数回の放映が、「前の試合では～だった」という実況を誘発したり、前の試合での勝敗が実況に影響を与えたりといったことが考えられ、実況アナウンスの変化に及ぼす影響をデータから取り除くためである。これにより、調査対象を全 11 試合 22 チーム分とした。有料放送は今回、「スカパー！」により放送されたものを対象とした。表 4 は調査対象となった番組である。

表 4. 分析対象となった番組

| 日付    | 対戦カード            | 放送局   | アナウンサー | 解説者        |
|-------|------------------|-------|--------|------------|
| 6月11日 | 南アフリカ 対 メキシコ     | NHK   | 曾根優    | 福西崇史       |
|       |                  | スカパー！ | 八塚浩    | 都並敏史       |
| 6月11日 | ウルグアイ 対 フランス     | テレビ東京 | 小島秀公   | 前園真聖、長谷川健太 |
|       |                  | スカパー！ | 中村義昭   | 柱谷幸一       |
| 6月12日 | 韓国 対 ギリシャ        | NHK   | 町田右    | 早野宏史       |
|       |                  | スカパー！ | 加藤暁    | 川本治        |
| 6月12日 | アルゼンチン 対 ナイジェリア  | フジテレビ | 青嶋達也   | 清水秀彦       |
|       |                  | スカパー！ | 下田恒幸   | 反町康治       |
| 6月12日 | イングランド 対 アメリカ    | NHK   | 松野靖彦   | 三浦俊也       |
|       |                  | スカパー！ | 倉敷保雄   | 川勝良一       |
| 6月13日 | セルビア 対 ガーナ       | NHK   | 松野靖彦   | 三浦俊也       |
|       |                  | スカパー！ | 八塚浩    | 三浦泰年       |
| 6月14日 | オランダ 対 デンマーク     | NHK   | 曾根優    | 奈良橋晃       |
|       |                  | スカパー！ | 寺西裕一   | 関塚隆        |
| 6月14日 | 日本 対 カメルーン       | NHK   | 野地俊二   | 山本昌邦       |
|       |                  | スカパー！ | 下田恒幸   | 反町康治       |
| 6月15日 | コートジボワール 対 ポルトガル | NHK   | 町田右    | 早野宏史       |
|       |                  | スカパー！ | 八塚浩    | 高木琢也       |
| 6月16日 | ホンジュラス 対 チリ      | TBS   | 土井敏之   | 金田喜稔       |
|       |                  | スカパー！ | 田中雄介   | 羽中田昌       |
| 6月16日 | スイス 対 スペイン       | フジテレビ | 森昭一郎   | 山口素弘       |
|       |                  | スカパー！ | 倉敷保雄   | 鈴木淳        |

「実況中継」番組の構成は、ゲームの模様を中継する「実況・解説」部分に加えて、通常はスタジオ等からのトークショーなども含まれているが、本調査では「実況・解説」部分以外は除外し、さらにサッカーの試合における「90 分間とアディショナルタイム」のみの分析を行った。分析の開始を「今、前半が開始されました。」といった文言から開始し、「ここで試合終了の笛」といった実況を以て分析終了とした。

この調査において分析した実況アナウンスは、試合を担った「人物」について、具体的に人名を挙げて言及したアナウンスのみである。試合を担った人物とは、調査対象となった番組で出場した選手・監督に加え、チームに所属するあるいはしていた人物とチーム関係者である。チームに所属しない「来賓」などへの言及は扱っていない。特定チーム分析中に、他チームの選手名が言及された場合も分析対象外である。また、チームに関する話題

などは分析から除外してある。1 チーム 1 人あたりの平均言及回数を上回って言及された人物のことを「言及回数の多い人物」と定義した。チームごとに言及された人物の人数と、人物への言及回数を集計し、1 チーム 1 人あたりの平均言及回数を算出し、その平均からの差を人物ごとに見ていくと、その試合で数多く言及されていた人物がわかる。これは言及者の選択的知覚によって、中継放送中に注目されることになった選手である。

実況アナウンスを作成した調査項目によって分類・コード化し、定量的な内容分析を行った。実況アナウンスを説明として意味をなす単位に区切ったものを分析単位にし、1 単位中に含まれる内容をコーディングした。説明として意味をなす単位とは、一つ以内の行動や業績などについての説明をさす。通常はアナウンサーと解説者の短いやり取りが中心となる。単位は分析項目からも構成される。ある選手に対してアナウンサーが、比較的長い説明を行った場合、行動について評価した後に、過去の業績について説明をする場合がある。こうした場合は、この選手は 2 回言及されたことになる。また、一度ある選手に関しての言及を行う際、2 つ以上の情報を込めて発言する場合がある。その場合は、その選手の名前を呼んだ言及回数は 1 回とカウントし、その情報を分類する単位にそれぞれ 1 回とカウントする。これらを集計し、地上波と有料放送の比較を行った。

「人物名」「言及者」、人物に関する「説明の有無」などの項目は、試合中に実況アナウンサーが誰についてどのくらい説明したのかを分析するものである。繰り返し名前が連呼された選手や、説明や解説が多く加えられる選手などを集計することで、1 試合で注目された選手、つまりアナウンサーが誰について選択的に知覚しているのかが分かる。なお、「人物に関する説明の有無」は、人物に対する形容や心情、意思を含む「説明」が加えられているかどうかで分類した。背番号やポジションのみの説明など、信条や意思を含む行動叙述のない動きの描写に関しては、「説明あり」から除外してある。その他の項目は、実況アナウンスが何をどのように語ったのかを分析する項目である。これらの項目で主に実況アナウンスの客観性について分析する。

なお、実況アナウンスを一種の対人知覚の一つととらえたアプローチから、「人物」を「説明」する際の、「言及者」が用いた知覚方法についての分類を行っている。それが「言及者の用いた知覚方法」や「人物の心理描写の内容」である。

「認知的方法」とは、おもに視覚により試合を通じて得られた情報や、持ち合わせている既存の知識によって「人物」を知覚し表出する「説明」のことである。行動や状態、帰属に関する評価的側面で、選手の「意志や心的状態/自己認知」とは関連しないものである。「技術力が高いブラジルらしい」のような個人的な特性、「コンビネーションがとれている」などのプレーへの評価、「若いベテラン」のような人の性質ではあるが表出しない性質の説明から、「輝きを放つ迫力がある」のような状況説明までを含む。主に「～な」「～の」「～のような」人物というように言い換えができる表現である。

「情動的方法」とは、主観的で感情的な知覚のみを表出する「説明」のことである。対象が示されない力量的評価の表出であり、「すばらしい/すごい」など感情的な認知を表出し

ただけのものを指す。

「一般他者の認知による方法」とは、おもに一般的に言われていることと、他者によりすでに定着している評価などの知識によって「人物」を知覚表出する「説明」のことである。「～といわれている」のような表現がその代表である。

また「人物」の心理描写がなされた場合の内容を、「言及者」が用いた知覚方法によって「行動の叙述の表現」と「思考」の2項目に分類した。「行動の叙述の表現」とは、「言及者」が観察可能な行動と導かれる心理状況について、「人物」を主体として表出した「説明」のことである。行動や状態から導かれる心理的推測であり、「要求する/狙う/喜んでいる」のような例が代表である。「思考」とは、「人物」が発話したであろう言葉を推測によって代理的に「言及者」が「説明」するものである。「上がってくれ、と言いたかった」のような例が代表である。なお、日吉の作成した分類項目ではこの項目は「心理描写」となっているが、項目名の重複が起き、また、実際に発話したであろう言葉を推測するという、人物の心理だけを描いているわけではないという2つの理由からこの項目名は本研究では「思考」という分類名にした。

これらの調査項目をもとに、地上波放送と有料放送の比較を全チームと対象にしたもの、実況者と解説者をわけたもの、試合の結果別にわけたものを比較した。地上波放送と有料放送の比較を行う際、両群に統計的な検定を用いたが、2群間の比較には松原<sup>25)</sup>の著書「わかりやすい統計学」に掲載されている方法を用いた。

---

<sup>24)</sup> 日吉昭彦、2003、「テレビ中継は何を語ったか」、『ワールドカップのメディア学』、173-198、大修館書店

<sup>25)</sup> 松原望、1996、『わかりやすい統計学』、93-95

### 3. 結果

#### 3-1. 全体について

##### 3-1-1.集計

まず、「人物名」、「言及者」、「説明の有無」の項目の集計結果を見てみたい。人物名の集計から、1試合で言及された人物の人数、各人物への言及回数、言及回数の多い人物の人数などをチーム別・地区分類別に集計し表5と表6に示した。表5は地上波での人物の言及、説明の有無、言及者を示し、表6は有料放送での人物の言及、説明の有無、言及者を示している。

表5. 地上波における人物の言及、説明の有無、言及者

|       |          | 人数(人) | 回数(回)  | 平均言及回数(回) | 言及の多い人物の人数(人) | 説明あり(%) | 解説者の言及(%) |
|-------|----------|-------|--------|-----------|---------------|---------|-----------|
| アジア   | 日本       | 19    | 475    | 25.0      | 7             | 50.9%   | 14.3%     |
|       | 韓国       | 15    | 426    | 28.4      | 8             | 43.7%   | 4.0%      |
|       | アジア合計    | 34    | 901    |           | 15            |         |           |
|       | アジア平均    | 17    | 450.5  | 26.5      | 7.5           | 47.3%   | 9.1%      |
| ヨーロッパ | フランス     | 16    | 344    | 21.5      | 7             | 26.5%   | 5.1%      |
|       | イングランド   | 17    | 537    | 31.6      | 7             | 43.0%   | 6.0%      |
|       | ギリシャ     | 17    | 224    | 13.2      | 7             | 41.5%   | 6.3%      |
|       | セルビア     | 15    | 306    | 20.4      | 6             | 48.0%   | 4.9%      |
|       | オランダ     | 18    | 358    | 19.9      | 9             | 55.0%   | 20.4%     |
|       | デンマーク    | 16    | 189    | 11.8      | 6             | 64.6%   | 24.9%     |
|       | ポルトガル    | 16    | 416    | 26.0      | 4             | 28.8%   | 5.7%      |
|       | スペイン     | 22    | 710    | 32.3      | 12            | 41.7%   | 4.4%      |
|       | スイス      | 17    | 363    | 21.4      | 9             | 61.2%   | 5.2%      |
|       | ヨーロッパ合計  | 154   | 3447   |           | 67.0          |         |           |
|       | ヨーロッパ平均  | 17.1  | 383.0  | 22.0      | 7.4           | 45.6%   | 9.2%      |
| 北中米   | アメリカ     | 14    | 296    | 21.1      | 6             | 42.6%   | 2.4%      |
|       | メキシコ     | 15    | 255    | 17.0      | 6             | 58.0%   | 14.5%     |
|       | ホンジュラス   | 16    | 182    | 11.4      | 6             | 58.8%   | 15.4%     |
|       | 北中米合計    | 45    | 733.0  |           | 18            |         |           |
|       | 北中米平均    | 15    | 244.3  | 16.5      | 6             | 53.1%   | 10.8%     |
| 南米    | ウルグアイ    | 15    | 217    | 14.5      | 8             | 30.4%   | 15.5%     |
|       | アルゼンチン   | 16    | 538    | 33.6      | 7             | 30.9%   | 6.7%      |
|       | チリ       | 17    | 353    | 20.8      | 6             | 51.6%   | 15.9%     |
|       | 南米合計     | 48    | 1108.0 |           | 21            |         |           |
|       | 南米平均     | 16    | 369.3  | 23.0      | 7.0           | 37.6%   | 12.7%     |
| アフリカ  | 南アフリカ    | 15    | 190    | 12.7      | 4             | 60.5%   | 20.5%     |
|       | ナイジェリア   | 17    | 290    | 17.1      | 8             | 46.9%   | 2.1%      |
|       | ガーナ      | 17    | 301    | 17.7      | 6             | 41.2%   | 3.3%      |
|       | コートジボワール | 16    | 357    | 22.3      | 9             | 42.3%   | 3.4%      |
|       | カメルーン    | 16    | 241    | 15.1      | 3             | 54.8%   | 9.1%      |
|       | アフリカ合計   | 81    | 1379.0 |           | 30.0          |         |           |
|       | アフリカ平均   | 16.2  | 275.8  | 17.0      | 6.0           | 49.1%   | 7.7%      |
|       | 計        | 362.0 | 7568.0 |           | 151.0         |         |           |
|       | 平均       | 16.5  | 344.0  | 20.7      | 6.9           | 46.5%   | 9.5%      |
|       | 標準偏差     | 1.7   | 132.8  | 6.6       | 2.0           | 11.0%   | 6.8%      |

表6. 有料放送における人物の言及、説明の有無、言及者

|       |          | 人数(人) | 回数(回) | 平均言及回数(回) | 言及の多い人物の人数(人) | 説明あり(%) | 解説者の言及(%) |
|-------|----------|-------|-------|-----------|---------------|---------|-----------|
| アジア   | 日本       | 15    | 524   | 34.9      | 6             | 54.4%   | 8.6%      |
|       | 韓国       | 19    | 421   | 22.2      | 9             | 48.9%   | 10.7%     |
|       | アジア合計    | 34    | 945   | 15.0      |               |         |           |
|       | アジア平均    | 17.0  | 473   | 28.6      | 7.5           | 51.7%   | 9.6%      |
| ヨーロッパ | フランス     | 17    | 389   | 25.9      | 7             | 42.2%   | 5.1%      |
|       | イングランド   | 18    | 381   | 21.2      | 7             | 42.5%   | 12.6%     |
|       | ギリシャ     | 15    | 317   | 21.1      | 8             | 43.2%   | 10.1%     |
|       | セルビア     | 15    | 353   | 23.5      | 6             | 50.7%   | 5.7%      |
|       | オランダ     | 15    | 194   | 12.9      | 6             | 42.8%   | 14.9%     |
|       | デンマーク    | 16    | 157   | 9.8       | 8             | 45.9%   | 9.6%      |
|       | ポルトガル    | 17    | 300   | 17.7      | 8             | 51.0%   | 7.3%      |
|       | スペイン     | 16    | 598   | 37.4      | 9             | 17.9%   | 4.8%      |
|       | スイス      | 14    | 231   | 16.5      | 7             | 40.7%   | 6.5%      |
|       | ヨーロッパ合計  | 143   | 2920  | 66.0      |               |         |           |
|       | ヨーロッパ平均  | 15.9  | 324   | 20.7      | 7.3           | 41.9%   | 8.5%      |
| 北中米   | アメリカ     | 15    | 222   | 14.8      | 7             | 42.3%   | 9.9%      |
|       | メキシコ     | 15    | 241   | 16.1      | 6             | 53.5%   | 21.2%     |
|       | ホンジュラス   | 17    | 259   | 15.2      | 7             | 45.2%   | 5.4%      |
|       | 北中米合計    | 47.0  | 722   | 20.0      |               |         |           |
|       | 北中米平均    | 15.7  | 241   | 15.4      | 6.7           | 47.0%   | 12.2%     |
| 南米    | ウルグアイ    | 15    | 210   | 14.0      | 3             | 45.7%   | 6.7%      |
|       | アルゼンチン   | 20    | 552   | 27.6      | 8             | 34.1%   | 6.7%      |
|       | チリ       | 16    | 449   | 28.1      | 6             | 41.2%   | 6.9%      |
|       | 南米合計     | 51.0  | 1211  | 17.0      |               |         |           |
|       | 南米平均     | 17.0  | 404   | 23.2      | 5.7           | 40.3%   | 6.8%      |
| アフリカ  | 南アフリカ    | 18    | 180   | 10.0      | 6             | 56.1%   | 18.3%     |
|       | ナイジェリア   | 16    | 377   | 23.6      | 8             | 46.7%   | 6.6%      |
|       | ガーナ      | 17    | 278   | 16.4      | 7             | 49.3%   | 10.1%     |
|       | コートジボワール | 15    | 266   | 17.7      | 8             | 57.1%   | 7.9%      |
|       | カメルーン    | 16    | 399   | 24.9      | 9             | 44.6%   | 5.5%      |
|       | アフリカ合計   | 82    | 1500  | 38        |               |         |           |
|       | アフリカ平均   | 16.4  | 300   | 18.5      | 7.6           | 51%     | 10%       |
|       | 計        | 357   | 7298  |           | 156.00        |         |           |
|       | 平均       | 16.2  | 331.7 | 20.5      | 7.1           | 45.3%   | 9.1%      |
|       | 標準偏差     | 1.5   | 123.9 | 7.3       | 1.4           | 8.3%    | 4.3%      |

以下、地上波、有料放送ともに1チームあたりの言及回数について述べていく。

表7に地上波、有料放送の言及人数、言及回数、言及の多い人物をまとめた。

表 7. 言及人数、言及回数、言及の多い人物

|      | 言及人数(人) | 言及回数(回) | 言及の多い人物(人) |
|------|---------|---------|------------|
| 地上波  | 16.5    | 344.0   | 6.9        |
| 標準偏差 | 1.7     | 132.8   | 2.0        |
| 有料放送 | 16.2    | 331.7   | 7.1        |
| 標準偏差 | 1.5     | 123.9   | 1.4        |

地上波で言及された人数は  $16.5 \pm 1.7$  人だった。有料放送で言及された人数は  $16.2 \pm 1.5$  人であった。両群間に統計学的な有意差はなかった。言及回数は地上波で  $344.0 \pm 132.8$  回で、有料放送で  $331.7 \pm 123.9$  回であった。言及回数に関しては両群間に有意差があった。両群の言及回数を図 1 に示した。

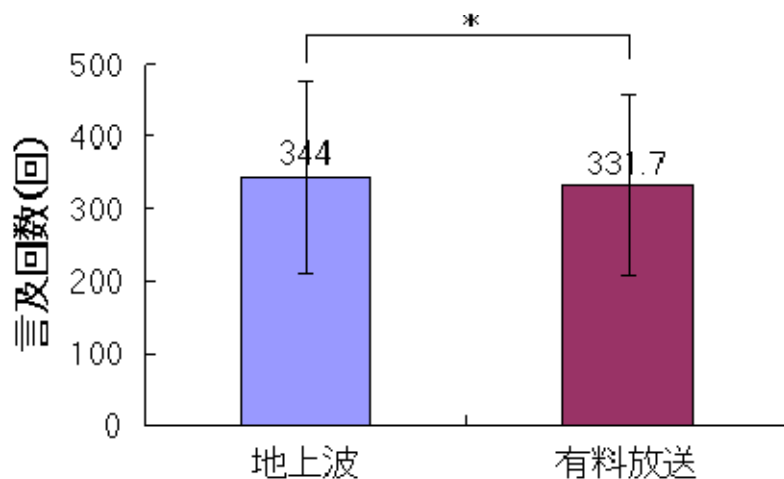


図 1. 言及回数

言及の多い人物の人数は、地上波で  $6.9 \pm 2.0$  人で有料放送では  $7.1 \pm 1.4$  人だった。両群間に有意差はなかった。

次に地区分類別に言及人数、言及回数、言及の多い人物の人数に関して 2 群間に関する統計学的な分析を行った。地区分類は FIFA の定める地区分類に従った。表 8 にこれらをまとめた。

表 8. 地区別に見た言及人数、言及回数、言及の多い人物の人数

|       | 言及人数(人) |      | 言及回数(回) |      | 言及の多い人物の人数(人) |      |
|-------|---------|------|---------|------|---------------|------|
|       | 地上波     | 有料放送 | 地上波     | 有料放送 | 地上波           | 有料放送 |
| アジア   | 17.0    | 17.0 | 26.5    | 28.6 | 7.5           | 7.5  |
| ヨーロッパ | 17.1    | 15.9 | 22.0    | 20.7 | 7.4           | 7.3  |
| 北中米   | 15.0    | 15.7 | 16.5    | 15.4 | 6.0           | 6.7  |
| 南米    | 16.0    | 17.0 | 23.0    | 23.2 | 7.0           | 5.7  |
| アフリカ  | 16.2    | 16.4 | 17.0    | 18.5 | 6.0           | 7.6  |

その結果、言及人数、言及回数には統計学的な有意差が見られなかった。「言及の多い人物」に関して、「アフリカ」で2群間に有意差が見られた。地域別の「言及の多い人物」を図2に示した。

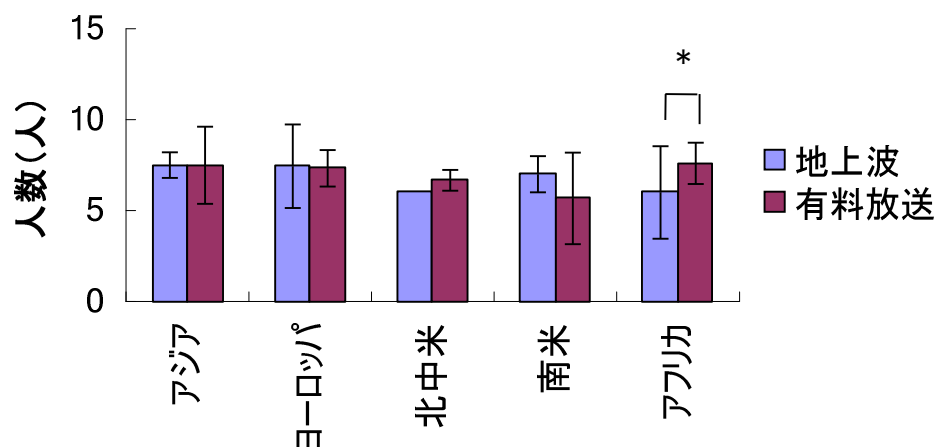


図2. 地域別に見た「言及の多い人物」

次にチーム内において言及回数の多い人物を見る。表9は、地上波における、言及回数の多い人物とチーム内で言及回数の占める割合の高い人物の上位10位である。また、表10は有料放送における、言及回数の多い人物とチーム内で言及回数の占める割合の高い人物の上位10位である。

表 9. 地上波において言及回数の多い人物

| 「人物」別にみた言及回数上位10位           |       |          |       |
|-----------------------------|-------|----------|-------|
| 順位<br>(位)                   | 人物名   | 国        | 回数(回) |
| 1.                          | メッシ   | (アルゼンチン) | 146   |
| 2.                          | Cロナウド | (ポルトガル)  | 110   |
| 3.                          | ルーニー  | (イングランド) | 98    |
| 4.                          | イニエスタ | (スペイン)   | 84    |
| 5.                          | サンチェス | (チリ)     | 82    |
| 6.                          | シャビ   | (スペイン)   | 81    |
| 7.                          | 本田    | (日本)     | 81    |
| 8.                          | ビジャ   | (スペイン)   | 73    |
| 9.                          | エトー   | (カメルーン)  | 72    |
| 10.                         | 松井    | (日本)     | 71    |
| チーム内で言及回数の占める割合の高い「人物」上位10位 |       |          |       |
| 順位<br>(位)                   | 人物名   | 国        | 割合(%) |
| 1.                          | エトー   | (カメルーン)  | 29.9% |
| 2.                          | ベントナー | (デンマーク)  | 27.5% |
| 3.                          | メッシ   | (アルゼンチン) | 27.1% |
| 4.                          | ピーナール | (南アフリカ)  | 26.7% |
| 5.                          | Cロナウド | (ポルトガル)  | 26.4% |
| 6.                          | サンチェス | (チリ)     | 23.2% |
| 7.                          | ギャン   | (ガーナ)    | 21.9% |
| 8.                          | ドノバン  | (アメリカ)   | 20.3% |
| 9.                          | ブランコ  | (メキシコ)   | 20.0% |
| 10.                         | ゲカス   | (ギリシャ)   | 18.3% |

表 10. 有料放送における言及回数の多い人物

| 「人物」別にみた言及回数上位10位           |          |          |       |
|-----------------------------|----------|----------|-------|
| 順位<br>(位)                   | 人物名      | 国        | 回数(回) |
| 1.                          | メッシ      | (アルゼンチン) | 118   |
| 2.                          | 本田       | (日本)     | 104   |
| 3.                          | サンチェス    | (チリ)     | 102   |
| 4.                          | イニエスタ    | (スペイン)   | 88    |
| 5.                          | テベス      | (アルゼンチン) | 74    |
| 6.                          | フォルラン    | (ウルグアイ)  | 68    |
| 7.                          | リベリー     | (フランス)   | 66    |
| 8.                          | セルヒオラモス  | (スペイン)   | 66    |
| 9.                          | Cロナウド    | (ポルトガル)  | 66    |
| 10.                         | ルーニー     | (イングランド) | 63    |
| 10.                         | 松井       | (日本)     | 63    |
| チーム内で言及回数の占める割合の高い「人物」上位10位 |          |          |       |
| 順位<br>(位)                   | 人物名      | 国        | 割合(%) |
| 1.                          | 本田       | (日本)     | 32.8% |
| 2.                          | フォルラン    | (ウルグアイ)  | 32.4% |
| 3.                          | サンチェス    | (チリ)     | 22.7% |
| 4.                          | クリスティアーノ | (ポルトガル)  | 22.0% |
| 5.                          | メッシ      | (アルゼンチン) | 21.4% |
| 6.                          | 松井       | (日本)     | 19.9% |
| 7.                          | 大久保      | (日本)     | 18.3% |
| 8.                          | ピーナール    | (南アフリカ)  | 17.8% |
| 9.                          | ドノバン     | (アメリカ)   | 17.1% |
| 10.                         | リベリー     | (フランス)   | 17.0% |

言及回数の上位 10 名同士の比較を行ったところ、地上波は  $89.8 \pm 23.2$  回で有料放送は  $79.8 \pm 19.8$  回であった。両群間に有意差は見られなかった。

### 3-1-2. 人物についての言及について

次に示すのは、人物についての説明内容と説明方法についての集計結果である。表 11 に地上波、有料放送の人物に対する説明が加えられた回数、帰属に関する言及回数、プレーに関する言及回数、認知方法を用いた言及回数、心理描写の回数、言及者の考えや意見を表明した回数をまとめた。

表 11. 人物に関する説明とその説明の内訳

|      | 説明(回) | 帰属(回) | プレー(回) | 知覚的(回) | 心理描写(回) | 考えや意見(回) |
|------|-------|-------|--------|--------|---------|----------|
| 地上波  | 160.0 | 45.1  | 83.5   | 10.0   | 5.9     | 15.7     |
| 標準偏差 | 51.5  | 17.5  | 36.9   | 7.0    | 3.8     | 8.3      |
| 有料放送 | 148.7 | 38.8  | 74.5   | 11.6   | 7.4     | 16.4     |
| 標準偏差 | 50.5  | 16.0  | 32.9   | 5.6    | 5.4     | 6.1      |

人物に対する説明が加えられたのは地上波で  $160.0 \pm 51.5$  回で、そのうち、帰属に関する言及が  $45.1 \pm 17.5$  回、プレーに関する言及が  $83.5 \pm 36.9$  回、認知方法が  $10.0 \pm 7.0$  回、心理描写が  $5.9 \pm 3.8$  回、言及者の考えや意見が  $15.7 \pm 8.3$  回だった。有料放送で人物に対する説明が加えられたのは  $148.7 \pm 50.5$  回で、帰属に関する言及は  $38.8 \pm 16.0$  回あり、プレーに関する言及が  $74.5 \pm 32.9$  回、認知方法が  $11.6 \pm 5.6$  回、心理描写が  $7.4 \pm 5.4$  回、言及者の意見や考えが  $16.4 \pm 6.1$  回あった。それぞれに有意差は見られなかった。図 3 に、人物に対する説明が加えられた回数を、図 4 にその説明の内訳として帰属、プレー、認知方法、心理描写、言及者の意見や考えを示した。

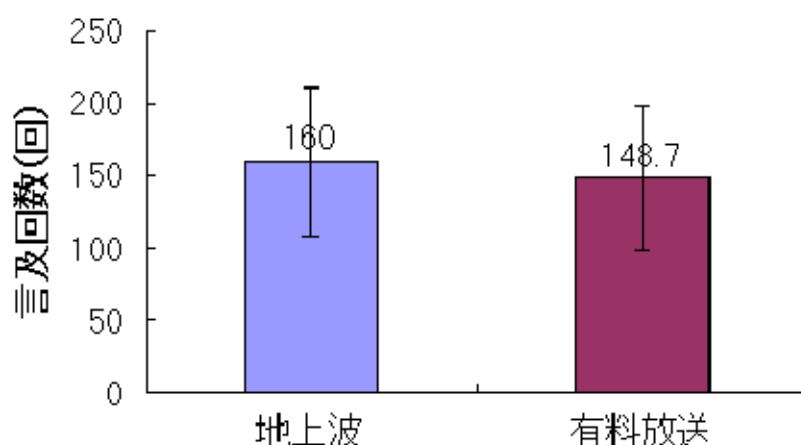


図 3. 人物に対して説明がなされた回数

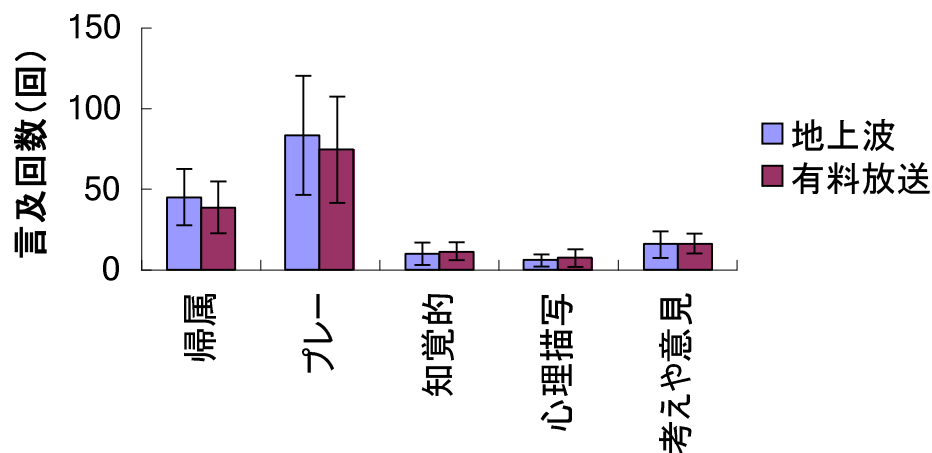


図 4. 人物になされた説明の内訳

### 3-1-3. 帰属に関する言及について

帰属に関する言及の内訳を表 12 にまとめた。

表 12. 帰属に関する言及

|      | 外見<br>(回) | 内面<br>(回) | 過去<br>(回) | 所属<br>(回) | 能力<br>(回) | ファッション<br>(回) |
|------|-----------|-----------|-----------|-----------|-----------|---------------|
| 地上波  | 4.7       | 5.0       | 5.9       | 8.8       | 11.3      | 0.5           |
| 標準偏差 | 3.4       | 5.9       | 6.0       | 7.0       | 5.8       | 0.7           |
| 有料放送 | 3.0       | 2.5       | 7.1       | 13.5      | 7.1       | 0.2           |
| 標準偏差 | 4.7       | 2.2       | 4.8       | 6.5       | 4.9       | 0.7           |

|      | 役割<br>(回) | 体調、ケガ<br>(回) | 家族や血縁<br>(回) | 出身や<br>人種・エ<br>スニシ<br>ティ(回) | パーソ<br>ナリティ<br>(回) | その他<br>(回) |
|------|-----------|--------------|--------------|-----------------------------|--------------------|------------|
| 地上波  | 5.9       | 1.9          | 0.4          | 0.5                         | 0.0                | 0.2        |
| 標準偏差 | 3.2       | 2.5          | 1.1          | 1.1                         | 0.0                | 0.4        |
| 有料放送 | 2.4       | 1.6          | 0.3          | 0.5                         | 0.0                | 0.5        |
| 標準偏差 | 1.6       | 1.7          | 0.8          | 1.6                         | 0.2                | 0.8        |

帰属に関する言及の内訳は地上波で、外見が  $4.7 \pm 3.4$  回、内面が  $5.0 \pm 5.9$  回、過去の業績が  $5.9 \pm 6.0$  回、所属が  $8.8 \pm 7.0$  回、スポーツ能力が  $11.3 \pm 5.8$  回、ファッションが  $0.5 \pm 0.7$  回、チームにおける役割が  $5.9 \pm 3.2$  回、体調やケガが  $1.9 \pm 2.5$  回、家族や血縁が  $0.4 \pm 1.1$  回、出身や人種・エスニシティが  $0.5 \pm 1.1$  回、パーソナリティが  $0.0 \pm 0.0$  回、その他が  $0.2 \pm 0.4$  回であった。有料放送では、外見が  $3.0 \pm 4.7$  回、内面が  $2.5 \pm 2.2$  回、過去の業績が  $7.1 \pm 4.8$  回、所属が  $13.5 \pm 6.5$  回、スポーツ能力が  $7.1 \pm 4.9$  回、ファッションが  $0.2 \pm 0.7$  回、チームにおける役割が  $2.4 \pm 1.6$  回、体調やケガが  $1.6 \pm 1.7$  回、家族や血縁が  $0.3 \pm 0.8$  回、出身や人種・エスニシティが  $0.5 \pm 1.6$  回、パーソナリティが  $0.0 \pm 0.2$  回、その

他が  $0.5 \pm 0.8$  回であった。両群の比較において、外見、内面、過去の業績、所属、スポーツ能力、チームにおける役割に有意差が見られ、ファッション、体調やケガ、家族や血縁、出身や人種・エスニシティ、パーソナリティ、その他に有意差は見られなかった。帰属に関する言及回数を図 5、6 に示した。

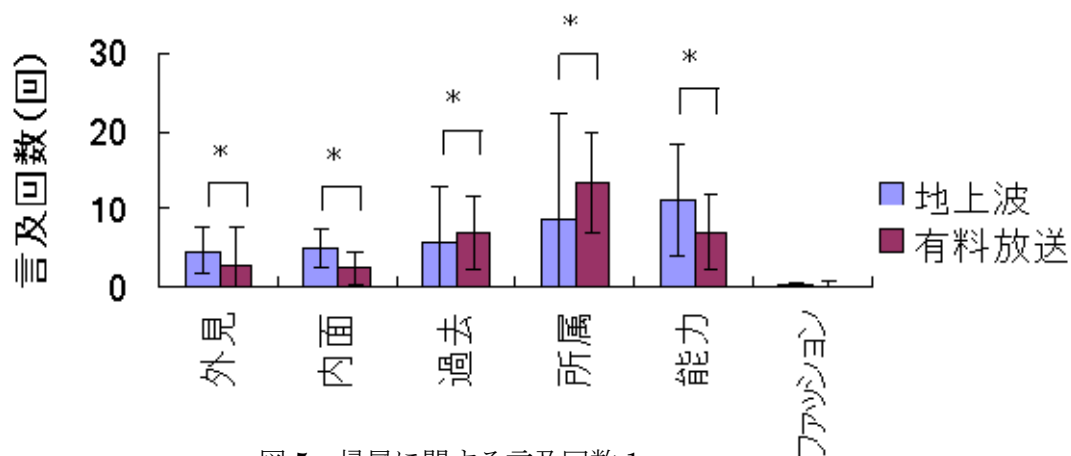


図 5. 帰属に関する言及回数 1

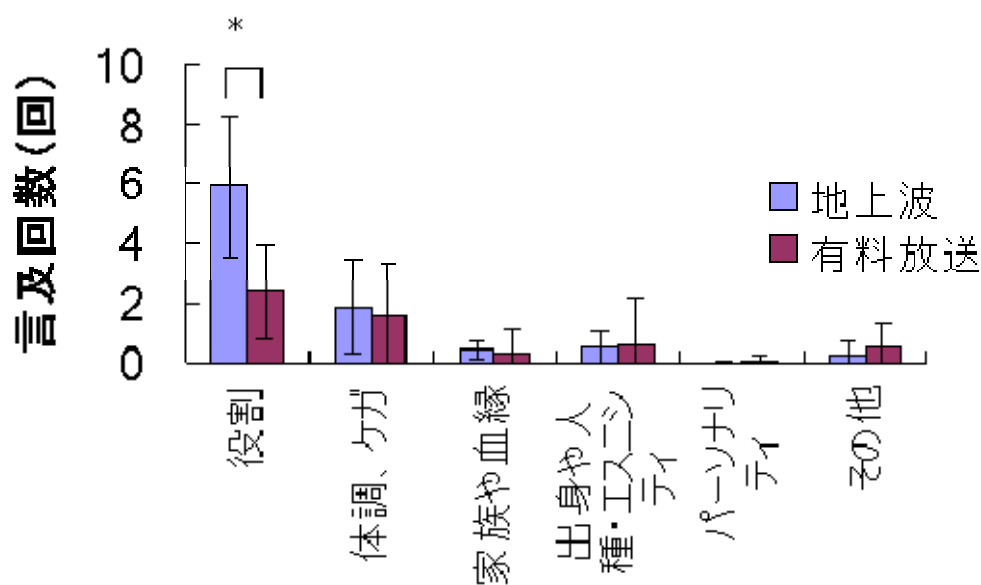


図 6. 帰属に関する言及回数 2

#### 3-1-4. プレーに関する言及について

プレーに関する言及の内訳を表 13 にまとめた。

表 13. プレーに関する言及の内訳

|      | ボールの動き(回) | 攻撃や守備(回) | 対人関係(回) | 体勢や存在(回) | CK, FKなど(回) |
|------|-----------|----------|---------|----------|-------------|
| 地上波  | 14.6      | 11.3     | 2.1     | 29.0     | 2.9         |
| 標準偏差 | 7.4       | 8.7      | 2.5     | 11.8     | 2.2         |
| 有料放送 | 18.4      | 7.5      | 3.5     | 20.9     | 3.1         |
| 標準偏差 | 12.4      | 6.4      | 2.6     | 10.5     | 1.7         |

|      | シュートや得点(回) | 反則、ファール(回) | 交代や治療(回) | シーンや演出(回) | その他(回) |
|------|------------|------------|----------|-----------|--------|
| 地上波  | 7.3        | 6.2        | 7.0      | 3.0       | 0.1    |
| 標準偏差 | 5.8        | 5.2        | 4.3      | 4.2       | 0.3    |
| 有料放送 | 6.1        | 6.5        | 6.6      | 1.8       | 0.2    |
| 標準偏差 | 3.5        | 3.1        | 2.7      | 2.3       | 0.5    |

プレーに関する言及の内訳は、地上波で、ボールの動きが  $14.6 \pm 7.4$  回、攻撃や守備が  $11.3 \pm 8.7$  回、対人関係が  $2.1 \pm 2.5$  回、体勢や存在が  $29.0 \pm 11.8$  回、CK、FK が  $2.9 \pm 2.2$  回、シュートや得点が  $7.3 \pm 5.8$  回、反則・ファールが  $6.2 \pm 5.2$  回、交代や治療が  $7.0 \pm 4.3$  回、シーンや演出が  $3.0 \pm 4.2$  回、その他が  $0.1 \pm 0.3$  回であった。有料放送で、ボールの動きが  $18.4 \pm 12.4$  回、攻撃や守備が  $7.5 \pm 6.4$  回、対人関係が  $3.5 \pm 2.6$  回、体勢や存在が  $20.9 \pm 10.5$  回、CK、FK が  $3.1 \pm 1.7$  回、シュートや得点が  $6.1 \pm 3.5$  回、反則・ファールが  $6.5 \pm 3.1$  回、交代や治療が  $6.6 \pm 2.7$  回、シーンや演出が  $1.8 \pm 2.3$  回、その他が  $0.2 \pm 0.5$  回であった。両群の比較において、ボールの動き、攻撃や守備、対人関係、体勢や存在、シーンや演出に有意差が見られ、CK や FK、シュートや得点、反則やファール、交代や治療、その他に有意差は見られなかった。プレーに関する言及回数を図 7、8 に示した。

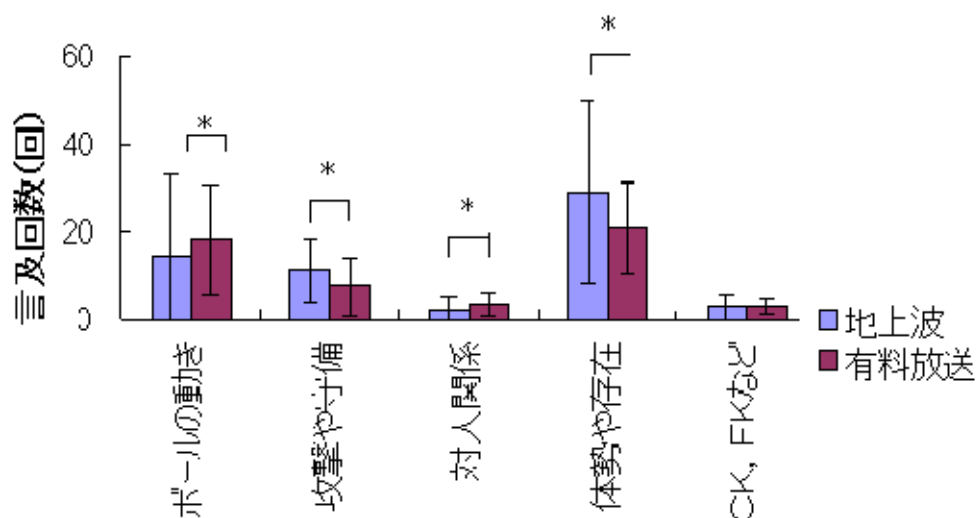


図 7. プレーに関する言及 1

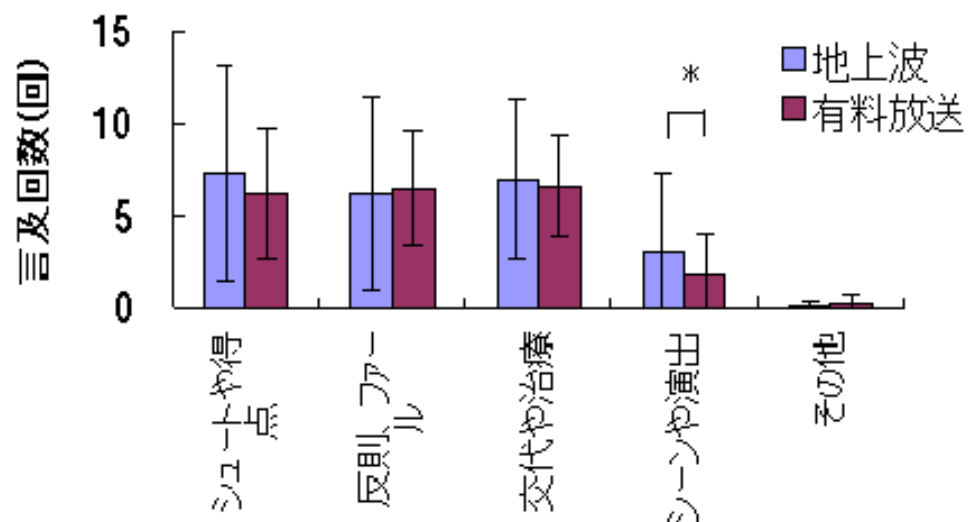


図 8. プレーに関する言及 2

### 3-1-5. 人物に対する知覚的説明について

表 14 に人物に対する知覚的説明方法として分類したものをまとめた。

表 14. 人物に対する知覚的説明方法

|      | 認知的(回) | 情動的(回) | 他者認知(回) |
|------|--------|--------|---------|
| 地上波  | 6.7    | 0.9    | 2.4     |
| 標準偏差 | 5.5    | 0.9    | 2.9     |
| 有料放送 | 6.8    | 3.0    | 1.9     |
| 標準偏差 | 4.2    | 2.4    | 1.6     |

人物に対する知覚的説明方法がコード化できたものの内訳は地上波で認知的方法が  $6.7 \pm 5.5$  回、情動的方法が  $0.9 \pm 0.9$  回、一般他者の認知による方法が  $2.4 \pm 2.9$  回だった。有料放送では、認知的方法が  $6.8 \pm 4.2$  回、情動的方法が  $3.0 \pm 2.4$  回、一般他者の認知による方法が  $1.9 \pm 1.6$  回だった。両群の比較において有意差は見られなかった。人物に対する説明方法の言及回数を図 9 に示した。

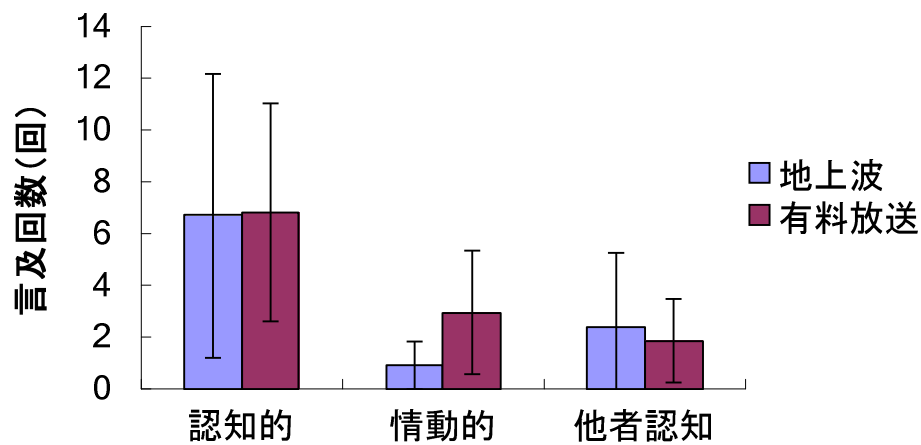


図 9. 人物に対する知覚的説明方法

### 3-1-6. 心理描写について

表 15 に心理描写として分類したものをまとめたものを示した。

表 15. 心理描写についての言及

|      | 行動叙述(回) | 思考(回) |
|------|---------|-------|
| 地上波  | 3.6     | 2.2   |
| 標準偏差 | 3.3     | 2.0   |
| 有料放送 | 4.7     | 2.7   |
| 標準偏差 | 4.7     | 2.5   |

人物に対する説明において心理描写が行われたのは内訳は地上波で、行動の叙述の表現が  $3.6 \pm 3.3$  回、思考が  $2.2 \pm 2.0$  回だった。有料放送では、行動の叙述の表現が  $4.7 \pm 4.7$  回、思考が  $2.7 \pm 2.5$  回だった。両群の比較において、行動の叙述の表現に有意差が見られ、思考に有意差は見られなかった。心理描写をまとめたものを図 10 に示した。

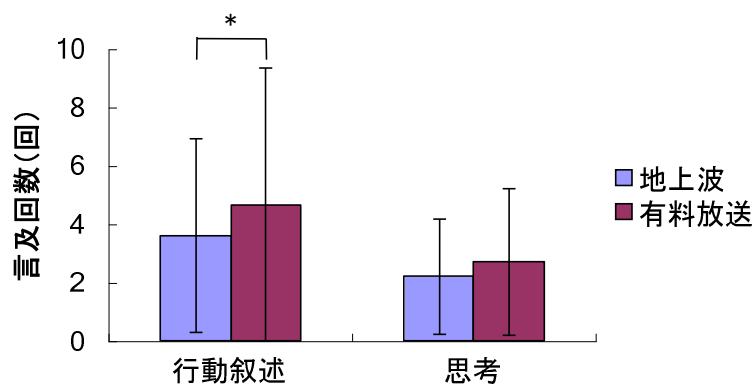


図 10. 心理描写

### 3-1-7. 言及者の考えや意見等

対人知覚を通じて言及者が自身の考えや感情を示す場合がある。説明が加えられた場合の「言及者の考えや意見等」の項目を表 16 にまとめた。

表 16. 言及者の考えや意見等

|      | 賞賛  | 引用  | 理解  | 疑問  | 共感  | シンパシー |
|------|-----|-----|-----|-----|-----|-------|
| 地上波  | 6.8 | 0.7 | 0.0 | 1.0 | 0.0 | 0.1   |
| 標準偏差 | 5.5 | 0.9 | 0.0 | 1.0 | 0.0 | 0.3   |
| 有料放送 | 6.8 | 1.5 | 0.1 | 1.4 | 0.1 | 0.2   |
| 標準偏差 | 4.1 | 1.8 | 0.3 | 1.4 | 0.3 | 0.5   |

|      | 応援  | 期待  | 示唆  | 意見  | 仮定  | エラー | 注目  |
|------|-----|-----|-----|-----|-----|-----|-----|
| 地上波  | 0.0 | 0.9 | 0.4 | 3.1 | 1.5 | 0.5 | 0.7 |
| 標準偏差 | 0.0 | 1.0 | 0.7 | 2.3 | 1.5 | 1.1 | 1.2 |
| 有料放送 | 0.1 | 0.6 | 0.4 | 2.2 | 1.0 | 1.0 | 1.0 |
| 標準偏差 | 0.3 | 0.7 | 0.5 | 2.0 | 1.2 | 1.2 | 1.3 |

言及者の考えや意見等の内訳は地上波では、賞賛が  $6.8 \pm 5.5$  回、コメントの引用が  $0.7 \pm 0.9$  回、理解を示すが  $0.0 \pm 0.0$  回、疑問を提示するが  $1.0 \pm 1.0$  回、共感が  $0.0 \pm 0.0$  回、シンパシーが  $0.1 \pm 0.3$  回、応援が  $0.0 \pm 0.0$  回、期待が  $0.9 \pm 1.0$  回、示唆が  $0.4 \pm 0.7$  回、意見が  $3.1 \pm 2.3$  回、仮定の状況の言及が  $1.5 \pm 1.5$  回、エラーの言及が  $0.5 \pm 1.1$  回、注目すべき選手の言及が  $0.7 \pm 1.2$  回だった。有料放送では賞賛が  $6.8 \pm 4.1$  回、コメントの引用が  $1.5 \pm 1.8$  回、理解を示すが  $0.1 \pm 0.3$  回、疑問を提示するが  $1.4 \pm 1.4$  回、共感が  $0.1 \pm 0.3$  回、シンパシーが  $0.2 \pm 0.5$  回、応援が  $0.1 \pm 0.3$  回、期待が  $0.6 \pm 0.7$  回、示唆が  $0.4 \pm 0.5$  回、意見が  $2.2 \pm 2.0$  回、仮定の状況の言及が  $1.0 \pm 1.2$  回、エラーの言及が  $1.0 \pm 1.2$  回、注目すべき選手の言及が  $1.3 \pm 1.3$  回だった。各項目で両群を比較した結果、コメントの引用、意見、エラーの言及で有意差が見られた。賞賛、理解を示す、疑問を提示する、共感、シンパシー、応援、期待、示唆、仮定の状況の言及、注目すべき選手の言及においては有意差は見られなかった。言及者の考えや意見等をまとめたものを図 11、12 に示した。

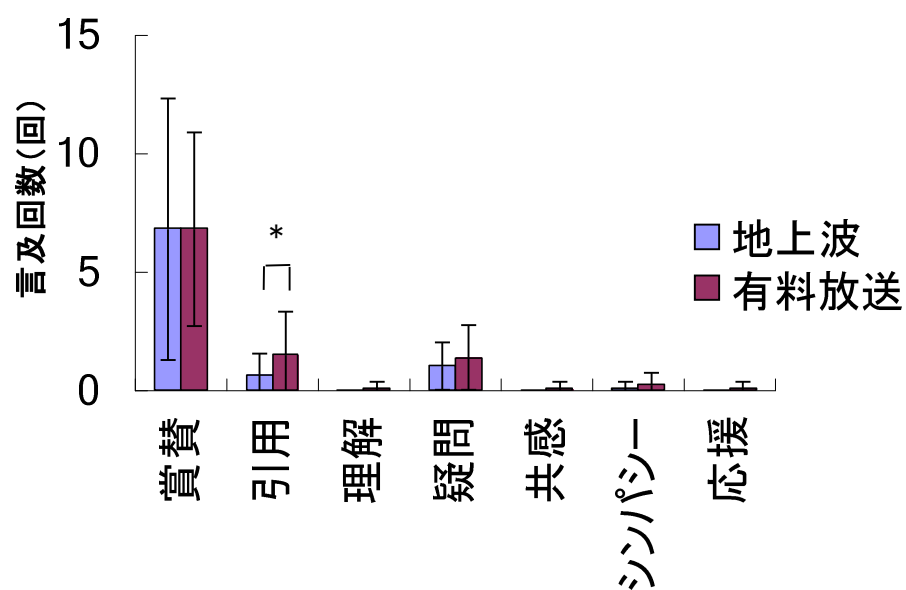


図 11. 言及者の意見や考え等 1

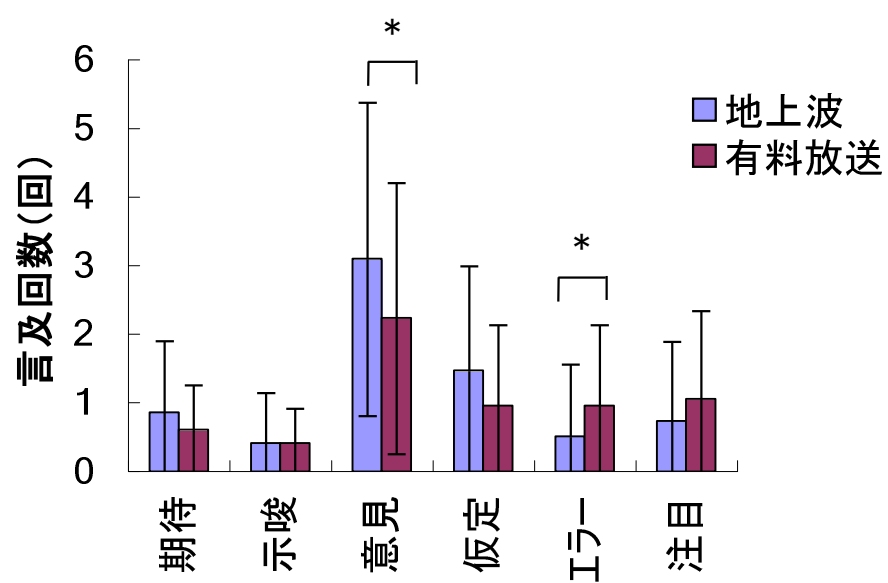


図 12. 言及者の意見や考え等 2

### 3-2. 実況者の行った言及について

#### 3-2-1. 実況者の行った人物についての言及について

ここからは、実況者、解説者それぞれにわけて集計した結果を記す。次に示すのは、人物についての説明内容と説明方法についての集計結果である。表 17 に地上波、有料放送の人物に対する説明が加えられた回数、帰属に関する言及回数、プレーに関する言及回数、認知方法を用いた言及回数、心理描写の回数、言及者の考えや意見を表明した回数をまとめた。

表 17. 実況者の人物に関する説明と、その説明の内訳

|      | 言及計<br>(回) | 帰属(回) | プレー(回) | 知覚的<br>(回) | 心理描写<br>(回) | 意見や考え<br>(回) |
|------|------------|-------|--------|------------|-------------|--------------|
| 地上波  | 138.5      | 40.5  | 77.5   | 8.0        | 4.5         | 8.0          |
| 標準偏差 | 44.8       | 16.8  | 36.4   | 6.5        | 3.7         | 5.1          |
| 有料放送 | 126.8      | 34.8  | 68.0   | 8.9        | 5.9         | 9.3          |
| 標準偏差 | 45.5       | 15.1  | 30.9   | 5.4        | 4.5         | 4.2          |

実況者によって人物に対する説明が加えられたのは地上波で  $138.5 \pm 44.8$  回で、そのうち、帰属に関する言及が  $40.5 \pm 16.8$  回、プレーに関する言及が  $77.5 \pm 36.4$  回、知覚的説明が  $8.0 \pm 6.5$  回、心理描写が  $4.5 \pm 3.7$  回、言及者の考えや意見が  $8.0 \pm 5.1$  回だった。有料放送で人物に対する説明が加えられたのは  $126.8 \pm 45.5$  回で、帰属に関する言及は  $34.8 \pm 15.1$  回あり、プレーに関する言及が  $68.0 \pm 30.9$  回、知覚的方法が  $8.9 \pm 5.4$  回、心理描写が  $5.9 \pm 4.5$  回、言及者の意見や考えが  $9.3 \pm 4.2$  回あった。それぞれに有意差は見られなかった。図 13 に、人物に対する説明が加えられた回数を、図 14 にその説明の内訳として帰属、プレー、認知方法、心理描写、言及者の意見や考えを示した。

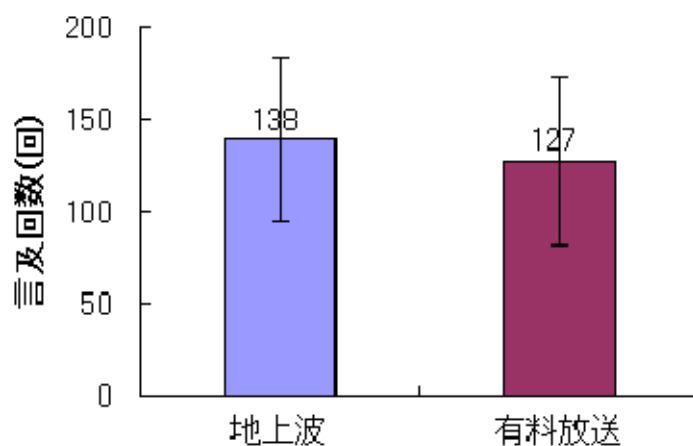


図 13. 実況者が人物に対して説明をした回数

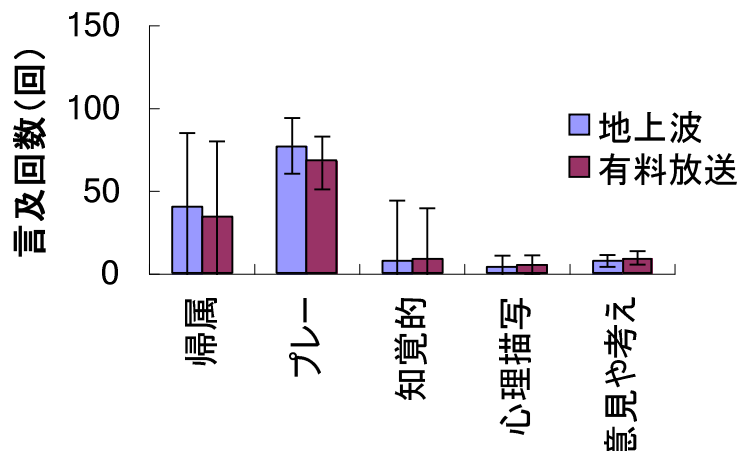


図 14. 実況者が人物にした説明の内訳

### 3-2-2. 実況者の帰属に関する言及について

実況者の帰属に関する言及の内訳を表 18 にまとめた。

表 18. 帰属に関する言及

|      | 外見(回) | 内面(回) | 過去(回) | 所属(回) | 能力(回) | ファッション(回) |
|------|-------|-------|-------|-------|-------|-----------|
| 地上波  | 4.4   | 4.9   | 5.7   | 8.5   | 8.6   | 0.5       |
| 標準偏差 | 3.4   | 5.9   | 5.8   | 6.8   | 5.2   | 0.7       |
| 有料放送 | 2.7   | 2.3   | 6.7   | 12.8  | 5.2   | 0.2       |
| 標準偏差 | 4.6   | 2.1   | 4.8   | 6.4   | 3.7   | 0.7       |

|      | 役割(回) | 体調やケガ(回) | 家族や血縁(回) | 出身や人種・エスニシティ(回) | パーソナリティ(回) | その他(回) |
|------|-------|----------|----------|-----------------|------------|--------|
| 地上波  | 5.1   | 1.7      | 0.4      | 0.5             | 0.0        | 0.2    |
| 標準偏差 | 3.3   | 2.3      | 1.1      | 1.1             | 0.0        | 0.4    |
| 有料放送 | 2.1   | 1.3      | 0.3      | 0.5             | 0.0        | 0.5    |
| 標準偏差 | 1.5   | 1.6      | 0.8      | 1.6             | 0.0        | 0.8    |

実況者が行った帰属に関する言及の内訳は地上波で、外見が  $4.4 \pm 3.4$  回、内面が  $4.9 \pm 5.9$  回、過去の業績が  $5.7 \pm 5.8$  回、所属が  $8.5 \pm 6.8$  回、スポーツ能力が  $8.6 \pm 5.2$  回、ファッションが  $0.5 \pm 0.7$  回、チームにおける役割が  $5.1 \pm 3.3$  回、体調やケガが  $1.7 \pm 2.3$  回、家族や血縁が  $0.4 \pm 1.1$  回、出身や人種・エスニシティが  $0.5 \pm 1.1$  回、パーソナリティが  $0.0 \pm 0.0$  回、その他が  $0.2 \pm 0.4$  回であった。有料放送では、外見が  $2.7 \pm 4.6$  回、内面が  $2.3 \pm 2.1$  回、過去の業績が  $6.7 \pm 4.8$  回、所属が  $12.8 \pm 6.4$  回、スポーツ能力が  $5.2 \pm 3.7$  回、ファッションが  $0.2 \pm 0.7$  回、チームにおける役割が  $2.1 \pm 1.5$  回、体調やケガが  $1.3 \pm 1.6$  回、家族や血縁が  $0.3 \pm 0.8$  回、出身や人種・エスニシティが  $0.5 \pm 1.6$  回、パーソナリティが  $0.0 \pm 0.0$  回、その他が  $0.5 \pm 0.8$  回であった。両群の比較において、所属、スポーツ能力、チームにおけ

る役割に有意差が見られ、外見、内面、過去の業績、ファッション、体調やケガ、家族や血縁、出身や人種・エスニシティ、パーソナリティ、その他に有意差は見られなかった。帰属に関する言及回数を図 15、16 に示した。

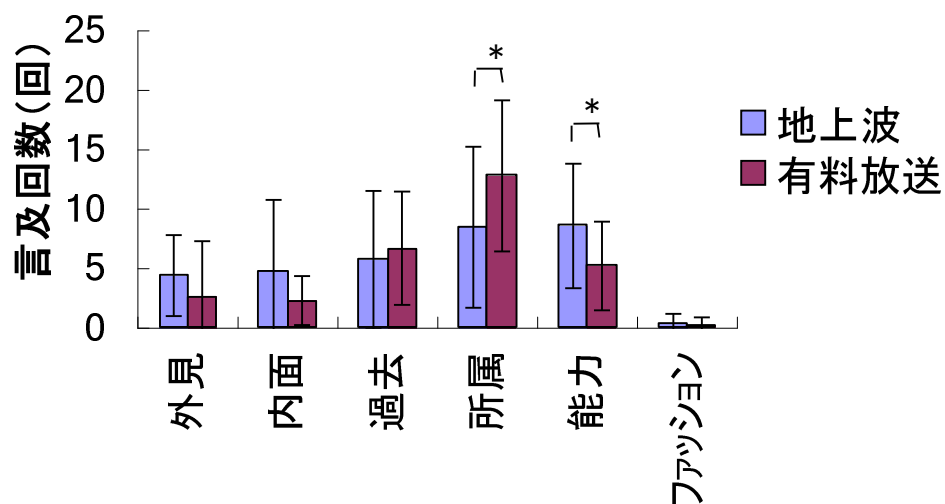


図 15. 実況者のの帰属に関する言及 1

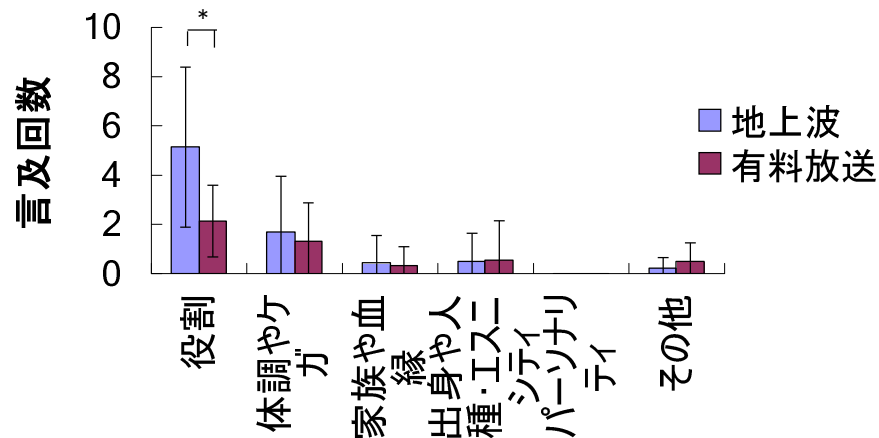


図 16. 実況者の帰属に関する言及 2

### 3-2-3. 実況者のプレーに関する言及について

実況者のプレーに関する言及の内訳を表 19 にまとめた。

表 19. 実況者のプレーに関する言及の内訳

|      | ボールの動き<br>(回) | 攻撃や守備<br>(回) | 対人関係(回) | 体勢や存在<br>(回) | CK, FKなど<br>(回) |
|------|---------------|--------------|---------|--------------|-----------------|
| 地上波  | 13.9          | 10.0         | 1.7     | 26.3         | 2.8             |
| 標準偏差 | 7.3           | 8.5          | 2.0     | 11.2         | 2.1             |
| 有料放送 | 17.5          | 6.2          | 2.6     | 17.9         | 3.0             |
| 標準偏差 | 11.7          | 6.2          | 2.5     | 9.4          | 1.6             |

|      | シュートや得点<br>(回) | 反則、ファール<br>(回) | 交代や治療<br>(回) | シーンや演出<br>(回) | その他(回) |
|------|----------------|----------------|--------------|---------------|--------|
| 地上波  | 7.3            | 6.0            | 6.6          | 2.9           | 0.0    |
| 標準偏差 | 5.8            | 5.0            | 3.9          | 4.3           | 0.2    |
| 有料放送 | 6.1            | 6.3            | 6.4          | 1.8           | 0.2    |
| 標準偏差 | 3.5            | 3.1            | 2.6          | 2.3           | 0.5    |

実況者のプレーに関する言及の内訳は、地上波で、ボールの動きが  $13.9 \pm 7.3$  回、攻撃や守備が  $10.0 \pm 8.5$  回、対人関係が  $1.7 \pm 2.0$  回、体勢や存在が  $26.3 \pm 11.2$  回、CK、FK が  $2.8 \pm 2.1$  回、シュートや得点が  $7.3 \pm 5.8$  回、反則・ファールが  $6.0 \pm 5.0$  回、交代や治療が  $6.6 \pm 3.9$  回、シーンや演出が  $2.9 \pm 4.3$  回、その他が  $0.0 \pm 0.2$  回であった。有料放送で、ボールの動きが  $17.5 \pm 11.7$  回、攻撃や守備が  $6.2 \pm 6.2$  回、対人関係が  $2.6 \pm 2.5$  回、体勢や存在が  $17.9 \pm 9.4$  回、CK、FK が  $3.0 \pm 1.6$  回、シュートや得点が  $6.1 \pm 3.5$  回、反則・ファールが  $6.3 \pm 3.1$  回、交代や治療が  $6.4 \pm 2.6$  回、シーンや演出が  $1.8 \pm 2.3$  回、その他が  $0.2 \pm 0.5$  回であった。両群の比較において、体勢や存在に有意差が見られ、ボールの動き、攻撃や守備、対人関係、CK や FK、シュートや得点、反則やファール、シーンや演出、交代や治療、にその他に有意差は見られなかった。実況者のプレーに関する言及回数を図 17、18 に示した。

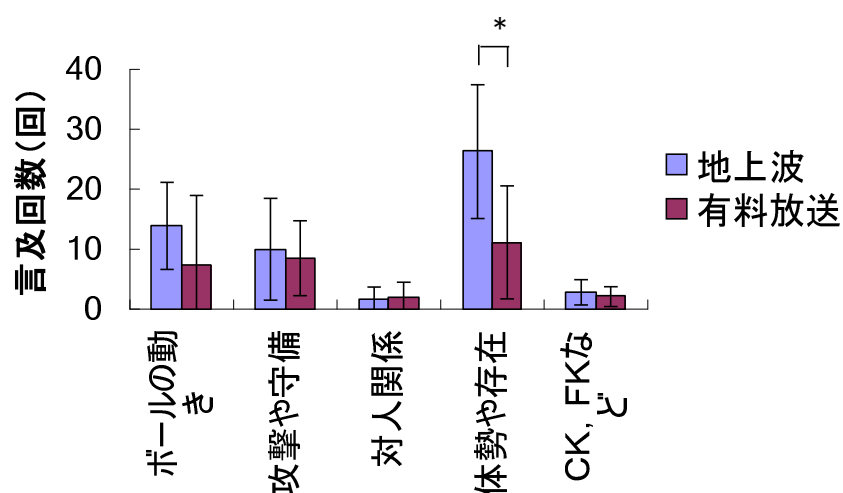


図 17. 実況者のプレーに関する言及 1

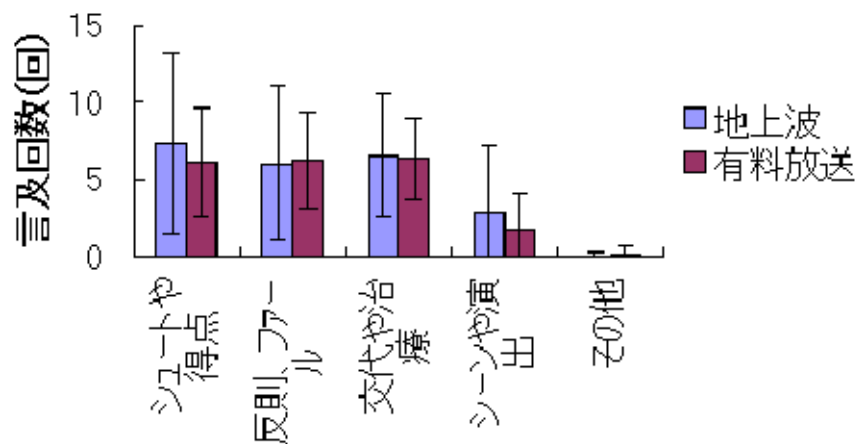


図 18. 実況者のプレーに関する言及 2

#### 3-2-4. 実況者の人物に対する知覚的説明について

表 20 に実況者の人物に対する知覚的説明として分類したものをまとめた。

表 20. 実況者の人物に対する知覚的説明

|      | 認知的方法(回) | 情動的方法(回) | 他者認知(回) |
|------|----------|----------|---------|
| 地上波  | 5.3      | 0.6      | 2.1     |
| 標準偏差 | 4.8      | 0.9      | 2.9     |
| 有料放送 | 5.0      | 2.2      | 1.7     |
| 標準偏差 | 4.2      | 1.8      | 1.5     |

実況者の人物に対する知覚的説明の内訳は地上波で、認知的方法が  $5.3 \pm 4.8$  回、情動的方法が  $0.6 \pm 0.9$  回、一般他者の認知による方法が  $2.1 \pm 2.9$  回だった。有料放送では、認知的方法が  $5.0 \pm 4.2$  回、情動的方法が  $2.2 \pm 1.8$  回、一般他者の認知による方法が  $1.7 \pm 1.5$  回だった。両群の比較において情動的方法に有意差が見られ、認知的方法、一般他者の認知による方法に有意差は見られなかった。実況者の人物に対する知覚的説明の言及回数を図 19 に示した。

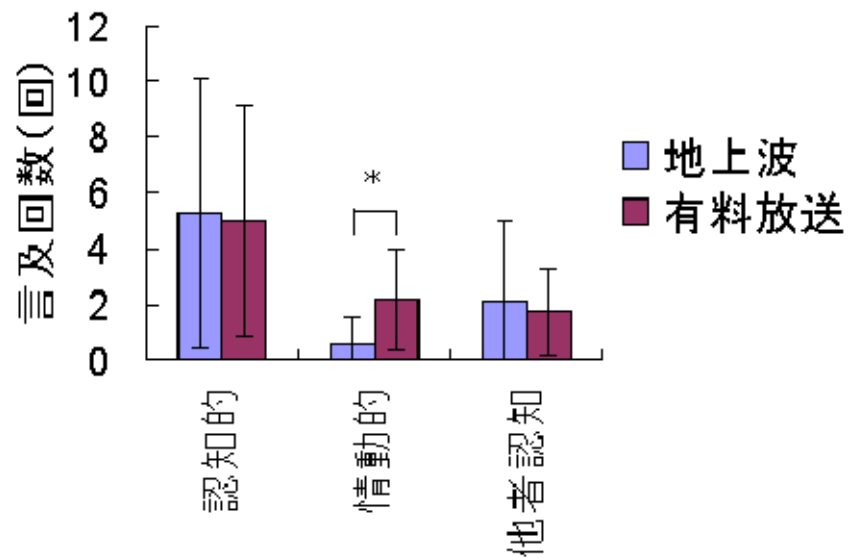


図 19. 実況者による人物に対する知覚的説明

### 3-2-5. 心理描写について

表 21 に実況者の心理描写として分類したものをまとめたものを示した。

表 21. 実況者の心理描写についての言及

|      | 行動の叙述の表現<br>(回) | 思考(回) |
|------|-----------------|-------|
| 地上波  | 3.0             | 1.5   |
| 標準偏差 | 3.0             | 1.9   |
| 有料放送 | 4.1             | 1.8   |
| 標準偏差 | 4.1             | 1.5   |

実況者の人物に対する説明において心理描写が行われた内訳はは地上波で、行動の叙述の表現が  $3.0 \pm 3.0$  回、心理描写の表現が  $1.5 \pm 1.9$  回だった。有料放送では、行動の叙述の表現が  $4.1 \pm 4.1$  回、心理描写の表現が  $1.8 \pm 1.5$  回だった。両群の比較において、有意差は見られなかった。実況者の心理描写をまとめたものを図 20 に示した。

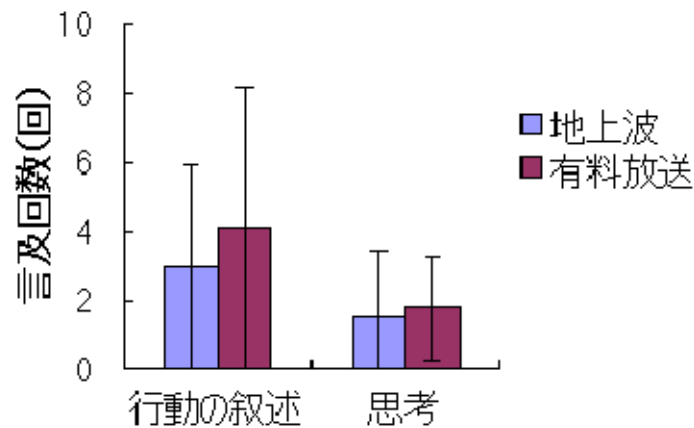


図 20. 実況者の心理描写の表現

### 3-2-6. 実況者の考えや意見

対人知覚を通じて言及者が自身の考えや感情を示した場合の実況者の考えや意見等の項目を表 22 にまとめた。

表 22. 実況者の考えや意見等

|      | 賞賛(回) | コメント(回) | 理解(回) | 疑問(回) | 共感(回) | シンパシー(回) |
|------|-------|---------|-------|-------|-------|----------|
| 地上波  | 3.2   | 0.6     | 0.0   | 0.7   | 0.0   | 0.0      |
| 標準偏差 | 3.2   | 0.9     | 0.0   | 0.9   | 0.0   | 0.2      |
| 有料放送 | 3.5   | 1.5     | 0.0   | 1.2   | 0.1   | 0.2      |
| 標準偏差 | 2.2   | 1.8     | 0.2   | 1.4   | 0.3   | 0.5      |

|      | 応援(回) | 期待(回) | 示唆(回) | 意見(回) | 仮定(回) | エラー(回) | 注目(回) |
|------|-------|-------|-------|-------|-------|--------|-------|
| 地上波  | 0.0   | 0.6   | 0.1   | 0.8   | 0.8   | 0.5    | 0.5   |
| 標準偏差 | 0.0   | 0.7   | 0.3   | 0.9   | 1.0   | 1.1    | 1.1   |
| 有料放送 | 0.0   | 0.5   | 0.1   | 0.7   | 0.3   | 0.5    | 0.6   |
| 標準偏差 | 0.2   | 0.7   | 0.3   | 1.3   | 0.6   | 0.7    | 1.0   |

実況者の考えや意見等は地上波で、賞賛が  $3.2 \pm 3.2$  回、コメントの引用が  $0.6 \pm 0.9$  回、理解を示すが  $0.0 \pm 0.0$  回、疑問を提示するが  $0.7 \pm 0.9$  回、共感が  $0.0 \pm 0.0$  回、シンパシーが  $0.0 \pm 0.2$  回、応援が  $0.0 \pm 0.0$  回、期待が  $0.6 \pm 0.7$  回、示唆が  $0.1 \pm 0.3$  回、意見が  $0.8 \pm 0.9$  回、仮定の状況の言及が  $0.8 \pm 1.0$  回、エラーの言及が  $0.5 \pm 1.1$  回、注目すべき選手の言及が  $0.5 \pm 1.1$  回だった。有料放送で、賞賛が  $3.5 \pm 2.2$  回、コメントの引用が  $1.5 \pm 1.8$  回、理解を示すが  $0.0 \pm 0.2$  回、疑問を提示するが  $1.2 \pm 1.4$  回、共感が  $0.1 \pm 0.3$  回、シンパシーが  $0.2 \pm 0.5$  回、応援が  $0.0 \pm 0.2$  回、期待が  $0.5 \pm 0.7$  回、示唆が  $0.1 \pm 0.3$  回、意見が  $0.7 \pm 1.3$  回、仮定の状況の言及が  $0.3 \pm 0.6$  回、エラーの言及が  $0.5 \pm 0.7$  回、注目すべき選手の

言及が  $0.6 \pm 1.0$  回だった。各項目で両群を比較した結果、コメントの引用、仮定の状況の言及で有意差が見られた。賞賛、理解を示す、疑問を提示する、共感、シンパシー、応援、期待、示唆、意見、エラーの言及、注目すべき選手の言及においては有意差は見られなかった。言及者の考えや意見等をまとめたものを図 21、22 に示した。

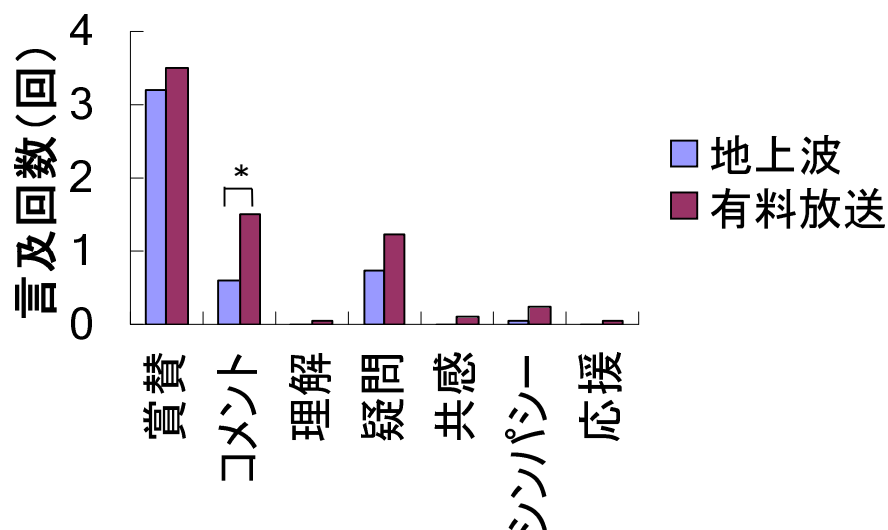


図 21. 実況者の考えや意見等 1

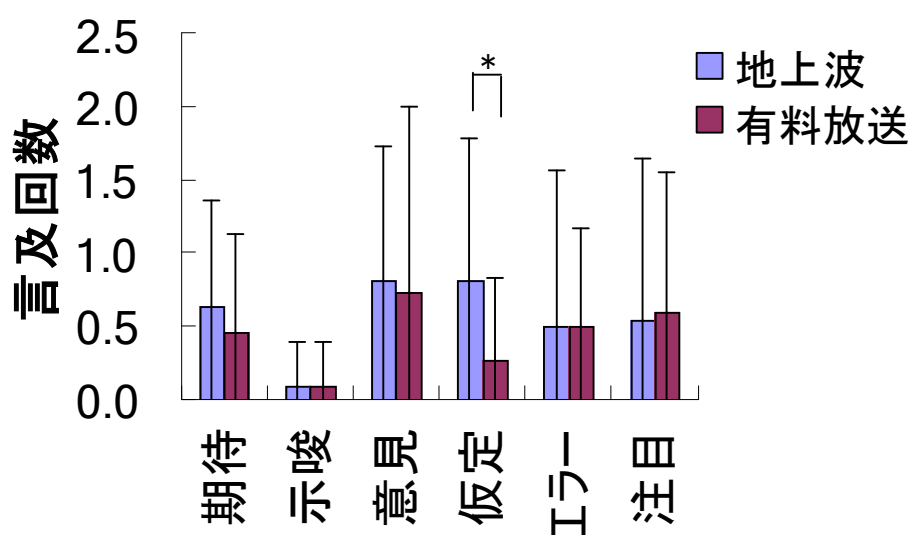


図 22. 実況者の考えや意見等 2

### 3-3. 解説者の行った言及について

#### 3-3-1. 解説者の行った人物についての言及

ここからは、解説者の結果を記す。次に示すのは、人物についての説明内容と説明方法についての集計結果である。表 23 に地上波、有料放送の人物に対する説明が加えられた回数、帰属に関する言及回数、プレーに関する言及回数、認知方法を用いた言及回数、心理描写の回数、言及者の考えや意見を表明した回数をまとめた。

表 23. 解説者の人物に関する説明と、その説明の内訳

|      | 言及計<br>(回) | 帰属(回) | プレー(回) | 知覚的(回) | 心理描写(回) | 考えや意見(回) |
|------|------------|-------|--------|--------|---------|----------|
| 地上波  | 21.5       | 4.5   | 6.0    | 2.0    | 1.4     | 7.7      |
| 標準偏差 | 14.7       | 3.5   | 6.8    | 2.1    | 1.9     | 4.7      |
| 有料放送 | 21.9       | 4.0   | 6.5    | 2.7    | 1.5     | 7.1      |
| 標準偏差 | 9.2        | 3.1   | 3.4    | 1.7    | 1.8     | 3.7      |

人物に対する説明が加えられたのは地上波で  $21.5 \pm 14.7$  回で、そのうち、帰属に関する言及が  $4.5 \pm 3.5$  回、プレーに関する言及が  $6.0 \pm 6.8$  回、認知方法が  $2.0 \pm 2.1$  回、心理描写が  $1.4 \pm 1.9$  回、言及者の考えや意見が  $7.7 \pm 4.7$  回だった。有料放送で人物に対する説明が加えられたのは  $21.9 \pm 9.2$  回で、帰属に関する言及は  $4.0 \pm 3.1$  回あり、プレーに関する言及が  $6.5 \pm 3.4$  回、知覚的方法が  $2.7 \pm 1.7$  回、心理描写が  $1.5 \pm 1.8$  回、言及者の考えや意見が  $7.1 \pm 3.7$  回あった。知覚的方法に有意差が見られた。言及回数、帰属、プレー、心理描写、考えや意見に有意差は見られなかった。

図 23 に、人物に対する説明が加えられた回数を、図 24 にその説明の内訳として帰属、プレー、認知方法、心理描写、言及者の考えや意見を示した。

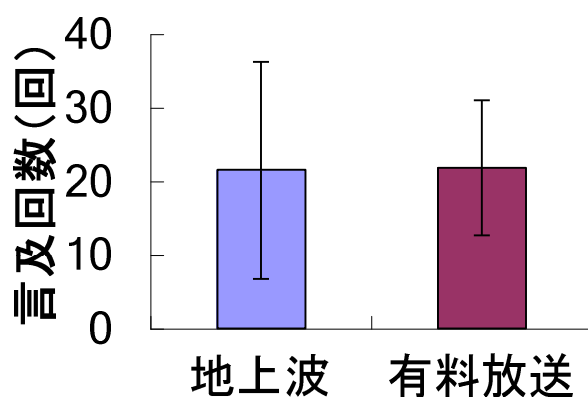


図 23. 解説者が人物に対して説明をした回数

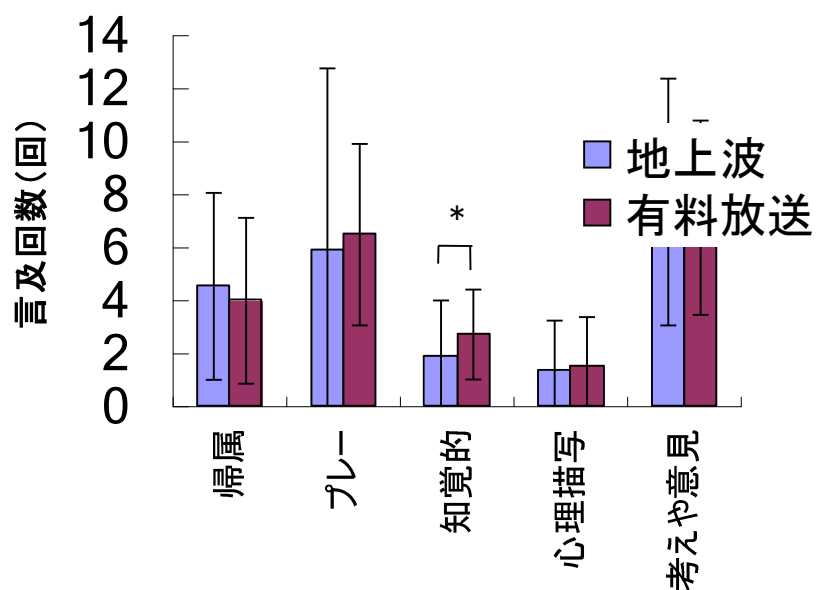


図 24. 解説者が人物にした説明の内訳

### 3-3-2. 解説者の帰属に関する言及について

解説者の帰属に関する言及の内訳を表 24 にまとめた。

表 24. 帰属に関する言及

|      | 外見(回) | 内面(回) | 過去(回) | 所属(回) | 能力(回) | ファッション(回) |
|------|-------|-------|-------|-------|-------|-----------|
| 地上波  | 0.3   | 0.1   | 0.1   | 0.3   | 2.7   | 0.0       |
| 標準偏差 | 0.6   | 0.4   | 0.4   | 0.9   | 2.6   | 0.0       |
| 有料放送 | 0.4   | 0.1   | 0.4   | 0.7   | 1.9   | 0.0       |
| 標準偏差 | 0.8   | 0.4   | 0.6   | 0.9   | 2.0   | 0.0       |

|      | 役割(回) | 体調やケガ(回) | 家族や血縁(回) | 出身や人種・エスニシティ(回) | パーソナリティ(回) | その他(回) |
|------|-------|----------|----------|-----------------|------------|--------|
| 地上波  | 0.8   | 0.2      | 0.0      | 0.0             | 0.0        | 0.0    |
| 標準偏差 | 0.8   | 0.6      | 0.0      | 0.0             | 0.0        | 0.0    |
| 有料放送 | 0.2   | 0.3      | 0.0      | 0.0             | 0.0        | 0.0    |
| 標準偏差 | 0.6   | 0.5      | 0.0      | 0.0             | 0.2        | 0.2    |

解説者の帰属に関する言及の内訳は地上波で、外見が  $0.3 \pm 0.6$  回、内面が  $0.1 \pm 0.4$  回、過去の業績が  $0.1 \pm 0.4$  回、所属が  $0.3 \pm 0.9$  回、スポーツ能力が  $2.7 \pm 2.6$  回、ファッションが  $0.0 \pm 0.0$  回、チームにおける役割が  $0.8 \pm 0.8$  回、体調やケガが  $0.2 \pm 0.6$  回、家族や血縁が  $0.0 \pm 0.0$  回、出身や人種・エスニシティが  $0.0 \pm 0.0$  回、パーソナリティが  $0.0 \pm 0.0$  回、その他が  $0.0 \pm 0.0$  回であった。有料放送では、外見が  $0.4 \pm 0.8$  回、内面が  $0.1 \pm 0.4$  回、過去の業績が  $0.4 \pm 0.6$  回、所属が  $0.7 \pm 0.9$  回、スポーツ能力が  $1.9 \pm 2.0$  回、ファッションが

0.0±0.0 回、チームにおける役割が 0.2±0.6 回、体調やケガが 0.3±0.5 回、家族や血縁が 0.0±0.0 回、出身や人種・エスニシティが 0.0±0.0 回、パーソナリティが 0.0±0.2 回、その他が 0.0±0.2 回であった。両群の比較において、所属、チームにおける役割に有意差が見られた。外見、内面、過去の業績、スポーツ能力、ファッション、体調やケガ、家族や血縁、出身や人種・エスニシティ、パーソナリティ、その他では有意差は見られなかった。解説者による帰属に関する言及回数を図 25、26 に示した。

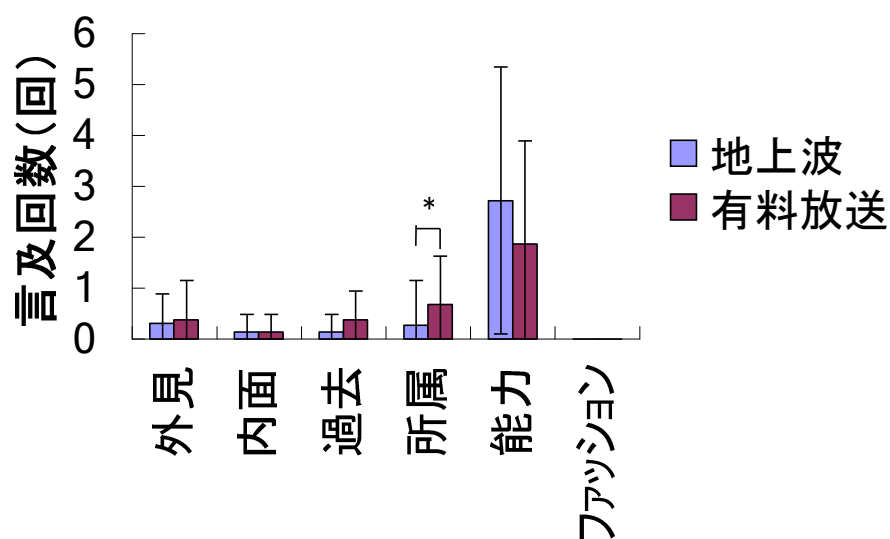


図 25. 解説者の帰属に関する言及 1

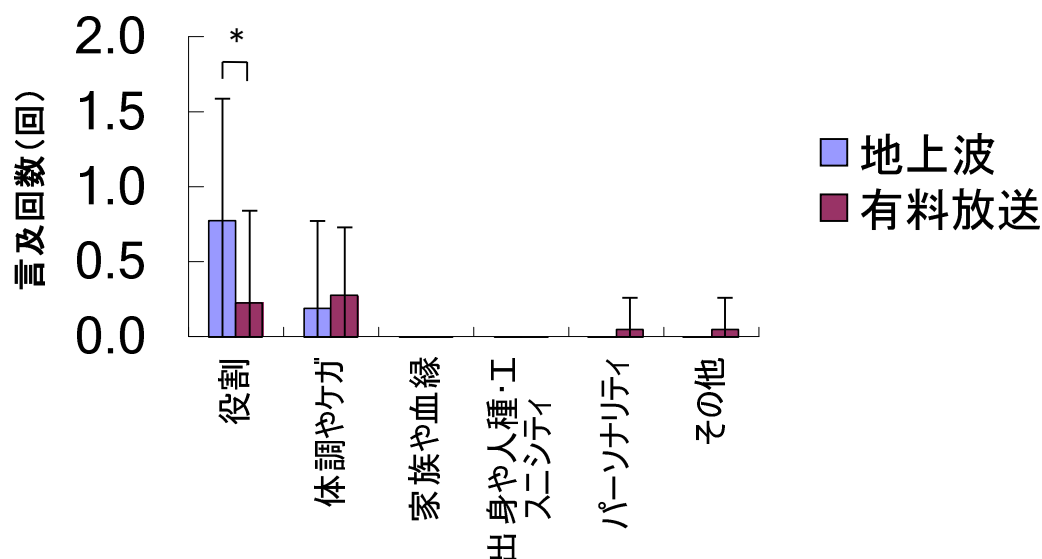


図 26. 解説者の帰属に関する言及 2

### 3-3-3. 解説者のプレーに関する言及について

解説者のプレーに関する言及の内訳を表 25 にまとめた。

表 25. 解説者のプレーに関する言及の内訳

|      | ボールの動き<br>(回) | 攻撃や守備<br>(回) | 対人関係(回) | 体勢や存在(回) | CK, FKなど<br>(回) |
|------|---------------|--------------|---------|----------|-----------------|
| 地上波  | 0.8           | 1.3          | 0.4     | 2.7      | 0.1             |
| 標準偏差 | 1.1           | 2.7          | 0.8     | 3.1      | 0.3             |
| 有料放送 | 0.9           | 1.3          | 0.8     | 3.0      | 0.1             |
| 標準偏差 | 1.2           | 1.2          | 1.3     | 2.2      | 0.3             |

|      | シュートや得点<br>(回) | 反則、ファール<br>(回) | 交代や治療(回) | シーンや演出<br>(回) | その他(回) |
|------|----------------|----------------|----------|---------------|--------|
| 地上波  | 0.0            | 0.1            | 0.4      | 0.1           | 0.0    |
| 標準偏差 | 0.2            | 0.5            | 0.8      | 0.5           | 0.2    |
| 有料放送 | 0.0            | 0.2            | 0.2      | 0.0           | 0.0    |
| 標準偏差 | 0.0            | 0.4            | 0.5      | 0.0           | 0.0    |

解説者のプレーに関する言及の内訳は、地上波で、ボールの動きが  $0.8 \pm 1.3$  回、攻撃や守備が  $1.3 \pm 2.7$  回、対人関係が  $0.4 \pm 0.8$  回、体勢や存在が  $2.7 \pm 3.1$  回、CK、FK が  $0.1 \pm 0.3$  回、シュートや得点が  $0.0 \pm 0.2$  回、反則・ファールが  $0.1 \pm 0.5$  回、交代や治療が  $0.4 \pm 0.8$  回、シーンや演出が  $0.1 \pm 0.5$  回、その他が  $0.0 \pm 0.2$  回であった。有料放送で、ボールの動きが  $0.9 \pm 1.2$  回、攻撃や守備が  $1.3 \pm 1.2$  回、対人関係が  $0.8 \pm 1.3$  回、体勢や存在が  $3.0 \pm 2.2$  回、CK、FK が  $0.1 \pm 0.3$  回、シュートや得点が  $0.0 \pm 0.0$  回、反則・ファールが  $0.2 \pm 0.4$  回、交代や治療が  $0.2 \pm 0.5$  回、シーンや演出が  $0.0 \pm 0.0$  回、その他が  $0.0 \pm 0.0$  回であった。両群の比較において、シーンや演出に有意差があり、ボールの動き、攻撃や守備、対人関係、体勢や存在、CK,FK など、シュートや得点、反則・ファール、交代や治療、その他に有意差は見られなかった。プレーに関する言及回数を図 27, 28 に示した。

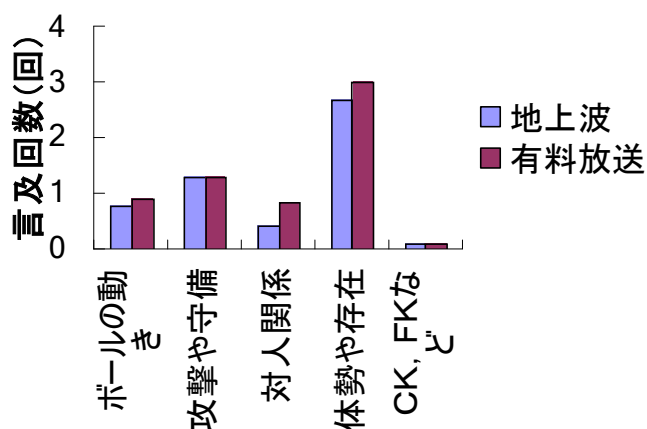


図 27. 解説者のプレーに関する言及 1

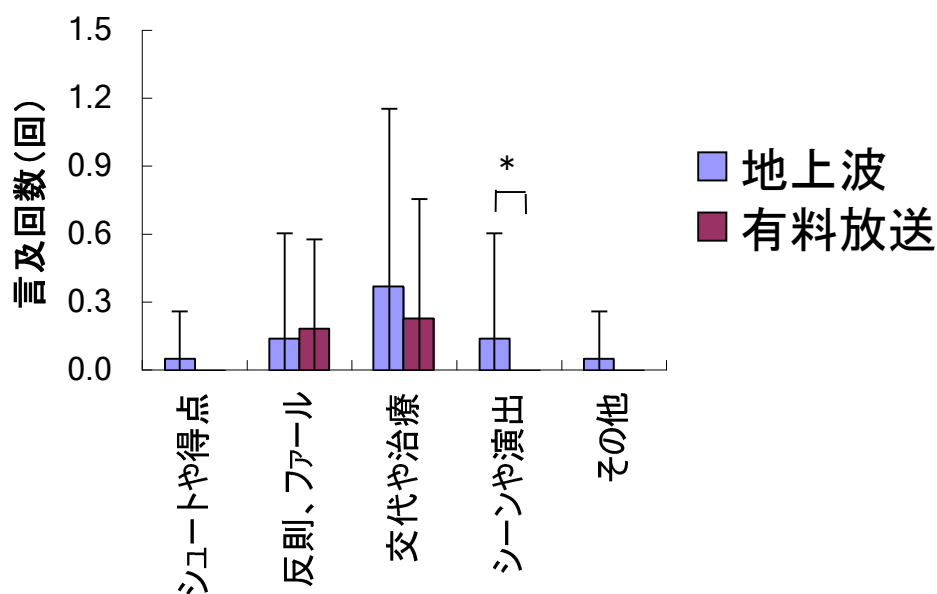


図 28. 解説者のプレーに関する言及 2

#### 3-3-4. 解説者の人物に対する知覚的説明について

表 26 に解説者の人物に対する知覚的説明として分類したものをまとめた。

表 26. 解説者の人物に対する知覚的説明

|      | 認知的(回) | 情動的(回) | 他者認知(回) |
|------|--------|--------|---------|
| 地上波  | 1.4    | 0.3    | 0.3     |
| 標準偏差 | 1.9    | 0.6    | 0.6     |
| 有料放送 | 1.8    | 0.8    | 0.1     |
| 標準偏差 | 1.4    | 1.1    | 0.4     |

解説者の人物に対する知覚的説明の内訳は地上波、認知的方法が  $1.4 \pm 1.9$  回、情動的方法が  $0.3 \pm 0.6$  回、一般他者の認知による方法が  $0.3 \pm 0.6$  回だった。有料放送は、認知的方法が  $1.8 \pm 1.4$  回、情動的方法が  $0.8 \pm 1.1$  回、一般他者の認知による方法が  $0.1 \pm 0.4$  回だった。両群の比較において有意差は見られなかった。解説者の人物に対する知覚的説明の言及回数を図 29 に示した。

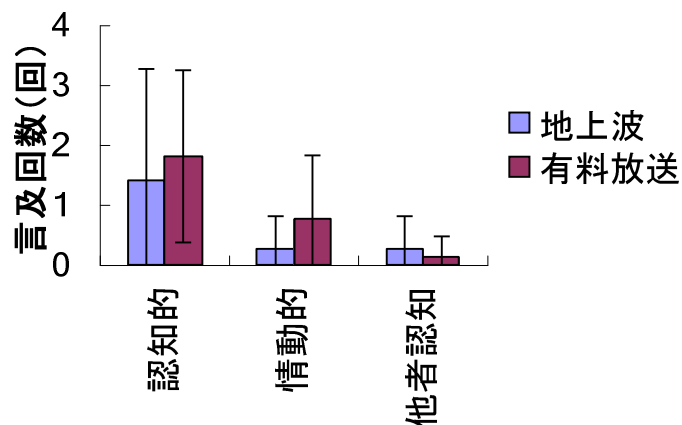


図 29. 解説者による人物に対する知覚説明

### 3-3-5. 解説者の心理描写について

表 27 に解説者の心理描写として分類したものをまとめたものを示した。

表 27. 解説者の心理描写についての言及

|      | 行動の叙述(回) | 思考(回) |
|------|----------|-------|
| 地上波  | 0.7      | 0.7   |
| 標準偏差 | 1.4      | 0.9   |
| 有料放送 | 0.6      | 1.0   |
| 標準偏差 | 1.0      | 1.5   |

解説者が人物に対する説明において心理描写を行った内訳は地上波で、行動の叙述の表現が  $0.7 \pm 1.4$  回、思考が  $0.7 \pm 0.9$  回だった。有料放送では、行動の叙述の表現が  $0.6 \pm 1.0$  回、思考が  $1.0 \pm 1.5$  回だった。両群の比較において、有意差は見られなかった。解説者の心理描写をまとめたものを図 30 に示した。

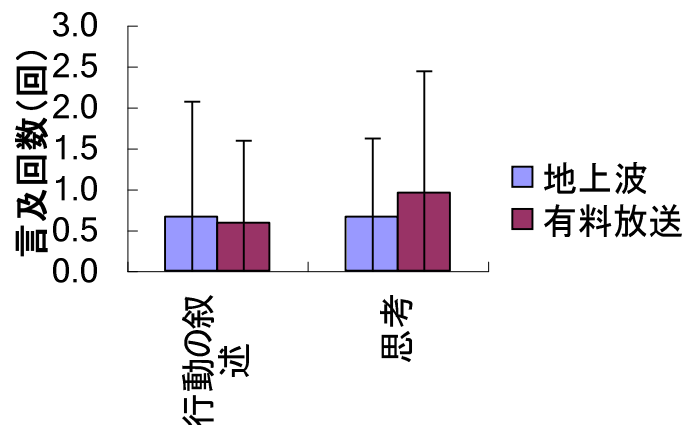


図 30. 解説者の心理描写の表現

### 3-3-6. 解説者の考えや意見

対人知覚を通じて言及者が自身の考えや感情を示し、説明が加えられた場合の解説者の考えや意見等の項目を表 28 にまとめた。

表 28. 解説者の考えや意見等

|      | 賞賛(回) | コメント(回) | 理解(回) | 疑問(回) | 共感(回) | シンパシー(回) |
|------|-------|---------|-------|-------|-------|----------|
| 地上波  | 3.6   | 0.1     | 0.0   | 0.3   | 0.0   | 0.0      |
| 標準偏差 | 3.6   | 0.3     | 0.0   | 0.6   | 0.0   | 0.2      |
| 有料放送 | 3.3   | 0.0     | 0.0   | 0.2   | 0.0   | 0.0      |
| 標準偏差 | 2.9   | 0.0     | 0.2   | 0.5   | 0.0   | 0.0      |

|      | 応援(回) | 期待(回) | 示唆(回) | 意見(回) | 仮定(回) | エラー(回) | 注目(回) |
|------|-------|-------|-------|-------|-------|--------|-------|
| 地上波  | 0.0   | 0.2   | 0.3   | 2.3   | 0.6   | 0.0    | 0.2   |
| 標準偏差 | 0.0   | 0.5   | 0.7   | 2.1   | 1.2   | 0.0    | 0.4   |
| 有料放送 | 0.0   | 0.1   | 0.3   | 1.5   | 0.7   | 0.5    | 0.5   |
| 標準偏差 | 0.2   | 0.4   | 0.5   | 1.1   | 0.9   | 0.8    | 0.8   |

解説者の考えや意見等の内訳は地上波では、賞賛が  $3.6 \pm 3.6$  回、コメントの引用が  $0.1 \pm 0.3$  回、理解を示すが  $0.0 \pm 0.0$  回、疑問を提示するが  $0.3 \pm 0.6$  回、共感が  $0.0 \pm 0.0$  回、シンパシーが  $0.0 \pm 0.2$  回、応援が  $0.0 \pm 0.0$  回、期待が  $0.2 \pm 0.5$  回、示唆が  $0.3 \pm 0.7$  回、意見が  $2.3 \pm 2.1$  回、仮定の状況の言及が  $0.6 \pm 1.2$  回、エラーの言及が  $0.0 \pm 0.0$  回、注目すべき選手の言及が  $0.2 \pm 0.4$  回だった。有料放送では、賞賛が  $3.3 \pm 2.9$  回、コメントの引用が  $0.0 \pm 0.0$  回、理解を示すが  $0.0 \pm 0.2$  回、疑問を提示するが  $0.2 \pm 0.5$  回、共感が  $0.0 \pm 0.0$  回、シンパシーが  $0.0 \pm 0.0$  回、応援が  $0.0 \pm 0.2$  回、期待が  $0.1 \pm 0.4$  回、示唆が  $0.3 \pm 0.5$  回、意見が  $1.5 \pm 1.1$  回、仮定の状況の言及が  $0.7 \pm 0.9$  回、エラーの言及が  $0.5 \pm 0.8$  回、注目すべき選手の言及が  $0.5 \pm 0.8$  回だった。各項目で両群を比較した結果、コメントの引用、エラーの言及に有意差が見られた。賞賛、理解を示す、疑問を提示する、共感、シンパシー、応援、期待、示唆、意見、仮定の状況の言及、注目すべき選手の言及においては有意

差は見られなかった。言及者の考えや意見等をまとめたものを図 31、32 に示した。

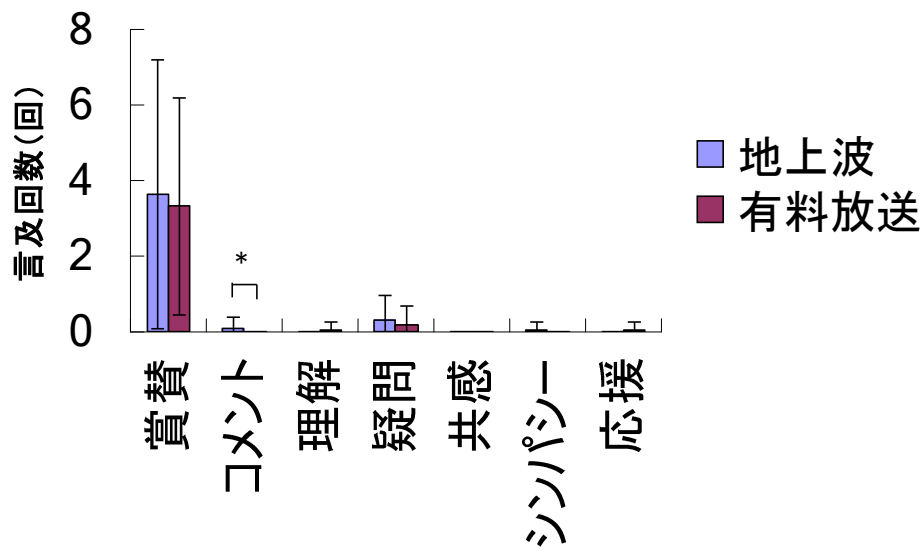


図 31. 解説者の考えや意見等 1

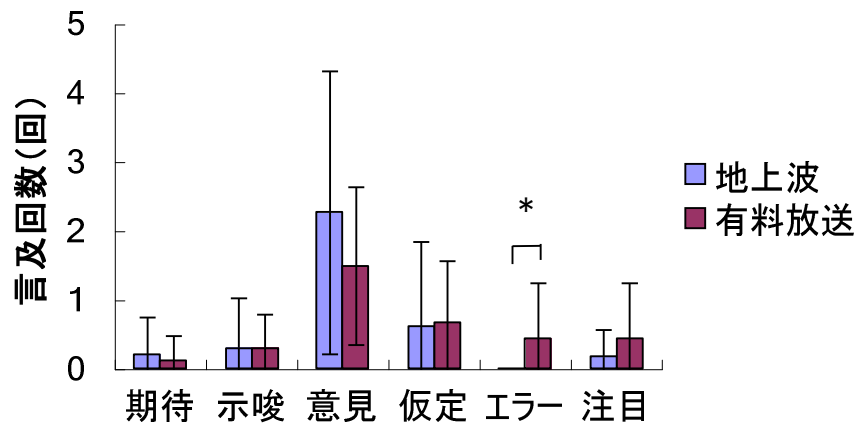


図 32. 解説者の考えや意見等 2

### 3-4. 勝ちチームに対する言及について

#### 3-4-1. 試合結果の分類

次に、試合結果による分類を行う。表 29 に試合結果によるチームの分類を示した。以下では、地上波放送と有料放送において、試合結果が同じチームを一つの集団として、地上波と有料放送の比較を行う。

表 29. 試合結果によるチームの分類

|      |                                                  |
|------|--------------------------------------------------|
| 勝ち   | 韓国、アルゼンチン、ガーナ、オランダ、日本、チリ、スイス                     |
| 負け   | ギリシャ、ナイジェリア、セルビア、デンマーク、カメルーン、ホンジュラス、スペイン         |
| 引き分け | 南アフリカ、メキシコ、ウルグアイ、フランス、イングランド、アメリカ、コートジボワール、ポルトガル |

#### 3-4-2. 勝ちチームの人物についての言及

はじめに勝ちチーム同士の比較を行う。表 30 に勝ちチーム同士の地上波、有料放送の言及人数、言及回数、言及の多い人物をまとめた。

表 30. 勝ちチームの言及人数、言及回数、言及の多い人物

|      | 言及人数(人) | 言及回数(回) | 言及の多い人物の人数(人) |
|------|---------|---------|---------------|
| 地上波  | 17.0    | 402.0   | 7.4           |
| 標準偏差 | 1.3     | 82.1    | 1.3           |
| 有料放送 | 16.6    | 378.4   | 7.0           |
| 標準偏差 | 2.2     | 143.7   | 1.2           |

地上波で言及された人数は  $17.0 \pm 1.3$  人で、有料放送で言及された人数は  $16.6 \pm 2.2$  人であった。両群間に統計学的な有意差はなかった。言及回数は地上波で  $402.0 \pm 82.1$  回で、有料放送で  $378.4 \pm 143.7$  回であった。言及回数に関しては両群間に統計学的な有意差があった。両群の言及回数を図 33 に示した。

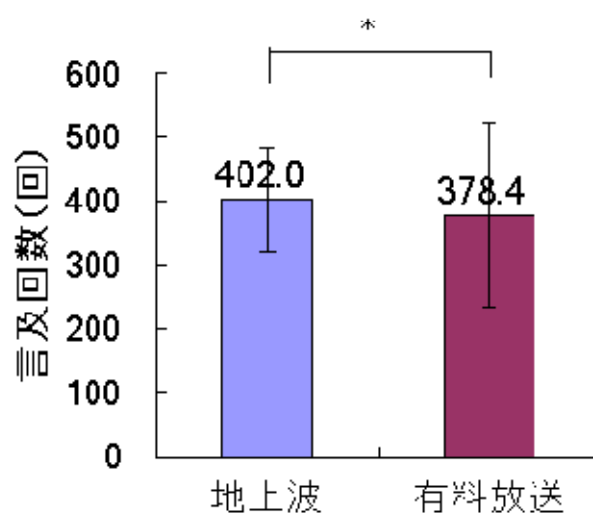


図 33. 勝ちチームの言及回数

言及の多い人物の人数は、地上波で  $7.4 \pm 1.3$  人で有料放送では  $7.0 \pm 1.2$  人だった。両群間に統計学的な有意差はなかった。

表 31 に地上波、有料放送の人物に対する説明が加えられた回数、帰属に関する言及回数、プレーに関する言及回数、知覚的説明を用いた言及回数、心理描写の回数、言及者の考えや意見を表明した回数をまとめた。

表 31. 勝ちチームの人物に関する説明と、その説明の内訳

|      | 言及計<br>(回) | 帰属(回) | プレー<br>(回) | 知覚的<br>(回) | 心理描写<br>(回) | 考えや意見<br>(回) |
|------|------------|-------|------------|------------|-------------|--------------|
| 地上波  | 191.1      | 46.1  | 107.4      | 9.7        | 8.1         | 19.7         |
| 標準偏差 | 38.6       | 12.0  | 25.3       | 4.5        | 5.0         | 9.8          |
| 有料放送 | 171.3      | 38.4  | 95.6       | 10.7       | 9.0         | 17.6         |
| 標準偏差 | 70.1       | 19.8  | 46.6       | 6.0        | 7.5         | 8.5          |

勝ちチームで人物に対する説明が加えられたのは地上波で  $191.1 \pm 38.6$  回で、そのうち、帰属に関する言及が  $46.1 \pm 12.0$  回、プレーに関する言及が  $107.4 \pm 25.3$  回、認知方法が  $9.7 \pm 4.5$  回、心理描写が  $8.1 \pm 5.0$  回、言及者の考えや意見が  $19.7 \pm 9.8$  回だった。有料放送では、人物に対する説明が加えられたのは  $171.3 \pm 70.1$  回で、帰属に関する言及は  $38.4 \pm 19.8$  回あり、プレーに関する言及が  $95.6 \pm 46.6$  回、認知方法が  $10.7 \pm 6.0$  回、心理描写が  $9.0 \pm 7.5$  回、言及者の意見や考えが  $17.6 \pm 8.5$  回あった。それぞれに有意差は見られなかった。図 34 に、人物に対する説明が加えられた回数を、図 35 にその説明の内訳として帰属、プレー、認知方法、心理描写、言及者の意見や考えを示した。

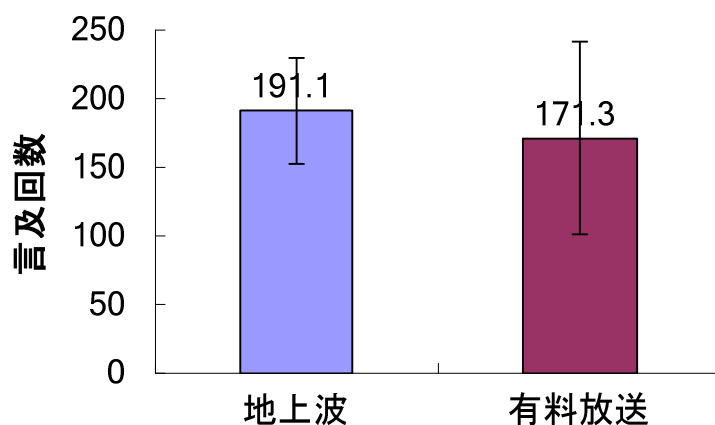


図 34. 勝ちチームの人物に対して説明がなされた回数

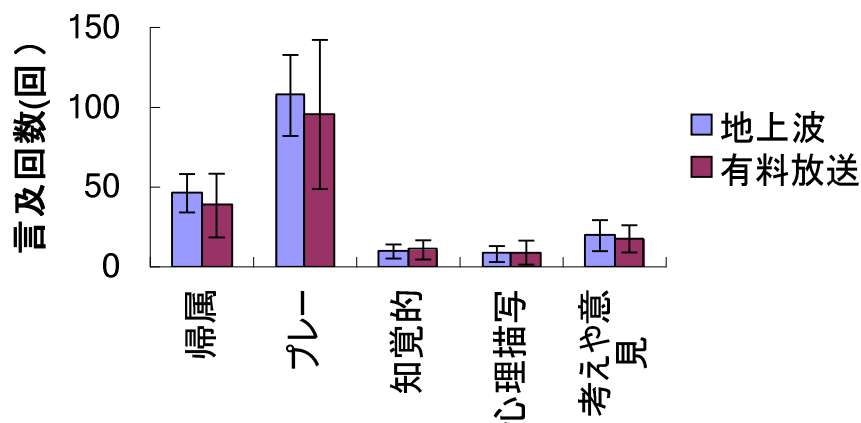


図 35. 勝ちチームの人物になされた説明の内訳

### 3-4-3. 帰属に関する言及について

帰属に関する言及の内訳を表 33 にまとめた。

表 32. 勝ちチームの帰属に関する言及

|      | 外見(回) | 内面(回) | 過去(回) | 所属(回) | 能力(回) | ファッション(回) |
|------|-------|-------|-------|-------|-------|-----------|
| 地上波  | 3.1   | 4.3   | 5.7   | 11.1  | 12.0  | 0.6       |
| 標準偏差 | 3.5   | 3.5   | 5.4   | 7.3   | 5.9   | 1.0       |
| 有料放送 | 0.6   | 2.3   | 6.7   | 14.6  | 8.6   | 0.1       |
| 標準偏差 | 0.5   | 2.1   | 5.4   | 7.6   | 5.6   | 0.4       |

|      | 役割(回) | 体調やケガ(回) | 家族や血縁(回) | 出身や人種・エスニシティ(回) | パーソナリティ(回) | その他(回) |
|------|-------|----------|----------|-----------------|------------|--------|
| 地上波  | 6.1   | 2.1      | 0.1      | 0.6             | 0.0        | 0.3    |
| 標準偏差 | 3.4   | 3.2      | 0.4      | 0.8             | 0.0        | 0.5    |
| 有料放送 | 2.1   | 2.0      | 0.1      | 0.6             | 0.0        | 0.7    |
| 標準偏差 | 1.6   | 1.6      | 0.4      | 1.1             | 0.0        | 0.8    |

勝ちチームの帰属に関する言及の内訳は地上波で、外見が  $3.1 \pm 3.5$  回、内面が  $4.3 \pm 3.5$  回、過去の業績が  $5.7 \pm 5.4$  回、所属が  $11.1 \pm 7.3$  回、スポーツ能力が  $12.0 \pm 5.9$  回、ファッションが  $0.6 \pm 1.0$  回、チームにおける役割が  $6.1 \pm 3.4$  回、体調やケガが  $2.1 \pm 3.2$  回、家族や血縁が  $0.1 \pm 0.4$  回、出身や人種・エスニシティが  $0.6 \pm 0.8$  回、パーソナリティが  $0.0 \pm 0.0$  回、その他が  $0.3 \pm 0.5$  回であった。有料放送では、外見が  $0.6 \pm 0.5$  回、内面が  $2.3 \pm 2.1$  回、過去の業績が  $6.7 \pm 5.4$  回、所属が  $14.6 \pm 7.6$  回、スポーツ能力が  $8.6 \pm 5.6$  回、ファッションが  $0.1 \pm 0.4$  回、チームにおける役割が  $2.1 \pm 1.6$  回、体調やケガが  $2.0 \pm 1.6$  回、家族や血縁が  $0.1 \pm 0.4$  回、出身や人種・エスニシティが  $0.6 \pm 1.1$  回、パーソナリティが  $0.0 \pm 0.0$  回、その他が  $0.7 \pm 0.8$  回であった。両群の比較において、ファッションに有意差が見られ、外見、内面、過去の業績、所属、スポーツ能力、チームにおける役割、体調やケガ、家族や血縁、出身や人種・エスニシティ、パーソナリティ、その他に有意差は見られなか

った。勝ちチームの帰属に関する言及回数を図 36、37 に示した。

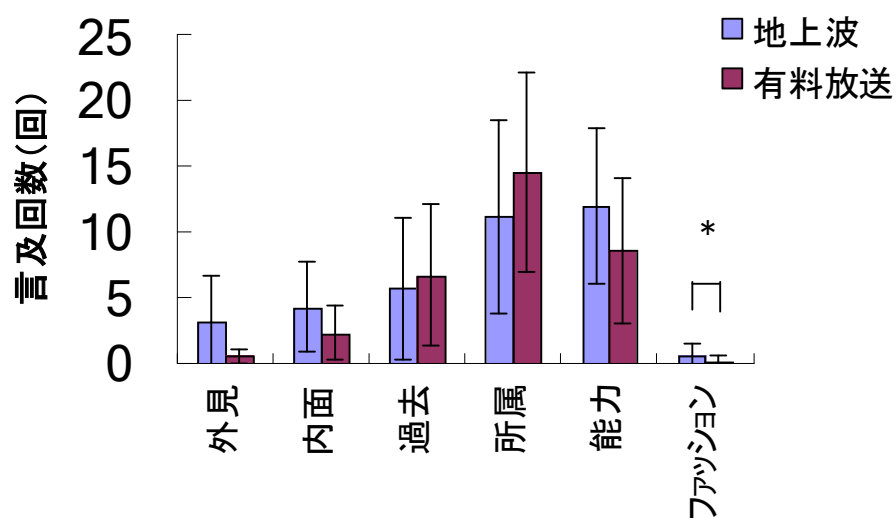


図 36. 勝ちチームの帰属に関する言及 1

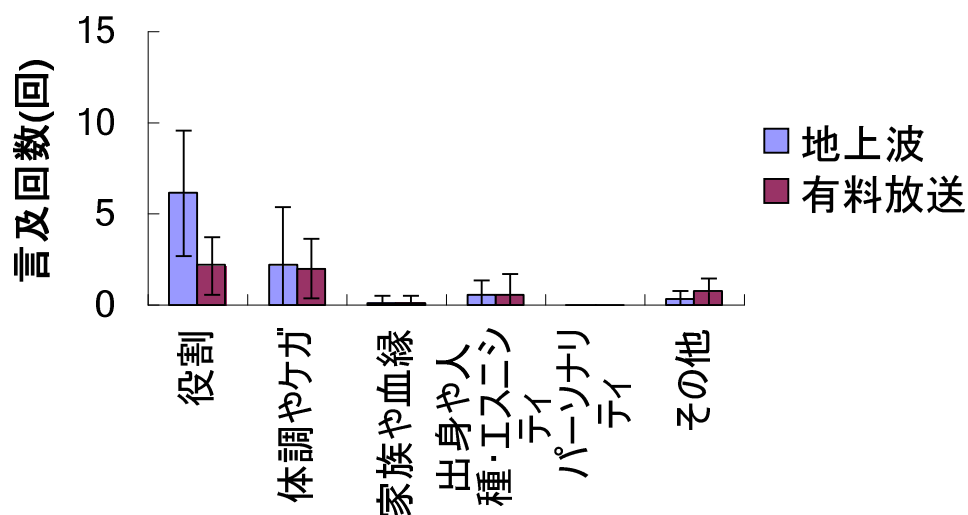


図 37. 勝ちチームの帰属に関する言及 2

#### 3-4-4. 勝ちチームのプレーに関する言及について

勝ちチームのプレーに関する言及の内訳を表 33 にまとめた。

表 33. 勝ちチームのプレーに関する言及の内訳

|      | ボールの動き<br>(回) | 攻撃や守備<br>(回) | 対人関係(回) | 体勢や存在<br>(回) | CK, FKなど<br>(回) |
|------|---------------|--------------|---------|--------------|-----------------|
| 地上波  | 18.4          | 18.3         | 2.6     | 35.6         | 3.3             |
| 標準偏差 | 6.8           | 10.9         | 2.8     | 10.2         | 1.7             |
| 有料放送 | 25.7          | 12.1         | 4.9     | 25.3         | 3.7             |
| 標準偏差 | 18.5          | 9.4          | 3.2     | 14.8         | 1.8             |

|      | シュートや得点<br>(回) | 反則、ファール<br>(回) | 交代や治療<br>(回) | シーンや演出<br>(回) | その他(回) |
|------|----------------|----------------|--------------|---------------|--------|
| 地上波  | 9.9            | 8.4            | 7.4          | 3.6           | 0.0    |
| 標準偏差 | 1.9            | 4.6            | 3.0          | 1.1           | 0.0    |
| 有料放送 | 6.9            | 6.1            | 6.7          | 3.6           | 0.6    |
| 標準偏差 | 3.6            | 3.2            | 2.1          | 3.0           | 0.8    |

プレーに関する言及の内訳は、地上波で、ボールの動きが  $18.4 \pm 6.8$  回、攻撃や守備が  $18.3 \pm 10.9$  回、対人関係が  $2.6 \pm 2.8$  回、体勢や存在が  $35.6 \pm 10.2$  回、CK、FK が  $3.3 \pm 1.7$  回、シュートや得点が  $9.9 \pm 1.9$  回、反則・ファールが  $8.4 \pm 4.6$  回、交代や治療が  $7.4 \pm 3.0$  回、シーンや演出が  $3.6 \pm 1.1$  回、その他が  $0.0 \pm 0.0$  回であった。有料放送で、ボールの動きが  $25.7 \pm 18.5$  回、攻撃や守備が  $12.1 \pm 9.4$  回、対人関係が  $4.9 \pm 3.2$  回、体勢や存在が  $25.3 \pm 14.8$  回、CK、FK が  $3.7 \pm 1.8$  回、シュートや得点が  $6.9 \pm 3.6$  回、反則・ファールが  $6.1 \pm 3.2$  回、交代や治療が  $6.7 \pm 2.1$  回、シーンや演出が  $3.6 \pm 3.0$  回、その他が  $0.6 \pm 0.8$  回であった。両群の比較において有意差は見られなかった。勝ちチームのプレーに関する言及回数を図 38、39 に示した。

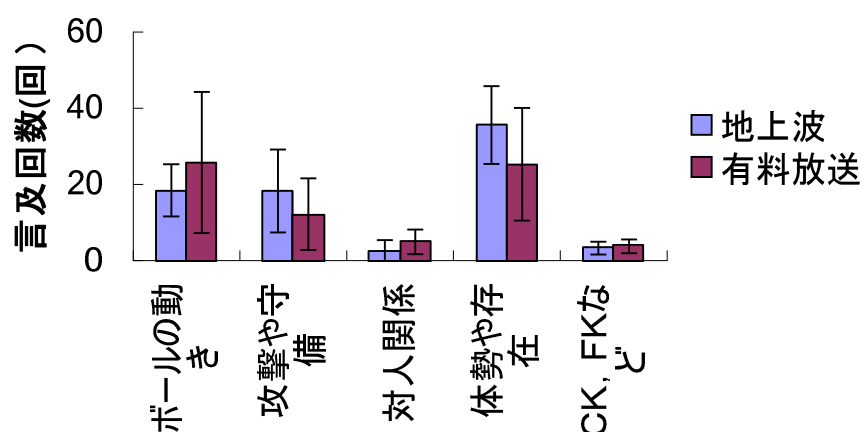


図 38. 勝ちチームのプレーに関する言及 1

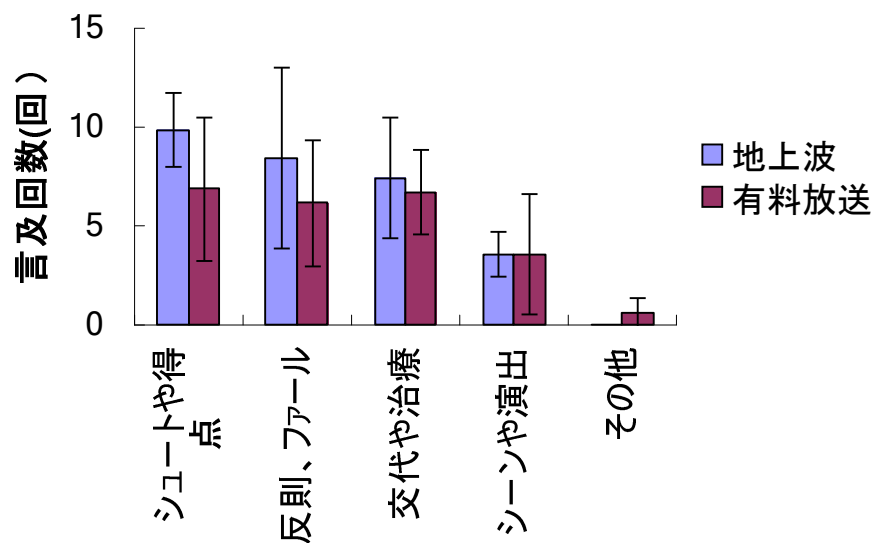


図 39. 勝ちチームのプレーに関する言及 2

#### 3-4-5. 人物に対する知覚的説明について

表 34 に勝ちチームの人物に対する知覚的説明として分類したものをまとめた。

表 34. 勝ちチームの人物に対する知覚的説明

|      | 認知的(回) | 情動的(回) | 他者認知(回) |
|------|--------|--------|---------|
| 地上波  | 6.1    | 1.0    | 2.6     |
| 標準偏差 | 3.4    | 1.2    | 2.0     |
| 有料放送 | 5.9    | 3.1    | 1.7     |
| 標準偏差 | 3.3    | 2.7    | 1.5     |

勝ちチームの人物に対する知覚的説明の内訳は、地上波で認知的方法が  $6.1 \pm 3.4$  回、情動的方法が  $1.0 \pm 1.2$  回、一般他者の認知による方法が  $2.6 \pm 2.0$  回だった。有料放送では、認知的方法が  $5.9 \pm 3.3$  回、情動的方法が  $3.1 \pm 2.7$  回、一般他者の認知による方法が  $1.7 \pm 1.5$  回だった。両群の比較において有意差は見られなかった。人物に対する説明方法の言及回数を図 40 に示した。

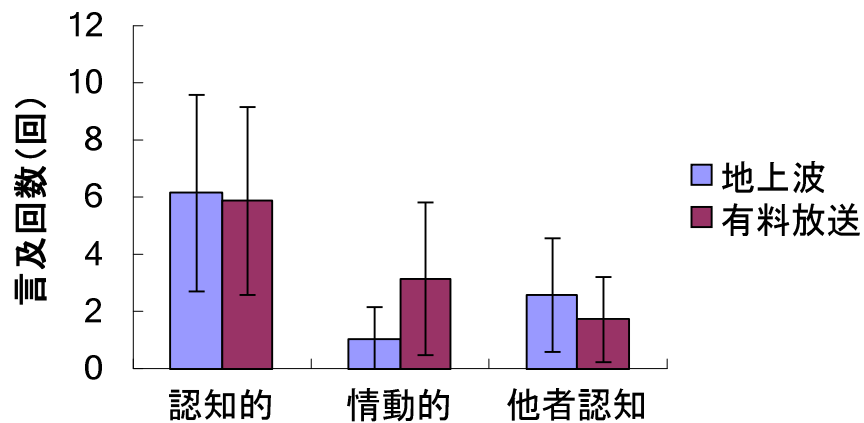


図 40. 勝ちチームの人物に対する知覚的説明

#### 3-4-6. 勝ちチームの心理描写について

表 35 に勝ちチームの心理描写として分類したものをまとめたものを示した。

表 35. 勝ちチームの心理描写についての言及

|      | 行動の叙述(回) | 思考(回) |
|------|----------|-------|
| 地上波  | 5.7      | 2.4   |
| 標準偏差 | 4.4      | 1.9   |
| 有料放送 | 6.4      | 2.6   |
| 標準偏差 | 6.9      | 1.5   |

勝ちチームの人物に対する説明において心理描写が行われた内訳は地上波で、行動の叙述の表現が  $5.7 \pm 4.4$  回、思考が  $2.4 \pm 1.9$  回だった。有料放送では、行動の叙述の表現が  $6.4 \pm 6.9$  回、思考が  $2.6 \pm 1.5$  回だった。両群の比較において、有意差は見られなかった。心理描写をまとめたものを図 41 に示した。

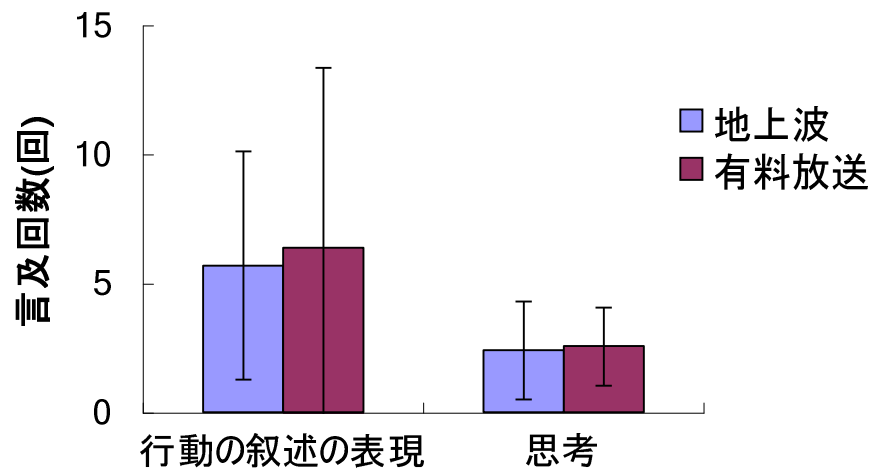


図 41. 勝ちチームの心理描写の言及回数

#### 3-4-7. 勝ちチームに対する言及者の考えや意見等

勝ちチームに対して対人知覚を通じて言及者が自身の考えや感情を示し説明が加えられた場合の「言及者の考えや意見等」の項目を表 36 にまとめた。

表 36. 勝ちチームの言及者の考えや意見等

|      | 賞賛(回) | コメント(回) | 理解(回) | 疑問(回) | 共感(回) | シンパシー(回) |
|------|-------|---------|-------|-------|-------|----------|
| 地上波  | 9.9   | 0.7     | 0.0   | 1.6   | 0.0   | 0.1      |
| 標準偏差 | 6.6   | 1.0     | 0.0   | 0.8   | 0.0   | 0.4      |
| 有料放送 | 10.0  | 1.6     | 0.0   | 1.4   | 0.1   | 0.0      |
| 標準偏差 | 5.4   | 2.6     | 0.0   | 1.8   | 0.4   | 0.0      |

|      | 応援(回) | 期待(回) | 示唆(回) | 意見(回) | 仮定(回) | エラー(回) | 注目(回) |
|------|-------|-------|-------|-------|-------|--------|-------|
| 地上波  | 0.0   | 0.9   | 0.7   | 3.7   | 1.1   | 0.6    | 0.4   |
| 標準偏差 | 0.0   | 1.1   | 1.1   | 3.1   | 1.1   | 1.1    | 0.8   |
| 有料放送 | 0.1   | 0.7   | 0.1   | 1.7   | 0.4   | 0.4    | 0.9   |
| 標準偏差 | 0.4   | 0.8   | 0.4   | 1.4   | 0.8   | 0.8    | 0.9   |

勝ちチームの言及者の考えや意見等の内訳は地上波で、賞賛が  $9.9 \pm 6.6$  回、コメントの引用が  $0.7 \pm 1.0$  回、理解を示すが  $0.0 \pm 0.0$  回、疑問を提示するが  $1.6 \pm 0.8$  回、共感が  $0.0 \pm 0.0$  回、シンパシーが  $0.1 \pm 0.4$  回、応援が  $0.0 \pm 0.0$  回、期待が  $0.9 \pm 1.1$  回、示唆が  $0.7 \pm 1.1$  回、意見が  $3.7 \pm 3.1$  回、仮定の状況の言及が  $1.1 \pm 1.1$  回、エラーの言及が  $0.6 \pm 1.1$  回、注目すべき選手の言及が  $0.4 \pm 0.8$  回だった。有料放送では、賞賛が  $10.0 \pm 5.4$  回、コメントの引用が  $1.6 \pm 2.6$  回、理解を示すが  $0.0 \pm 0.0$  回、疑問を提示するが  $1.4 \pm 1.8$  回、共感が  $0.1 \pm 0.4$  回、シンパシーが  $0.0 \pm 0.0$  回、応援が  $0.1 \pm 0.4$  回、期待が  $0.7 \pm 0.8$  回、示唆が  $0.1 \pm 0.4$  回、意見が  $1.7 \pm 1.4$  回、仮定の状況の言及が  $0.4 \pm 0.8$  回、エラーの言及が  $0.4 \pm 0.8$  回、注目すべき選手の言及が  $0.9 \pm 0.9$  回だった。各項目で両群を比較した結果有

意差は見られなかった。勝ちチームの言及者の考えや意見等をまとめたものを図 42、43 に示した。

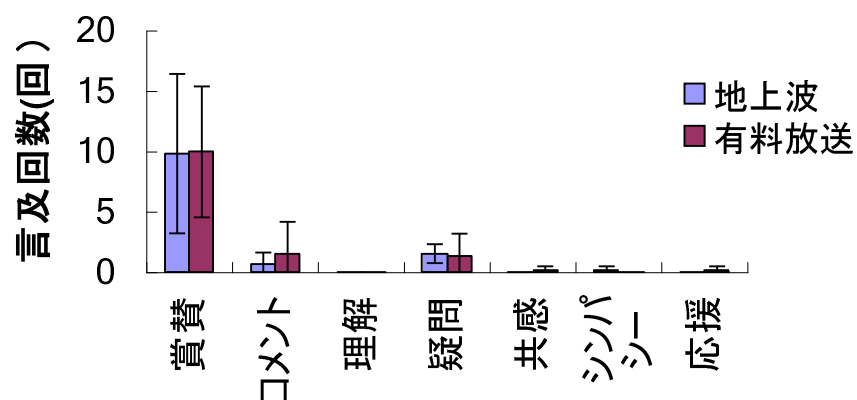


図 42. 勝ちチームの言及者の考えや意見等 1

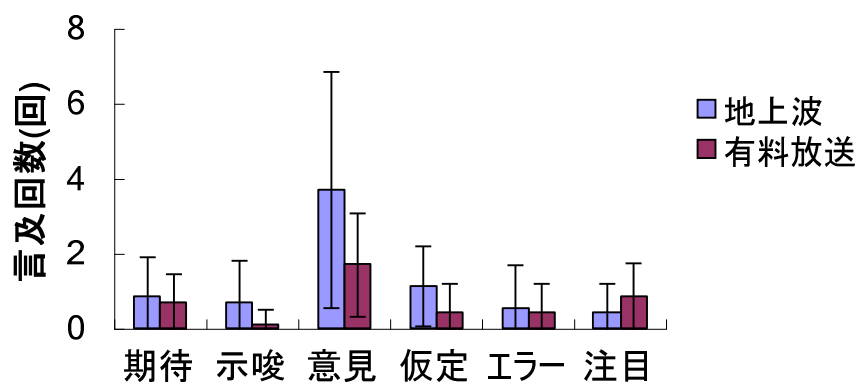


図 43. 勝ちチームの言及者の考えや意見等 2

### 3-5. 負けチームに対する言及について

#### 3-5-1. 負けチームの人物についての言及

次に負けチーム同士の比較を行う。表 37 に負けチーム同士の地上波、有料放送の言及人数、言及回数、言及の多い人物をまとめた。

表 37. 言及人数、言及回数、言及の多い人物

|      | 人数(人) | 回数(回) | 言及の多い人物の人数(人) |
|------|-------|-------|---------------|
| 地上波  | 17.0  | 306.0 | 6.9           |
| 標準偏差 | 2.3   | 184.2 | 2.7           |
| 有料放送 | 15.9  | 351.4 | 7.9           |
| 標準偏差 | 0.7   | 136.2 | 1.1           |

負けチームに地上波で言及された人数は  $17.0 \pm 2.3$  人で、有料放送で言及された人数は  $15.9 \pm 0.7$  人であった。両群間に統計学的な有意差はなかった。言及回数は地上波で  $402.0 \pm 82.1$  回で、有料放送で  $378.4 \pm 143.7$  回であった。言及回数に関しては両群間に統計学的な有意差はなかった。言及の多い人物の人数は、地上波で  $6.9 \pm 2.7$  人で有料放送では  $7.9 \pm 1.1$  人だった。両群間に統計学的な有意差はなかった。

表 38 に地上波、有料放送の人物に対する説明が加えられた回数、帰属に関する言及回数、プレーに関する言及回数、知覚的方法を用いた言及回数、心理描写の回数、言及者の考えや意見を表明した回数をまとめた。

表 38. 負けチームの人物に関する説明と、その説明の内訳

|      | 言及計(回) | 帰属(回) | プレー(回) | 知覚的(回) | 心理描写(回) | 考えや意見(回) |
|------|--------|-------|--------|--------|---------|----------|
| 地上波  | 152.3  | 51.9  | 70.4   | 11.7   | 5.1     | 13.1     |
| 標準偏差 | 57.7   | 23.8  | 30.5   | 9.7    | 3.0     | 6.1      |
| 有料放送 | 142.3  | 42.7  | 69.0   | 13.1   | 3.4     | 14.0     |
| 標準偏差 | 45.2   | 20.8  | 21.4   | 7.1    | 1.7     | 3.1      |

負けチームで人物に対する説明が加えられたのは地上波で  $152.3 \pm 57.7$  回で、そのうち、帰属に関する言及が  $51.9 \pm 23.8$  回、プレーに関する言及が  $70.4 \pm 30.5$  回、知覚的説明が  $11.7 \pm 9.7$  回、心理描写が  $5.1 \pm 3.0$  回、言及者の考えや意見が  $13.1 \pm 6.1$  回だった。有料放送では、人物に対する説明が加えられたのは  $142.3 \pm 45.2$  回で、帰属に関する言及は  $42.7 \pm 20.8$  回あり、プレーに関する言及が  $69.0 \pm 21.4$  回、知覚的説明が  $13.1 \pm 7.1$  回、心理描写が  $3.4 \pm 1.7$  回、言及者の意見や考えが  $14.0 \pm 3.1$  回あった。それぞれに有意差は見られなかった。図 44 に、負けチームの人物に対する説明が加えられた回数を、図 45 にその説明の内訳として帰属、プレー、認知方法、心理描写、言及者の意見や考えを示した。

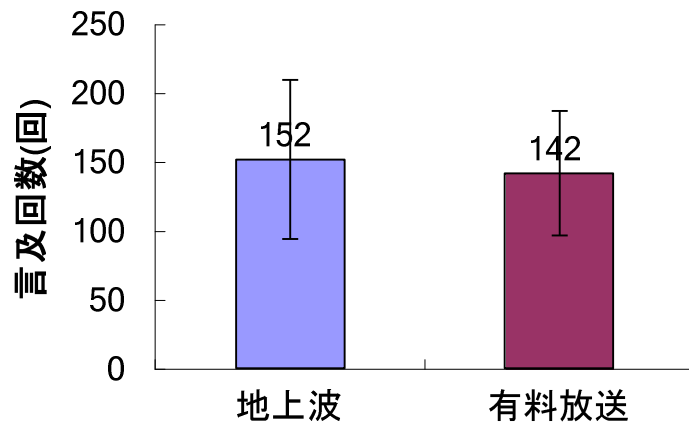


図 44. 負けチームの人物に対して説明がなされた回数

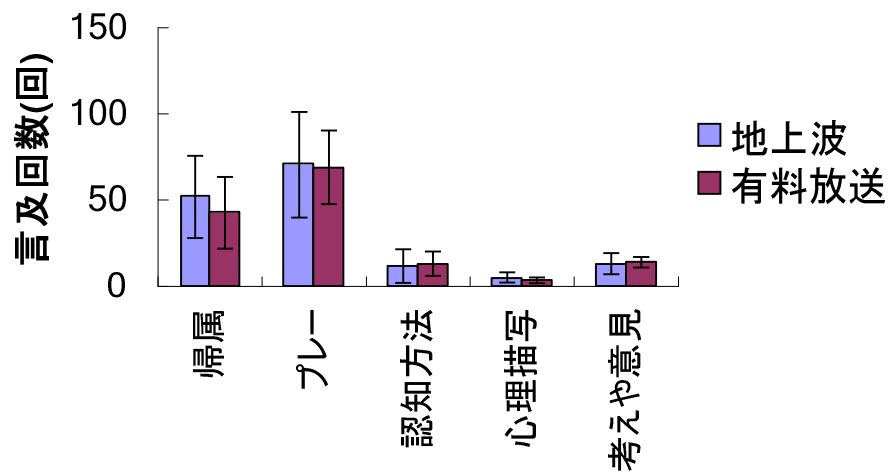


図 45. 負けチームの人物になされた説明の内訳

### 3-5-2. 負けチームの帰属に関する言及について

負けチームの帰属に関する言及の内訳を表 39 にまとめた。

表 39. 負けチームの帰属に関する言及

|      | 外見(回) | 内面(回) | 過去(回) | 所属(回) | 能力(回) | ファッション(回) |
|------|-------|-------|-------|-------|-------|-----------|
| 地上波  | 6.6   | 7.9   | 7.1   | 9.0   | 10.1  | 0.7       |
| 標準偏差 | 4.2   | 5.9   | 8.4   | 8.2   | 7.7   | 0.8       |
| 有料放送 | 6.0   | 3.4   | 5.3   | 15.4  | 8.3   | 0.4       |
| 標準偏差 | 7.4   | 2.4   | 3.5   | 7.6   | 6.1   | 1.1       |

|      | 役割(回) | 体調やケガ(回) | 家族や血縁<br>(回) | 出身や人種・エ<br>スニシティ(回) | パーソナリティ<br>(回) | その他(回) |
|------|-------|----------|--------------|---------------------|----------------|--------|
| 地上波  | 6.7   | 2.3      | 0.7          | 0.3                 | 0.0            | 0.4    |
| 標準偏差 | 3.3   | 3.1      | 1.9          | 0.5                 | 0.0            | 0.5    |
| 有料放送 | 2.1   | 0.6      | 0.6          | 0.1                 | 0.0            | 0.4    |
| 標準偏差 | 2.0   | 0.8      | 1.1          | 0.4                 | 0.0            | 0.5    |

負けチームの帰属に関する言及の内訳は地上波で、外見が  $6.6 \pm 4.2$  回、内面が  $7.9 \pm 5.9$  回、過去の業績が  $7.1 \pm 8.4$  回、所属が  $10.1 \pm 7.7$  回、スポーツ能力が  $10.1 \pm 7.7$  回、ファッションが  $0.7 \pm 0.8$  回、チームにおける役割が  $6.7 \pm 3.3$  回、体調やケガが  $2.3 \pm 3.1$  回、家族や血縁が  $0.7 \pm 1.9$  回、出身や人種・エスニシティが  $0.3 \pm 0.5$  回、パーソナリティが  $0.0 \pm 0.0$  回、その他が  $0.4 \pm 0.5$  回であった。有料放送では、外見が  $6.0 \pm 7.4$  回、内面が  $3.4 \pm 2.4$  回、過去の業績が  $5.3 \pm 3.5$  回、所属が  $15.4 \pm 7.6$  回、スポーツ能力が  $8.3 \pm 6.1$  回、ファッションが  $0.4 \pm 1.1$  回、チームにおける役割が  $2.1 \pm 2.0$  回、体調やケガが  $0.6 \pm 1.8$  回、家族や血縁が  $0.6 \pm 1.1$  回、出身や人種・エスニシティが  $0.1 \pm 0.4$  回、パーソナリティが  $0.0 \pm 0.0$  回、その他が  $0.4 \pm 0.5$  回であった。両群の比較において、チームにおける役割に有意差が見られ、外見、内面、過去の業績、所属、スポーツ能力、ファッション、体調やケガ、家族や血縁、出身や人種・エスニシティ、パーソナリティ、その他に有意差は見られなかった。帰属に関する言及回数を図 46、47 に示した。

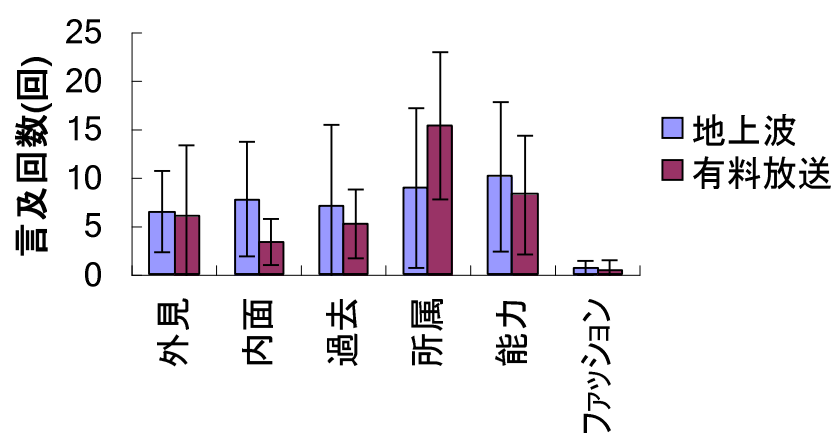


図 46. 負けチームの帰属に関する言及 1

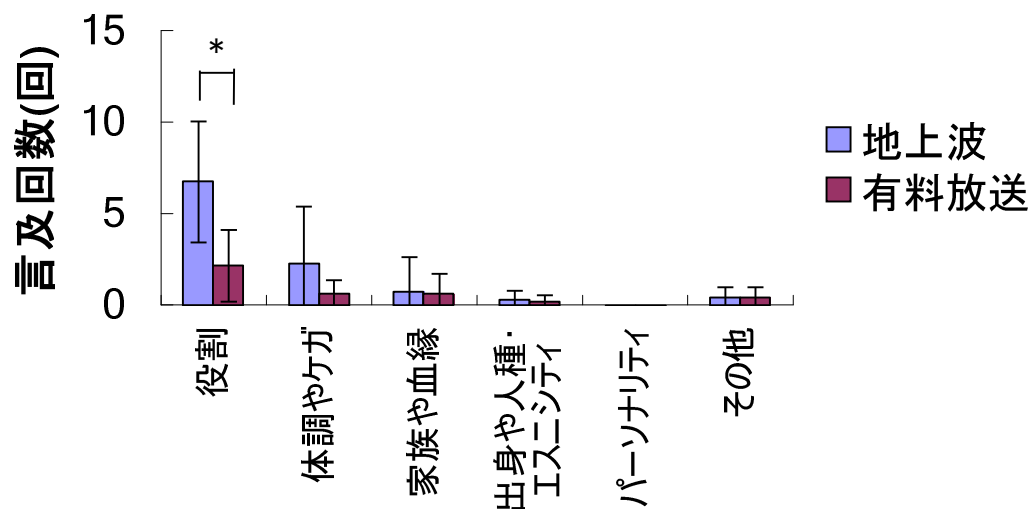


図 47. 負けチームの帰属に関する言及 2

### 3-5-3. 負けチームのプレーに関する言及について

負けチームのプレーに関する言及の内訳を表 40 にまとめた。

表 40. 負けチームのプレーに関する言及の内訳

|      | ボールの動き<br>(回) | 攻撃や守備<br>(回) | 対人関係(回) | 体勢や存在(回) | CK, FKなど(回) |
|------|---------------|--------------|---------|----------|-------------|
| 地上波  | 13.4          | 8.0          | 2.4     | 24.9     | 3.6         |
| 標準偏差 | 7.5           | 2.7          | 3.4     | 11.1     | 2.4         |
| 有料放送 | 17.4          | 6.1          | 3.0     | 20.7     | 3.1         |
| 標準偏差 | 8.4           | 2.6          | 1.9     | 7.6      | 1.6         |

|      | シュートや得点<br>(回) | 反則、ファール<br>(回) | 交代や治療(回) | シーンや演出<br>(回) | その他(回) |
|------|----------------|----------------|----------|---------------|--------|
| 地上波  | 7.4            | 4.3            | 5.6      | 0.9           | 0.0    |
| 標準偏差 | 7.2            | 3.3            | 3.7      | 1.1           | 0.0    |
| 有料放送 | 6.0            | 5.1            | 6.9      | 0.4           | 0.1    |
| 標準偏差 | 4.1            | 1.8            | 3.8      | 0.5           | 0.4    |

負けチームのプレーに関する言及の内訳は、地上波で、ボールの動きが  $13.4 \pm 7.5$  回、攻撃や守備が  $8.0 \pm 2.7$  回、対人関係が  $2.4 \pm 3.4$  回、体勢や存在が  $24.9 \pm 11.1$  回、CK、FK が  $3.6 \pm 2.4$  回、シュートや得点が  $7.4 \pm 7.2$  回、反則・ファールが  $4.3 \pm 3.3$  回、交代や治療が  $5.6 \pm 3.7$  回、シーンや演出が  $0.9 \pm 1.1$  回、その他が  $0.0 \pm 0.0$  回であった。有料放送で、ボールの動きが  $17.4 \pm 8.4$  回、攻撃や守備が  $6.1 \pm 2.6$  回、対人関係が  $3.0 \pm 1.9$  回、体勢や存在が  $20.7 \pm 7.6$  回、CK、FK が  $3.1 \pm 1.6$  回、シュートや得点が  $6.0 \pm 4.1$  回、反則・ファールが  $5.1 \pm 1.8$  回、交代や治療が  $6.9 \pm 3.8$  回、シーンや演出が  $0.4 \pm 0.5$  回、その他が  $0.1 \pm 0.4$  回であった。両群の比較において有意差は見られなかった。負けチームのプレーに関する言及回数を図 48、49 に示した。

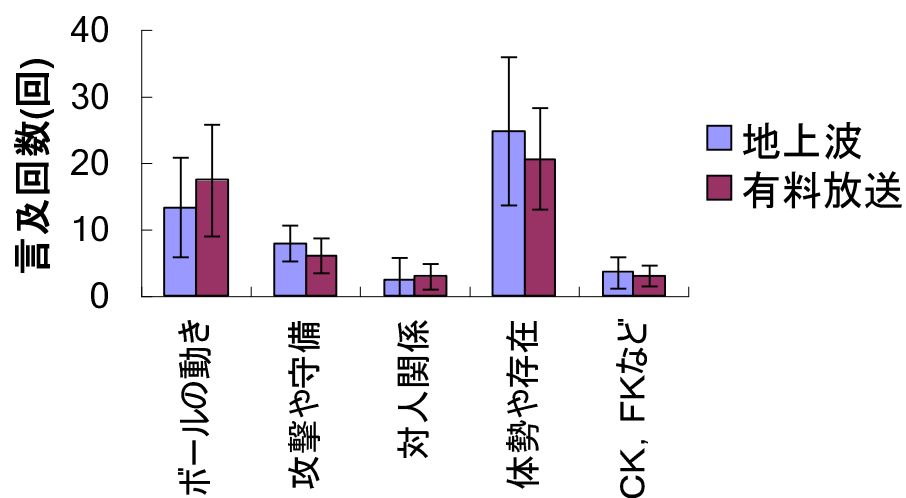


図 48. 負けチームのプレーに関する言及 1

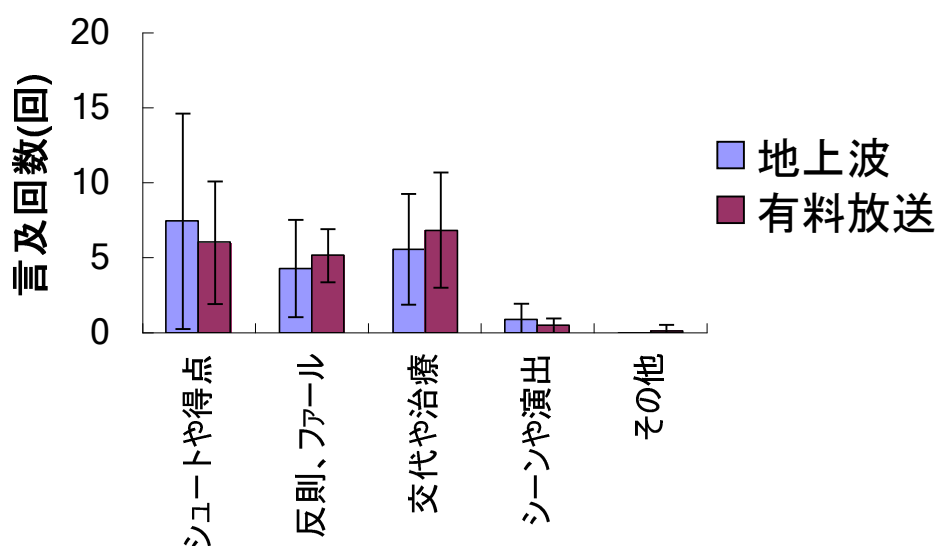


図 49. 負けチームのプレーに関する言及 2

#### 3-5-4. 人物に対する知覚的説明について

表 41 に人物に対する知覚的説明として分類したものをまとめた。

表 41. 負けチームの人物に対する知覚的説明

|      | 認知的(回) | 情動的(回) | 他者認知(回) |
|------|--------|--------|---------|
| 地上波  | 7.7    | 0.9    | 3.1     |
| 標準偏差 | 5.8    | 0.9    | 4.5     |
| 有料放送 | 9.6    | 1.7    | 1.9     |
| 標準偏差 | 5.3    | 1.7    | 2.1     |

負けチームの人物に対する知覚的説明の内訳は認知的方法が  $7.7 \pm 5.8$  回、情動的方法が  $0.9 \pm 0.9$  回、一般他者の認知による方法が  $3.1 \pm 4.5$  回だった。有料放送では、認知的方法が  $9.6 \pm 5.3$  回、情動的方法が  $1.7 \pm 1.7$  回、一般他者の認知による方法が  $1.9 \pm 2.1$  回だった。両群の比較において有意差は見られなかった。人物に対する説明方法の言及回数を図 50 に示した。

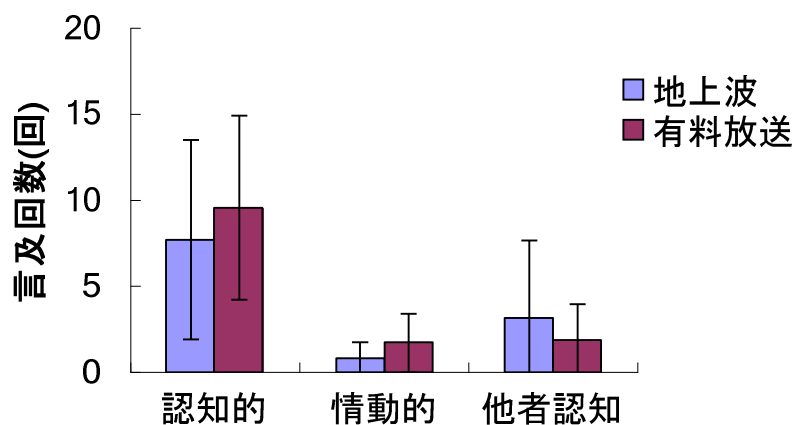


図 50. 負けチームの人物に対する知覚的説明

### 3-5-5. 負けチームの心理描写について

表 42 に負けチームの心理描写として分類したものをまとめたものを示した。

表 42. 負けチームの心理描写についての言及

|      | 行動の叙述(回) | 思考(回) |
|------|----------|-------|
| 地上波  | 2.9      | 2.3   |
| 標準偏差 | 2.7      | 1.9   |
| 有料放送 | 1.7      | 1.7   |
| 標準偏差 | 1.4      | 1.8   |

負けチームの人物に対する説明において心理描写が行われた内訳は地上波で、行動の叙述の表現が  $2.9 \pm 2.7$  回、思考が  $2.3 \pm 1.9$  回だった。有料放送では、行動の叙述の表現が  $1.7 \pm 1.4$  回、思考が  $1.7 \pm 1.8$  回だった。両群の比較において、有意差は見られなかった。心理描写をまとめたものを図 51 に示した。

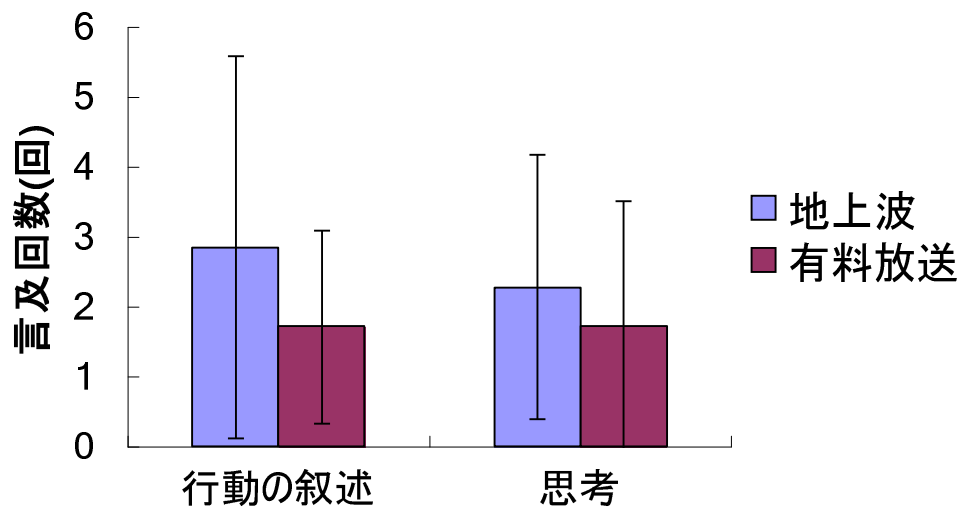


図 51. 負けチームの心理描写の言及回数

### 3-5-6. 負けチームに対する言及者の考えや意見等

負けチームに対して対人知覚を通じて言及者が自身の考えや感情を示し説明が加えられた場合の「言及者の考えや意見等」の項目を表 43 にまとめた。

表 43. 負けチームの言及者の考えや意見等

|      | 賞賛(回) | コメント(回) | 理解(回) | 疑問(回) | 共感(回) | シンパシー(回) |
|------|-------|---------|-------|-------|-------|----------|
| 地上波  | 4.1   | 0.7     | 0.0   | 0.9   | 0.0   | 0.1      |
| 標準偏差 | 2.9   | 1.0     | 0.0   | 1.2   | 0.0   | 0.4      |
| 有料放送 | 4.7   | 1.0     | 0.1   | 1.1   | 0.0   | 0.1      |
| 標準偏差 | 2.0   | 0.6     | 0.4   | 1.1   | 0.0   | 0.4      |

|      | 応援(回) | 期待(回) | 示唆(回) | 意見(回) | 仮定(回) | エラー(回) | 注目(回) |
|------|-------|-------|-------|-------|-------|--------|-------|
| 地上波  | 0.0   | 0.6   | 0.4   | 3.4   | 1.9   | 0.4    | 0.6   |
| 標準偏差 | 0.0   | 0.5   | 0.5   | 2.4   | 1.9   | 0.5    | 0.8   |
| 有料放送 | 0.0   | 0.6   | 0.6   | 2.4   | 0.9   | 1.9    | 0.6   |
| 標準偏差 | 0.0   | 0.8   | 0.5   | 1.6   | 0.9   | 1.3    | 1.1   |

負けチームに対しての言及者の考えや意見等の内訳は地上波で、賞賛が  $4.1 \pm 2.9$  回、コメントの引用が  $0.7 \pm 1.0$  回、理解を示すが  $0.0 \pm 0.0$  回、疑問を提示するが  $0.9 \pm 1.2$  回、共感が  $0.0 \pm 0.0$  回、シンパシーが  $0.1 \pm 0.4$  回、応援が  $0.0 \pm 0.0$  回、期待が  $0.6 \pm 0.5$  回、示唆が  $0.4 \pm 0.5$  回、意見が  $3.4 \pm 2.4$  回、仮定の状況の言及が  $1.9 \pm 1.9$  回、エラーの言及が  $0.4 \pm 0.5$  回、注目すべき選手の言及が  $0.6 \pm 0.8$  回だった。有料放送では、賞賛が  $4.7 \pm 2.0$  回、コメントの引用が  $1.0 \pm 0.6$  回、理解を示すが  $0.1 \pm 0.4$  回、疑問を提示するが  $1.1 \pm 1.1$  回、共感が  $0.0 \pm 0.0$  回、シンパシーが  $0.1 \pm 0.4$  回、応援が  $0.0 \pm 0.0$  回、期待が  $0.6 \pm 0.8$  回、示唆が  $0.6 \pm 0.5$  回、意見が  $2.4 \pm 1.6$  回、仮定の状況の言及が  $0.9 \pm 0.9$  回、エラーの言

及が  $1.9 \pm 1.3$  回、注目すべき選手の言及が  $0.6 \pm 1.1$  回だった。各項目で両群を比較した結果、エラーの言及に有意差が見られた。賞賛、コメントの引用、理解を示す、疑問を提示する、共感、シンパシー、応援、期待、示唆、意見、仮定の状況の言及、注目すべき選手の言及に有意差は見られなかった。負けチームの言及者の考えや意見等をまとめたものを図 52、53 に示した。

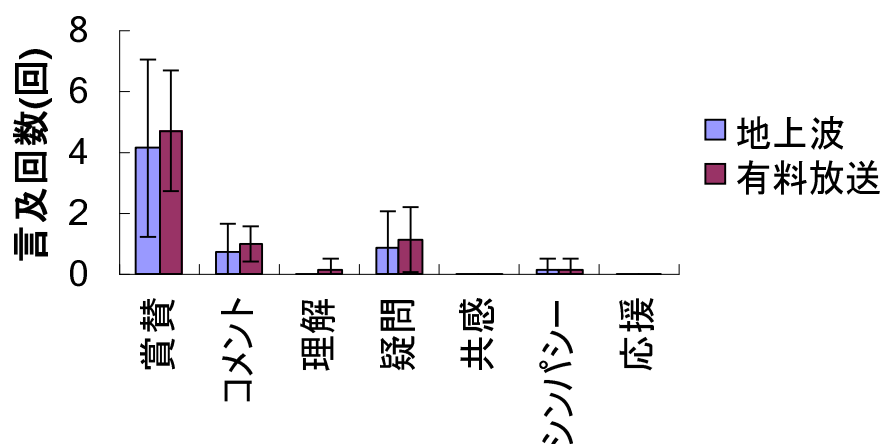


図 52. 負けチームの言及者の考えや意見等 1

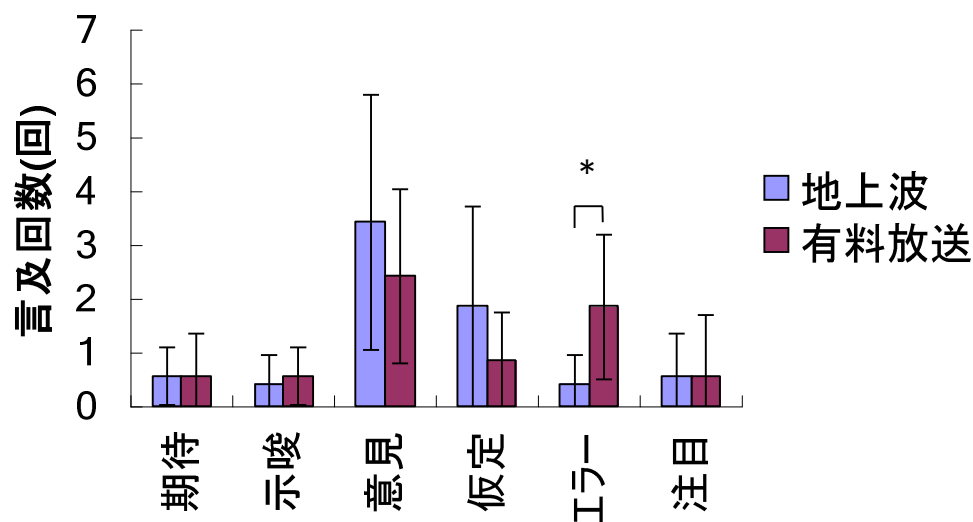


図 53. 負けチームの言及者の考えや意見等 2

### 3-6. 引き分けチームに対する言及について

#### 3-6-1. 引き分けチームの人物についての言及

次に引き分けチーム同士の比較を行う。表 44 に引き分けチーム同士の地上波、有料放送の言及人数、言及回数、言及の多い人物をまとめた。

表 44. 言及人数、言及回数、言及の多い人物

|      | 人数(人) | 回数(回) | 言及の多い人物の人数(人) |
|------|-------|-------|---------------|
| 地上波  | 13.4  | 208.0 | 13.3          |
| 標準偏差 | 6.0   | 72.9  | 5.0           |
| 有料放送 | 11.7  | 179.7 | 11.3          |
| 標準偏差 | 6.5   | 88.2  | 5.7           |

引き分けチームに地上波で言及された人数は  $13.4 \pm 6.0$  人で、有料放送で言及された人数は  $11.7 \pm 6.5$  人であった。両群間に統計学的な有意差はなかった。言及回数は地上波で  $208.0 \pm 72.9$  回で、有料放送で  $179.7 \pm 88.2$  回であった。言及回数に関して両群間に統計学的な有意差はなかった。言及の多い人物の人数は、地上波で  $13.3 \pm 5.0$  人で有料放送では  $11.3 \pm 5.7$  人だった。両群間に統計学的な有意差はなかった。

表 45 に地上波、有料放送の人物に対する説明が加えられた回数、帰属に関する言及回数、プレーに関する言及回数、知覚的説明を用いた言及回数、心理描写の回数、言及者の考えや意見を表明した回数をまとめた。

表 45. 引き分けチームの人物に関する説明と、その説明の内訳

|      | 言及計(回) | 帰属(回) | プレー(回) | 知覚的(回) | 心理描写(回) | 考えや意見(回) |
|------|--------|-------|--------|--------|---------|----------|
| 地上波  | 139.5  | 38.1  | 73.9   | 8.6    | 4.5     | 14.4     |
| 標準偏差 | 48.1   | 14.2  | 45.7   | 7.2    | 3.0     | 8.2      |
| 有料放送 | 134.6  | 35.6  | 60.9   | 11.1   | 9.5     | 17.5     |
| 標準偏差 | 30.4   | 5.6   | 17.4   | 4.2    | 3.7     | 5.7      |

引き分けチームで人物に対する説明が加えられたのは地上波で  $139.5 \pm 48.1$  回で、そのうち、帰属に関する言及が  $38.1 \pm 14.2$  回、プレーに関する言及が  $73.9 \pm 45.7$  回、知覚的説明が  $8.6 \pm 7.2$  回、心理描写が  $4.5 \pm 3.0$  回、言及者の考えや意見が  $14.4 \pm 8.2$  回だった。有料放送では、人物に対する説明が加えられたのは  $134.6 \pm 30.4$  回で、帰属に関する言及は  $35.6 \pm 5.6$  回あり、プレーに関する言及が  $60.9 \pm 17.4$  回、知覚的説明が  $11.1 \pm 4.2$  回、心理描写が  $9.5 \pm 3.7$  回、言及者の意見や考えが  $17.5 \pm 5.7$  回あった。心理描写に有意差が見られた。図 54 に、人物に対する説明が加えられた回数を、図 55 にその説明の内訳として帰属、プレー、知覚的説明、心理描写、言及者の意見や考えを示した。

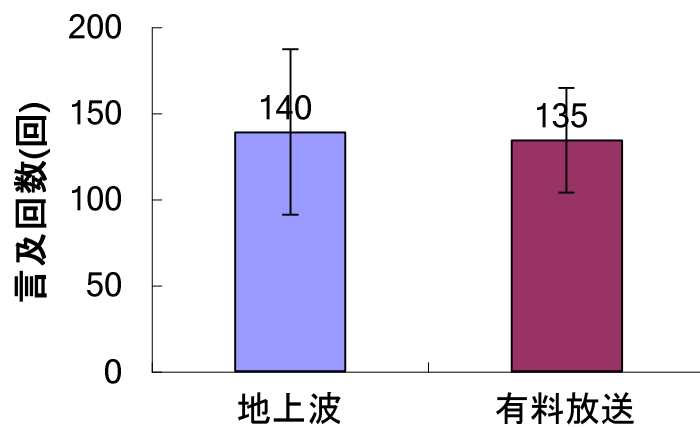


図 54. 引き分けチームの人物に対して説明がなされた回数

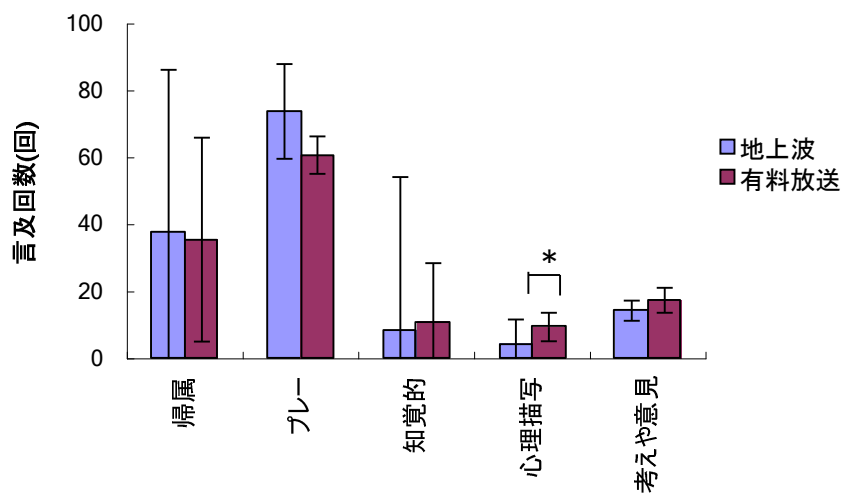


図 55. 引き分けチームの人物になされた説明の内訳

### 3-6-2. 引き分けチームの帰属に関する言及について

引き分けチームの帰属に関する言及の内訳を表 46 にまとめた。

表 46. 引き分けチームの帰属に関する言及

|      | 外見(回) | 内面(回) | 過去(回) | 所属(回) | 能力(回) | ファッション(回) |
|------|-------|-------|-------|-------|-------|-----------|
| 地上波  | 4.5   | 3.1   | 4.9   | 6.5   | 11.8  | 0.1       |
| 標準偏差 | 1.4   | 7.3   | 4.5   | 5.6   | 4.3   | 0.4       |
| 有料放送 | 2.6   | 1.8   | 9.0   | 10.9  | 4.8   | 0.1       |
| 標準偏差 | 2.2   | 2.0   | 5.1   | 3.7   | 1.8   | 0.4       |

|      | 役割(回) | 体調やケガ(回) | 家族や血縁(回) | 出身や人種・エスニシティ(回) | パーソナリティ(回) | その他(回) |
|------|-------|----------|----------|-----------------|------------|--------|
| 地上波  | 5.0   | 1.3      | 0.4      | 0.6             | 0.0        | 0.0    |
| 標準偏差 | 3.1   | 1.2      | 0.7      | 1.8             | 0.0        | 0.0    |
| 有料放送 | 2.8   | 2.1      | 0.3      | 0.9             | 0.1        | 0.4    |
| 標準偏差 | 1.3   | 2.2      | 0.7      | 2.5             | 0.4        | 1.1    |

引き分けチームの帰属に関する言及の内訳は地上波で、外見が  $4.5 \pm 1.4$  回、内面が  $3.1 \pm 7.3$  回、過去の業績が  $4.9 \pm 4.5$  回、所属が  $6.5 \pm 5.6$  回、スポーツ能力が  $11.8 \pm 4.3$  回、ファッションが  $0.1 \pm 0.4$  回、チームにおける役割が  $5.0 \pm 3.1$  回、体調やケガが  $1.3 \pm 1.2$  回、家族や血縁が  $0.4 \pm 0.7$  回、出身や人種・エスニシティが  $0.6 \pm 1.8$  回、パーソナリティが  $0.0 \pm 0.0$  回、その他が  $0.0 \pm 0.0$  回であった。有料放送では、外見が  $2.6 \pm 2.2$  回、内面が  $1.8 \pm 2.0$  回、過去の業績が  $9.0 \pm 5.1$  回、所属が  $10.9 \pm 3.7$  回、スポーツ能力が  $4.8 \pm 1.8$  回、ファッションが  $0.1 \pm 0.4$  回、チームにおける役割が  $2.8 \pm 1.3$  回、体調やケガが  $2.1 \pm 2.2$  回、家族や血縁が  $0.3 \pm 0.7$  回、出身や人種・エスニシティが  $0.9 \pm 2.5$  回、パーソナリティが  $0.1 \pm 0.4$  回、その他が  $0.4 \pm 1.1$  回であった。両群の比較において、スポーツ能力に有意差が見られた。外見、内面、過去の業績、所属、ファッション、チームにおける役割、体調やケガ、家族や血縁、出身や人種・エスニシティ、パーソナリティ、その他に有意差は見られなかった。帰属に関する言及回数を図 56、57 に示した。

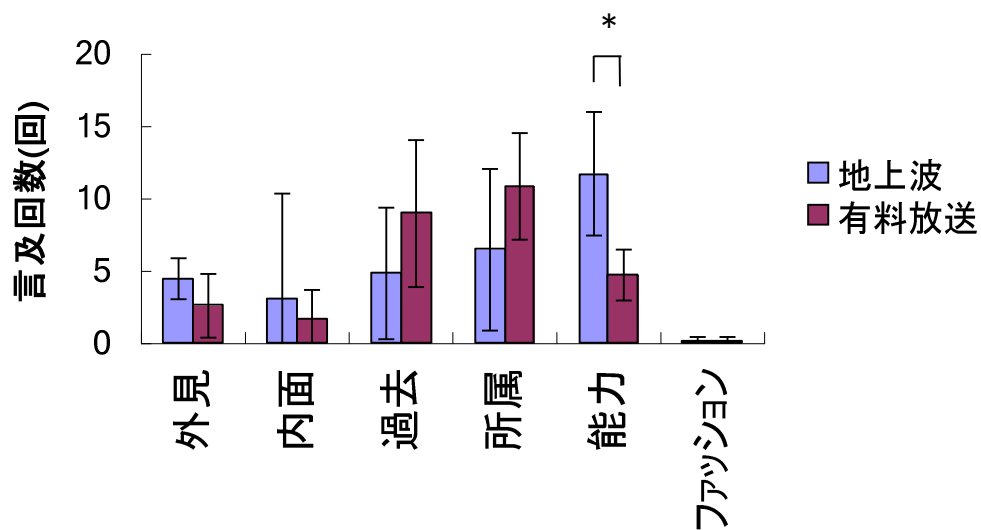


図 56. 引き分けチームの帰属に関する言及 1

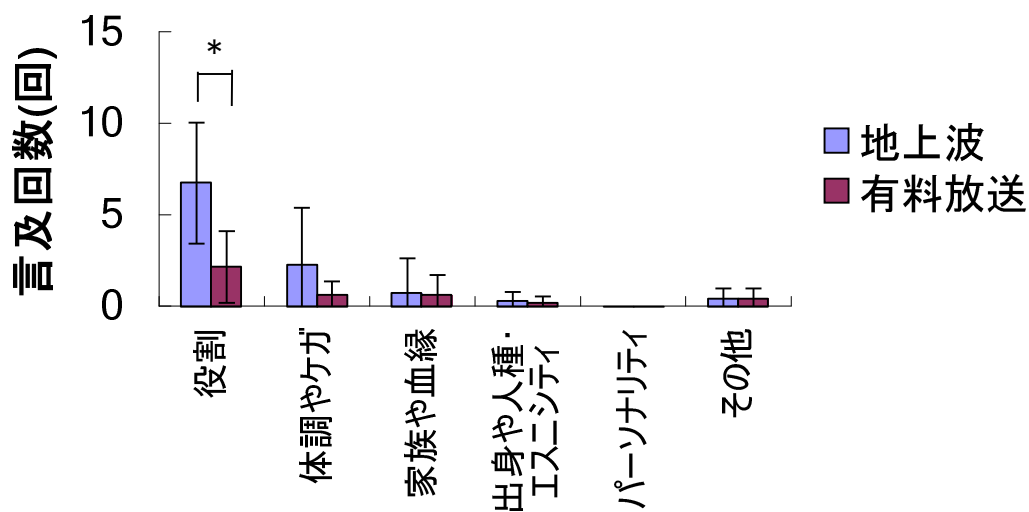


図 57. 引き分けチームの帰属に関する言及 2

### 3-6-3. 引き分けチームのプレーに関する言及について

引き分けチームのプレーに関する言及の内訳を表 47 にまとめた。

表 47. 引き分けチームのプレーに関する言及の内訳

|      | ボールの動き<br>(回) | 攻撃や守備<br>(回) | 対人関係<br>(回) | 体勢や存在<br>(回) | CK, FKなど<br>(回) |
|------|---------------|--------------|-------------|--------------|-----------------|
| 地上波  | 12.4          | 8.0          | 1.4         | 26.8         | 2.0             |
| 標準偏差 | 7.6           | 6.7          | 1.3         | 12.5         | 2.4             |
| 有料放送 | 12.9          | 4.5          | 2.6         | 17.1         | 2.6             |
| 標準偏差 | 4.6           | 2.9          | 2.4         | 7.8          | 1.7             |

|      | シュートや得点<br>(回) | 反則、ファール<br>(回) | 交代や治療<br>(回) | シーンや演出<br>(回) | その他<br>(回) |
|------|----------------|----------------|--------------|---------------|------------|
| 地上波  | 5.0            | 5.9            | 7.8          | 4.5           | 0.3        |
| 標準偏差 | 6.5            | 6.8            | 5.8          | 6.7           | 0.5        |
| 有料放送 | 5.6            | 7.9            | 6.3          | 1.4           | 0.0        |
| 標準偏差 | 3.3            | 3.6            | 2.3          | 1.4           | 0.0        |

引き分けチームのプレーに関する言及の内訳は、地上波で、ボールの動きが  $12.4 \pm 7.6$  回、攻撃や守備が  $8.0 \pm 6.7$  回、対人関係が  $1.4 \pm 1.3$  回、体勢や存在が  $26.8 \pm 12.5$  回、CK、FKが  $2.0 \pm 2.4$  回、シュートや得点が  $5.0 \pm 6.5$  回、反則・ファールが  $5.9 \pm 6.8$  回、交代や治療が  $7.8 \pm 5.8$  回、シーンや演出が  $4.5 \pm 6.7$  回、その他が  $0.3 \pm 0.5$  回であった。有料放送で、ボールの動きが  $12.9 \pm 4.5$  回、攻撃や守備が  $4.5 \pm 2.9$  回、対人関係が  $2.6 \pm 2.4$  回、体勢や存在が  $17.1 \pm 7.8$  回、CK、FKが  $2.6 \pm 1.7$  回、シュートや得点が  $5.6 \pm 3.3$  回、反則・ファールが  $7.9 \pm 3.6$  回、交代や治療が  $6.3 \pm 2.3$  回、シーンや演出が  $1.4 \pm 1.4$  回、その他が  $0.0 \pm 0.0$  回であった。両群の比較において有意差は見られなかった。引き分けチームのプレーに関する言及回数を図 58、59 に示した。

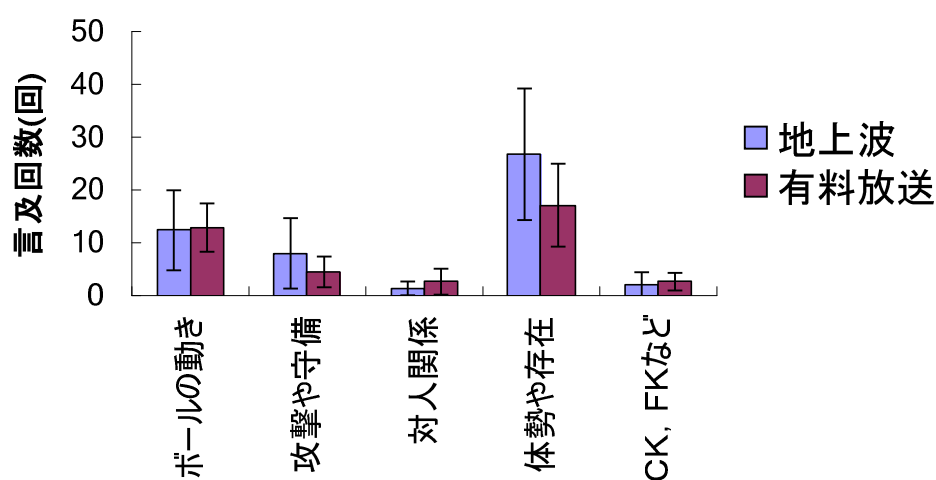


図 58. 引き分けチームのプレーに関する言及 1

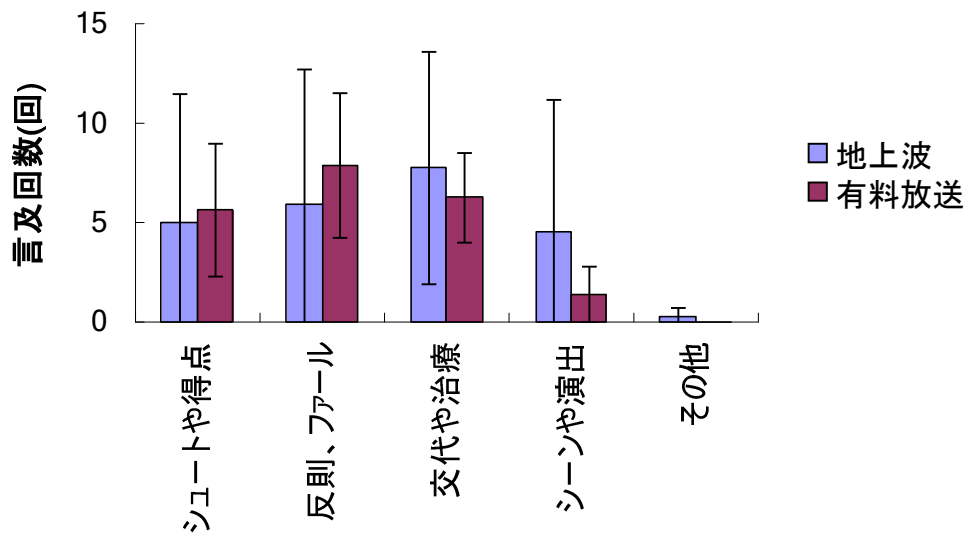


図 59. 引き分けチームのプレーに関する言及 2

#### 3-6-4. 人物に対する知覚的説明について

表 48 に人物に対する知覚的説明として分類したものをまとめた。

表 48. 引き分けチームの人物に対する知覚的説明

|      | 認知的(回) | 情動的(回) | 他者認知(回) |
|------|--------|--------|---------|
| 地上波  | 6.3    | 0.9    | 1.5     |
| 標準偏差 | 7.0    | 0.8    | 1.6     |
| 有料放送 | 5.3    | 3.9    | 2.0     |
| 標準偏差 | 2.8    | 2.4    | 1.4     |

人物に対する知覚的説明の内訳は認知的方法が  $6.3 \pm 7.0$  回、情動的方法が  $0.9 \pm 0.8$  回、一般他者の認知による方法が  $1.5 \pm 1.6$  回だった。有料放送では、認知的方法が  $5.3 \pm 2.8$  回、情動的方法が  $3.9 \pm 2.4$  回、一般他者の認知による方法が  $2.0 \pm 1.4$  回だった。両群の比較において、情動的方法に有意差が見られた。認知的方法、一般他者の認知による方法に有意差は見られなかった。引き分けチームの人物に対する知覚的説明の言及回数を図 60 に示した。

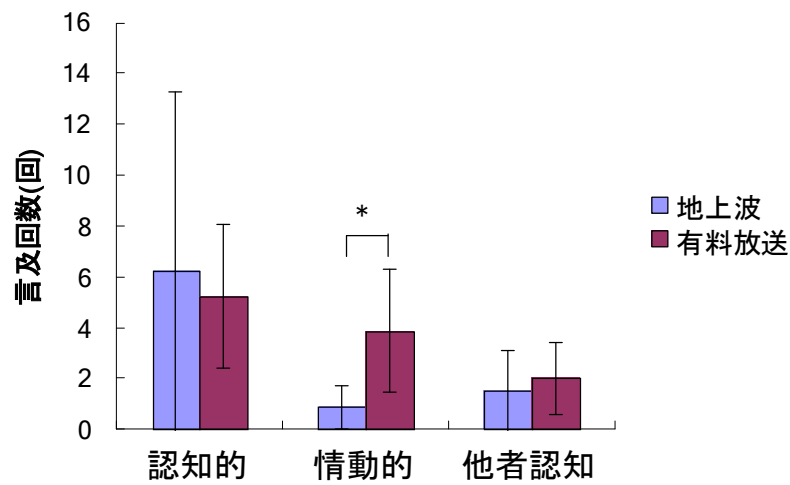


図 60. 引き分けチームの人物に対する知覚的説明

### 3-6-5. 引き分けチームの心理描写について

表○に心理描写として分類したものをまとめたものを示した。

表 49. 引き分けチームの心理描写についての言及

|      | 行動の叙述(回) | 思考(回) |
|------|----------|-------|
| 地上波  | 2.5      | 2.0   |
| 標準偏差 | 1.9      | 2.3   |
| 有料放送 | 5.8      | 3.8   |
| 標準偏差 | 3.1      | 3.5   |

引き分けチームの人物に対する説明において心理描写が行われた内訳は地上波で、行動の叙述の表現が  $2.5 \pm 1.9$  回、思考が  $2.0 \pm 2.3$  回だった。有料放送では、行動の叙述の表現が  $5.8 \pm 3.1$  回、思考が  $3.8 \pm 3.5$  回だった。両群の比較において、行動の叙述の表現に有意差が見られた。思考に有意差は見られなかった。引き分けチームの心理描写をまとめたものを図 61 に示した。

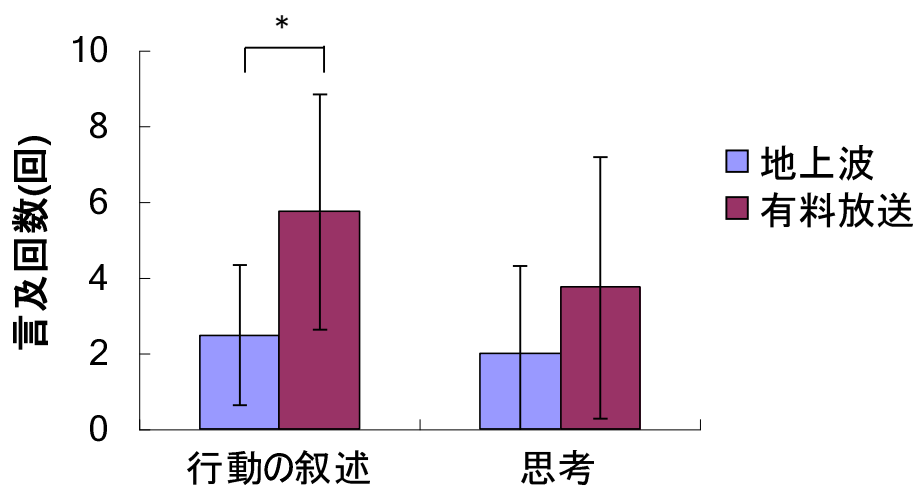


図 61. 引き分けチームの心理描写の言及回数

### 3-6-6. 引き分けチームに対する言及者の考えや意見等

引き分けチームに対して対人知覚を通じて言及者が自身の考えや感情を示し説明が加えられた場合の引き分けチームに対する「言及者の考えや意見等」の項目を表 50 にまとめた。

表 50. 引き分けチームの言及者の考えや意見等

|      | 賞賛<br>(回) | コメント<br>(回) | 理解<br>(回) | 疑問<br>(回) | 共感<br>(回) | シンパシー<br>(回) | 応援<br>(回) |
|------|-----------|-------------|-----------|-----------|-----------|--------------|-----------|
| 地上波  | 6.5       | 0.6         | 0.0       | 0.8       | 0.0       | 0.0          | 0.0       |
| 標準偏差 | 5.5       | 0.9         | 0.0       | 0.9       | 0.0       | 0.0          | 0.0       |
| 有料放送 | 5.9       | 1.9         | 0.1       | 1.6       | 0.1       | 0.5          | 0.1       |
| 標準偏差 | 2.5       | 1.9         | 0.4       | 1.3       | 0.4       | 0.8          | 0.4       |

|      | 期待(回) | 示唆(回) | 意見(回) | 仮定(回) | エラー<br>(回) | 注目<br>(回) |
|------|-------|-------|-------|-------|------------|-----------|
| 地上波  | 1.1   | 0.1   | 2.3   | 1.4   | 0.5        | 1.1       |
| 標準偏差 | 1.4   | 0.4   | 1.0   | 1.7   | 1.4        | 1.6       |
| 有料放送 | 0.5   | 0.5   | 2.5   | 1.5   | 0.6        | 1.6       |
| 標準偏差 | 0.5   | 0.5   | 2.7   | 1.5   | 0.9        | 1.6       |

引き分けチームの言及者の考えや意見等の内訳は地上波で、賞賛が  $6.5 \pm 5.5$  回、コメントの引用が  $0.6 \pm 0.9$  回、理解を示すが  $0.0 \pm 0.0$  回、疑問を提示するが  $0.8 \pm 0.9$  回、共感が  $0.0 \pm 0.0$  回、シンパシーが  $0.0 \pm 0.0$  回、応援が  $0.0 \pm 0.0$  回、期待が  $1.1 \pm 1.4$  回、示唆が  $0.1 \pm 0.4$  回、意見が  $2.3 \pm 1.0$  回、仮定の状況の言及が  $1.4 \pm 1.7$  回、エラーの言及が  $0.5 \pm 1.4$  回、注目すべき選手の言及が  $1.1 \pm 1.6$  回だった。有料放送では、賞賛が  $5.9 \pm 2.5$  回、

コメントの引用が  $1.9 \pm 1.9$  回、理解を示すが  $0.1 \pm 0.4$  回、疑問を提示するが  $1.6 \pm 1.3$  回、共感が  $0.1 \pm 0.4$  回、シンパシーが  $0.5 \pm 0.8$  回、応援が  $0.1 \pm 0.4$  回、期待が  $0.5 \pm 0.5$  回、示唆が  $0.5 \pm 0.5$  回、意見が  $2.5 \pm 2.7$  回、仮定の状況の言及が  $1.5 \pm 1.5$  回、エラーの言及が  $0.6 \pm 0.9$  回、注目すべき選手の言及が  $1.6 \pm 1.6$  回だった。各項目で両群を比較した結果、コメントの引用に有意差が見られた。賞賛、理解を示す、疑問を提示する、共感、シンパシー、応援、期待、示唆、意見、仮定の状況の言及、エラーの言及、注目すべき選手の言及に有意差は見られなかった。引き分けチームの言及者の考えや意見等をまとめたものを図 62、63 に示した。

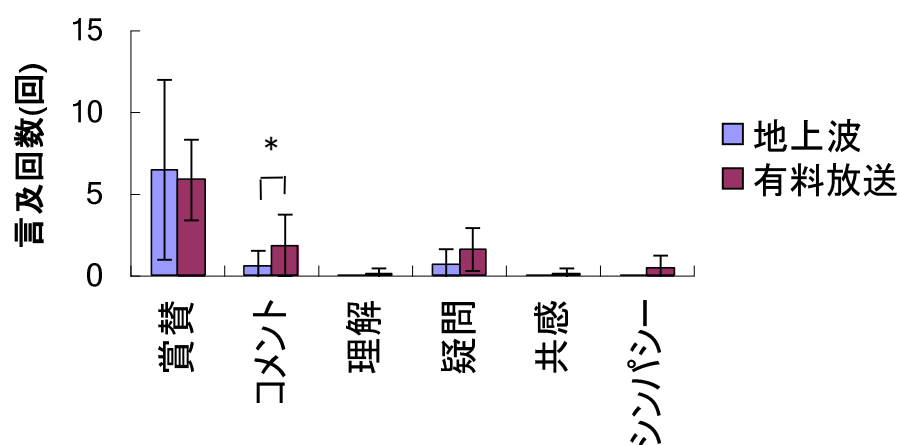


図 62. 引き分けチームの言及者の考えや意見等 1

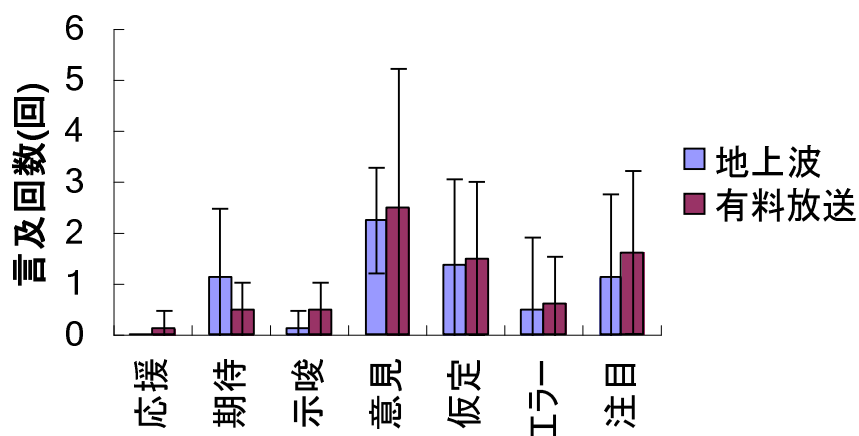


図 63. 引き分けチームの言及者の考えや意見等 2

#### 4. 考察

言及された個人名では重複しているものもあり、スターやヒーローが選択的に知覚されているのがわかるが、地上波と有料放送では多く言及された人物が異なっている。多く言及される人物は概ね、多くボールに触る人物でもある。今回、ボールに触った回数と言及された回数との相関関係は調査していないが、競技の性格上、ある程度の相関関係にあるだろう。ただ、地上波では、たとえばアルゼンチン対ナイジェリアの試合開始前に画面右上に「メッシキックオフまで後〇分」といったテロップが出ていたり、ポルトガル対コートジボワールの番組開始のアナウンサーの第一声が「いよいよクリスティアーノロナウドのワールドカップが始まります。」であったりしたように、スター選手をあらかじめ重視し、多く言及されているのではないかというイメージがある。しかし、今回の集計をした結果では特に顕著にそういったことはなかった。

言及回数に関して、全体と勝ちチームのときに地上波に多く言及されている。説明がなされた回数ではどの場合も有意な差がなかったことを考えると、地上波、特に勝ちチームに関しては、選手名が単独で言及されている場合が多いということがわかる。1986 年に行われたメキシコワールドカップの準々決勝、アルゼンチン対イングランド戦でアルゼンチンのディエゴマラドーナがディフェンス 5 人をドリブルで抜いてゴールを決めたシーンでの山本浩アナウンサーの「マラドーナ、マラドーナ・・・」と名前を連呼する実況が今日のスポーツアナウンサーにも多大なる影響を与えたと言われているが、地上波実況にその影響が出たことが考えられる。代表的なものとして、ここでアルゼンチン対ナイジェリア戦のフジテレビ、青嶋達也アナウンサーの実況を挙げたい。

「メッシ、散らします。見ています。マキシロドリゲス、テベス。今メッシが中央。ミリートが並んでいます。みんなメッシを見ています。そのメッシからどうするか、3 人に囲まれた。テベス、テベス、マルティンス絡む。テベス、マスチェラーノ。」  
「メッシ。ミリート、メッシ、チャンスだ。メッシ。」

上述の実況に代表されるように、ボールを保持している選手の名前を連呼する実況や、言及回数が多い選手のフィールド上での位置を言及する実況が地上波では多く見られた。このことは、プレーに関する言及において、「体勢や存在」が地上波で多く言及されていることとも関係がある。

帰属に関する言及では地上波と有料放送に有意な差は見られなかったが、その内訳では、外見、内面、過去の業績、所属、能力、ファッション、チーム内での役割で差が出た。

「大きい」、「長身」、「小柄」といった外見に関して多く言及した地上波に対して、有料放送では、「21 歳」、「アルゼンチンの次代を担う選手」、「ベテラン」といった内面に関する言及が多く見られた。有料放送では画面を見るだけではわからない情報を多く言及するという構図が浮かび上がる。

所属に関しては、地上波では言及されない場合が多かったが、有料放送では、全部で 297 回と、言及された 357 人のほとんどで所属に関して言われたことになる。地上波では、ヨーロッパチャンピオンズリーグなどの地上波で放送のある試合に出場した選手や、日本人選手とチームメートである選手、日本の J リーグチームに所属している選手に、所属に関する説明が行われている場合が多かった。それに対して有料放送では、ほとんどの選手に試合開始直後、最初に説明を加えられるときに所属に関する説明がなされている場合が多かった。これは、有料放送では海外のリーグ戦を日常的に中継していることもあり、有料放送の視聴者に対して、「いつも見ているあのチームの選手です。」「みなさんにとっておなじみの選手です。」といったようなニュアンスがあることを表現している。その一方で、地上波の方では、特に視聴者と関係のある部分でのみ所属に関する言及が行われていることが考えられる。これは、コメントの引用に関して、全体、実況、引き分けチームで有料放送に多く見られたのも、所属チームに関する言及と同じ理由である場合が考えられる。

チームにおける役割は地上波に多かった。地上波では「キャプテン」「司令塔」「中盤の原動力」「エース」などといった表現が見られ、有料放送では「キャプテン」以外には「ディフェンスの要」「チームのバランサー」といった表現が見られた。いずれもその選手の役割を大まかに見て、一言で視聴者にその選手のイメージを伝える表現ではあるが、有料放送ではチームにおける役割を言いながらもその選手のプレースタイルを伝えている場合も見られた。

ボールの動きは全体を比較したときに有料放送に多かった。それに対して、地上波は全体と実況のみで、体勢や存在の言及回数が多かった。これは先述のスター選手を多く実況していることと関連しているが、ボールの位置を多く言及する有料放送に対し、選手を多く言及する地上波という構図が浮かび上がる。地上波では、自チームがボールを奪って攻めあがる際に、「クリスティアーノロナウドはゴール前にいる」や、「本田圭佑は外に絞った位置」といったように、選手、特にスター選手に多くの言及が行われた。

「すごい」や「すばらしい」といった対象のないものに対して情動的に言及する情動的方法は有料放送に多く見られた。従来、いわゆる「絶叫」は民間放送に多く見られるものと言われおり、今回の調査では地上波放送にそれが多いことが考えられた。しかし、早稲田大学にて行われたテレビ朝日角澤照治アナウンサーの講演<sup>26)</sup>で角澤氏が

『「注意を引き付けるような実況をしてくれ」ということで、それを 5 分刻みぐらいに要求されている時期がありました。ただ、試行錯誤するうちに、それだけでは視聴者との乖離（かいり）も生まれてくるということで、今テレビ朝日は大分変わってきています。間違った方向とも思わないし、よい方向とも思わなかったのですが、みんながみんな何が正しいか分からずに試行錯誤をしていた時期が 2000 年～2001 年ごろだったかなと思います。』

と述べているように、最近では製作者側が意図的に絶叫することを減らしていることが述

べられている。今回分析を行った試合の中にテレビ朝日の中継した試合は含まれていないが、民間放送の中継が含まれていることを考えると、今回の調査でも、実況者や放送局のそういった意図が表れたのではないだろうか。ただ、今回の調査対象とした 11 試合のうち、7 試合が NHK による放送であり、実況者も NHK のアナウンサーであるため、もともと絶叫が民間放送に比べて少ないと言われている影響も考えられる。

エラーの言及に関しては、全体、解説、負けチームで有料放送に多く見られた。これは、多くの人が見ている地上波ではネガティブな表現を用いることが避けられていることを示唆している。

行動の叙述の表現は有料放送が全体と実況で、地上波と比べて多かった。「狙っている」、「落ち着いている」等といった表現は目には見えるものの、身体の大きさのように、明らかに表出したり、数値に表れたりするものではない。「外見」「内面」のとき同様に見るだけではわからないものを有料放送では多く言及している。

今回の調査では、ワールドカップの実況中継のうち、人物に対してなされた実況解説だけを分析した。そのため、チームに対する言及の分析は行っていない。今後の研究課題として、チームに対する言及を分析することによって、地上波と有料放送で違った結果が見られるかも知れない。また、Barnett<sup>27)</sup>や森田<sup>28)</sup>が述べているような、スポーツ中継を通じてステレオタイプが形成されるということも見られるかも知れない。

また、言うまでもなく、スポーツ実況を決定付ける要因は人物に対する説明の内容だけでなく、声の大きさ、説明のタイミング、解説者との掛け合い等もあり、今後はこれらの研究が望まれる。実況アナウンスの発展はこれまで、個人のアナウンサーの特徴的なアナウンスによって支えられた面も大きい。それらを一つ一つ細かに分析した研究も望まれる。

---

<sup>26)</sup> テレ朝・角澤アナが語る、スポーツ実況の内幕、  
<http://bizmakoto.jp/makoto/articles/0907/24/news005.html>、2011 年 1 月 4 日閲覧

<sup>27)</sup> Barnett, S., 1990, *Games & Sets: The Changing Face of Sport on Television*, BFI London.

<sup>28)</sup> 森田浩之、2009、「神話・ステレオタイプ」、『メディアスポーツ解体＜見えない権力＞をあぶり出す』、125-160、NHK ブックス

## 5. まとめ

今回の調査では 2010 年に南アフリカで行われた FIFA ワールドカップ南アフリカ大会の予選リーグの 11 試合において、実況者、解説者の言及した、人物に対する説明の分析を行い、地上波放送と有料放送の比較を行った。

その結果、地上波は、有料放送に比べて、人物の名前を呼ぶ回数が多く、外見やチームにおける役割、体勢や存在に関する言及が多かった。それに対して有料放送は、所属やボールの動き、行動の叙述の表現などといった項目で地上波に比べて言及回数が多かった。

これより、目に見えるものに多く言及し、人に関して多く言及しているのは地上波であり、目に見えないものに多く言及し、ボールに関して多く言及しているのが有料放送であるということが明らかになった。

## 引用・参考文献一覧

### 日本語

- 海老塚修、2001、『スポーツマーケティングの世紀』、電通
- 杉山茂、2003、『テレビスポーツ 50 年』、角川インタラクティブメディア
- 永瀬治郎、1999、「スポーツ中継アナウンサーと解説者の評価について」、『専修国文』、65, 1-16.
- 西本卓也、光部杏里、渡辺隆行、2006、「ラジオ放送番組におけるスポーツ実況中継の分析」『電子情報通信学会技術研究報告』106(57)
- 日吉昭彦、2003、「テレビ中継は何を語ったか」、『ワールドカップのメディア学』、173-198、大修館書店
- 深沢弘樹、2010、スポーツ実況中継における「物語」ー全国高校サッカー選手権決勝戦を例にー、山梨学院大学経営情報学論集(16)、109-125
- 松原望、1996、『わかりやすい統計学』、93-95
- 森田浩之、2009、「神話・ステレオタイプ」、『メディアスポーツ解体＜見えない権力＞をあぶり出す』、125-160、NHK ブックス

### 外国語

- Barnett, S., 1990, Games & Sets: The Changing Face of Sport on Television, BFI London.
- Bryant, J., Comiskey, P. And Zillmann, D. ; Drama in sports commentary, Journal of Communication, 27(3), 1977
- Comiskey, Paul, Bryant, Jennings and Zillmann, Dolf: Commentary as a substitute for action, Journal of Communication, 27(3)

### 新聞

- 朝日新聞、(プロ野球クライシス：中) テレビ依存、曲がり角、2010 年 12 月 16 日、スポーツ面
- 日本経済新聞、「有料放送の競争激化」、2010 年 10 月 14 日、11
- 日経産業新聞、「有料放送、スポーツ前面に」、2010 年 11 月 12 日、7

### URL

- ビデオリサーチ社ホームページ 全局高世帯視聴率番組 50、  
<http://www.videor.co.jp/data/ratedata/all50.htm>、2011 年 1 月 4 日閲覧
- ビデオリサーチ社ホームページ 2009 年年間公世帯視聴率番組 30(関東地区)、  
<http://www.videor.co.jp/data/ratedata/best30.htm>、2011 年 1 月 4 日閲覧
- テレ朝・角澤アナが語る、スポーツ実況の内幕、  
<http://bizmakoto.jp/makoto/articles/0907/24/news005.html>、2011 年 1 月 4 日閲覧

## 謝辞

本論文を書くにあたり、あたたかいご指導をして下さった主査のリー・トンプソン教授に深く感謝いたします。ご多忙の中、副査を引き受けてくださった宮内孝知教授、寒川恒夫教授に厚く御礼申し上げます。

今思い出せば、トンプソン先生との出会いは私が大学1年生のときの社会学の授業でした。当時はこれほど長くお世話になるとは想像もしていませんでした。本当にありがとうございました。

学部生時代にお世話になり、大学院生になってからも何度も助言くださった中村千秋先生、ありがとうございます。

池本淳一さん、高井昌吏さん、大変貴重な助言をありがとうございました。

スカパー!の映像を入手するにあたりご協力いただいた古賀康彦さん、佐野裕文さん、ありがとうございました。両名のご協力がなければ、今回の研究は不可能でした。

パソコン操作の苦手な私にアドバイスくださった黒須希さん、白川由貴さん、ありがとうございました。

最後に、2年間という短い時間ではありましたが、リー・トンプソン研究室のみなさん、お世話になりっぱなしでした。ありがとうございました。